

令和3年度

柏市学力・学習状況調査
結果報告及び改善案

柏で育む4つのC
「学び続ける力の育成」

令和3年8月

柏市教育委員会

令和3年度 柏市学力・学習状況調査結果報告書 目次

◆教育長巻頭言 チームで動く	1
■柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について	2
□柏市学力・学習状況調査内容について	
□柏市学力状況結果一覧	
□過去5年間の学力状況の推移一覧	
■「学び続ける力」を可視化するための「4つのC」について	8
■【国語】学力状況調査結果（小2～中3） 及び指導改善案（小1・小3・小5・中2）	13
■【社会】学力状況調査結果（中1～中3） 及び指導改善案（小6・中2）	26
■【算数・数学】学力状況調査結果（小2～中3） 及び指導改善案（小2・小3・小5・中2）	31
■【理科】学力状況調査結果（中1～中3） 及び指導改善案（小6・中1）	43
■【英語】学力状況調査結果（中1～中3） 及び指導改善案（中3）	48
■生活・学習意識調査結果及び学力との関連について	53
□学校図書館	
■分析用エクセルシートの使用法	56

チームで動く

柏市教育委員会

教育長 河 篤 貞

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、長期休業を余儀なくされました。柏市では、子どもたちの学びを止めないように、授業動画の配信、双方向でのオンライン授業の実施など最大限の配慮を行いました。その取り組みが、どのような効果をもたらしたのか、きちんと検証していくことが大切です。

さて「柏市学力・学習状況調査」は、子どもたちの学習状況を把握し、指導の改善に生かすことを目的としています。これまで部分改訂版として問題を大きく変更することなく、経年変化やその学年の特徴をとらえてきました。

今年度は、学習指導要領の改訂と必要な資質能力の育成の視点から、毎年問題が変わる全面改訂版へと移行いたしました。これにより、これまで明らかとなつたつまずき傾向に加えて、新たな視点でのつまずき発見が可能となつたうえに、学校でのきめ細やかな分析にもつながるものとなりました。

結果の概要としましては、市全体として、小中学校共にすべての教科・学年において、全国とほぼ同程度の結果であり、概ね良好な状況といえます。しかし、各校、子ども一人一人の学びの状況に目を向けると、それぞれ課題となるものが見えてきます。これまでの蓄積されたデータと今年度の結果を活用し、より細やかな分析を行うことが必要です。

本調査結果を自校の状況把握に留めるのではなく、学校がチームとなって改善に向けた具体的な手立てを講じ、子どもの変化を見届けることが、本調査を継続して実施している趣旨なのです。

令和を生きていく柏市すべての子どもたちが、自身の可能性を引き出し、個別最適な学びと、協働的な学びの実現の中で、生きていくために必要な資質能力が育まれていくことを切に願っております。

柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について

実施日 令和3年4月6日（火）～28日（水）の期間中で、各学校が設定した日

実施校 柏市内小中学校（小学校 42校 中学校 21校）

実施学年及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校	2年	3,444人	2～6年は、国語及び算数（2教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	3年	3,487人	
	4年	3,482人	
	5年	3,635人	
	6年	3,692人	
中学校	1年	3,401人	国語、社会、数学、理科、英語（5教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	2年	3,220人	
	3年	3,088人	

柏市学力・学習状況調査内容について

【学力調査事項】

- ・児童生徒の前年度の履修内容を調査
- ・出題内容は、学習指導要領の評価の観点に基づいて出題
- ・基礎問題と活用問題で構成されており、活用問題は「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」を問う問題で出題
- ・国語と英語は全学年で聞き取り問題と作文を出題
- ・記述論述問題を一定量（35～50%）出題し、作図や作文の問題、論理的思考力や考えるプロセスを考慮した問題を出題

【生活・学習意識調査事項】

- ・学習意欲、学習習慣、生活習慣、学校図書館に関するアンケート調査
小2から中3まで、ほぼ同一設問で調査
- ・調査項目のうち18項目は、「4つのC」を図る指標として数値化

【学力調査分析内容について】

学年・教科別に正答状況を数値で示す。当該学年教科について、全国の平均正答率と本市の平均正答率を比較し、分布図やレーダーチャート図に整理したもので全体傾向を把握できるようにした。調査結果から把握できる、子供たちの良さ（強み）と課題を示し、良さを伸ばしつつ、課題を克服していくための授業改善について、改善の方向性や具体的指導例を示した。

【生活・学習意識調査について】

4つのCとの関連、学校図書館活用、学習状況との比較を行い、よりよい授業改善に資する内容を記載した。

柏市学力状況結果一覧

1 小学校の観点別結果概要(段階別評価)

学年		国語					算数					
		基礎・活用		観点			基礎・活用		観点			
		基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
2年	市町村 平均正答率	77.1	88.4	55.9	91.7	67.7	57.5	82.5	56.1	86.6	69.7	68.9
	全国 平均正答率	76.9	87.7	56.8	91.5	67.6	60.5	83.0	89.7	58.5	86.6	71.7
3年	市町村 平均正答率	70.3	79.5	52.1	71.0	63.3	50.6	75.8	80.1	60.4	79.4	60.3
	全国 平均正答率	72.1	81.0	54.4	71.3	65.8	58.0	75.5	79.7	60.5	79.2	59.6
4年	市町村 平均正答率	68.2	73.6	55.9	70.5	59.8	50.4	72.2	78.0	57.1	74.9	62.4
	全国 平均正答率	69.3	73.3	60.1	70.1	63.0	58.2	70.9	76.9	55.6	73.4	61.8
5年	市町村 平均正答率	66.9	72.0	55.4	69.4	59.3	48.4	64.9	69.9	55.4	68.0	53.8
	全国 平均正答率	67.8	72.5	57.4	69.5	61.6	55.0	65.3	70.7	55.0	68.8	52.8
6年	市町村 平均正答率	60.5	64.1	52.3	58.9	58.5	48.9	67.6	72.7	52.1	73.3	56.6
	全国 平均正答率	62.5	65.8	55.0	60.2	61.7	57.6	68.8	73.8	53.8	74.8	57.3

1 中学校の結果概要(目標準拠型評価)

学年		国語				社会				数学				理科				英語			
		観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率			
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
1年	目標値	67.4	72.3	63.5	65.0	54.3	57.2	50.4	47.2	68.3	71.3	58.1	64.1	58.2	58.2	58.3	53.3	78.2	74.8	84.1	88.6
	市町村 平均正答率	70.3	73.6	67.4	69.1	54.8	56.1	53.1	50.1	68.8	71.9	58.3	63.9	59.5	57.3	61.1	62.6	83.7	80.7	88.9	91.8
	全国 平均正答率	71.4	75.0	68.5	71.6	54.3	56.5	51.3	48.3	68.2	71.5	57.3	63.4	57.2	55.7	58.3	56.0	81.0	77.6	86.9	90.5
	評価	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	△	△	△	≧

学年		国語					社会					数学					理科					英語					
		観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率	観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率	観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率	観点別正答率		観点別正答率		観点別正答率						
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞くの能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な事象についての知識・理解・技能	社会的な事象についての知識・理解・技能	社会的な事象についての知識・理解・技能	社会的な事象についての知識・理解・技能	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方・考え方の能力	数学的な見方・考え方の能力	数量や図形などについての知識・理解・技能	自然事象への関心・意欲・態度	科学的な事象・実験の技能	科学的な事象・実験の技能	科学的な事象・実験の技能	科学的な事象・実験の技能	科学的な事象・実験の技能	英語や外国語への関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語表現の能力	言語や文化についての知識・理解・技能		
2年	目標値	65.3	63.3	77.5	52.1	56.8	73.0	55.2	50.5	51.9	53.8	56.4	59.7	51.1	49.7	67.0	57.9	53.5	55.8	52.1	51.8	57.6	56.7	57.9	41.5	62.4	58.8
	市町村 平均正答率	69.7	66.5	79.2	56.2	59.3	79.0	55.0	50.4	52.1	53.3	56.3	57.8	49.7	49.2	65.0	55.7	48.7	56.8	51.2	42.3	47.2	56.1	57.6	39.2	61.8	59.1
	全国 平均正答率	68.5	66.0	81.5	54.2	59.0	76.9	55.3	51.0	52.3	53.8	56.6	58.6	49.8	49.3	66.0	56.9	52.0	53.7	52.1	49.7	53.7	54.5	56.3	37.4	60.3	57.0
	評価	≧	≧	≧	≧	≧	△	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	▼	▼	≧	≧	≧	≧	≧
3年	目標値	65.5	65.6	66.8	58.8	61.3	68.1	55.4	46.4	50.8	55.8	56.0	55.5	43.5	47.0	58.2	58.3	57.4	50.0	53.6	65.0	60.2	62.8	61.1	50.6	65.9	66.5
	市町村 平均正答率	70.8	70.8	71.6	63.7	66.7	73.8	55.4	48.2	51.9	56.2	55.4	54.1	40.2	43.2	57.8	57.5	57.4	51.1	53.5	64.4	60.7	65.2	61.8	52.8	67.5	70.6
	全国 平均正答率	68.5	68.7	70.7	60.8	64.9	71.1	55.5	47.2	51.1	56.5	55.6	54.7	40.6	44.3	57.9	58.8	58.1	51.3	53.1	66.1	62.5	62.9	59.3	47.6	67.3	66.9
	評価	△	△	≧	≧	△	△	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧	≧

※「△」=目標値+5ポイント 「≧」=目標値±5ポイント 「▼」=目標値-5ポイント

目標値:全国の先生方への聞き取り調査とプレテストの結果より統計処理した上で設定

(表1) 各学年の観点別正答率

【小学校の結果】

令和3年度の結果の概要を見ると学年別、教科別ともに、全学年とも全国とほぼ同程度で、概ね良好な状況といえる。

各教科の基礎・活用の結果を見ると、国語においては、小学2年、4年の基礎について、全国値を上回った一方で、活用については全学年で下回っている。また、観点別にみると主体的に学習に取り組む態度について、全学年5ポイント以上下回っており、知識の習得から活用・汎用へと授業の視点を広げていくことが重要である。算数においては、小学2年、3年、4年は基礎の全国値を上回り、小学4年、5年では活用が上回っている。また観点別に見ると、上回っている学年がある一方で、主体的に学習に取り組む態度については全学年で下回り、今後の指導改善への課題と言える。

次にステップ別の表を見ると、ほぼ全国値と同程度ではある。しかし小学6年生の国語については、達成率が全国値と比べ低くなっており、ステップ3へとつなげていくことが求められる。

1 小学校のステップ別結果概要(段階別評価)

学年		国語						算数							
		評価	達成率	ステップ別人数比				評価	達成率	ステップ別人数比					
				ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4			ステップ5	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4	ステップ5
2年	市町村	≧	75.0	5.7	19.3	26.4	31.1	17.6	≧	73.7	5.6	20.7	28.8	31.3	13.6
	全国		76.3	5.6	18.1	27.9	31.3	17.0		72.8	6.9	20.3	28.6	30.2	14.0
3年	市町村	≧	73.7	7.8	18.5	30.5	25.0	18.3	≧	72.6	8.5	19.0	24.5	29.2	18.9
	全国		75.8	6.7	17.5	29.5	28.6	17.7		72.0	8.1	19.9	25.3	29.0	17.7
4年	市町村	≧	77.0	4.3	18.8	30.5	28.3	18.1	≧	72.7	8.6	18.7	26.0	30.2	16.5
	全国		76.3	5.7	18.0	25.6	31.5	19.2		69.4	9.9	20.7	25.4	29.5	14.5
5年	市町村	≧	66.6	7.3	26.1	29.5	22.6	14.5	≧	68.1	9.6	22.3	28.5	26.5	13.1
	全国		70.9	6.9	22.1	25.6	28.7	16.6		67.4	10.3	22.4	26.7	26.9	13.7
6年	市町村	▼	62.7	8.5	28.8	27.6	23.0	12.1	≧	67.5	8.8	23.6	27.2	26.7	13.7
	全国		69.4	8.4	22.2	25.5	29.7	14.2		67.8	9.0	23.3	26.5	27.9	13.4

※1) 段階別評価:学力を4段階の「ステップ」に順序付けて分類する方法で「潜在ランク理論」に基づいて設計

※2) 達成率とは、ステップ3～ステップ5を合わせた数値

※3) 全国の達成率に対し「△:上回っている」「≧:同程度」「▼:下回っている」

【中学校の結果】

学年別、教科別それぞれを見ると、全学年とも全国とほぼ同程度で、概ね良好な状況といえる。

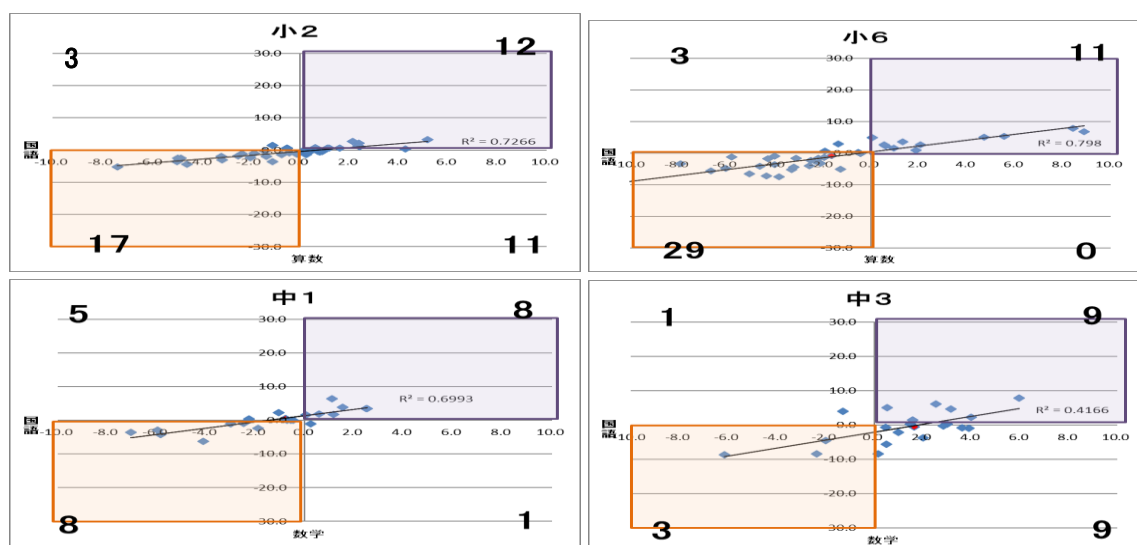
各教科の観点の結果を見ると、中学1年は、社会、数学、理科、英語において教科正答率及び観点別正答率ともに全国値を上回っている項目が多い。中学2年、中学3年は、国語と英語については良好である。しかし、中学2年の理科においては、全国値との差が大きいことが見て取れる。このことは、昨年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実験や自然観察の制限があったことが要因と推測される。理科に対する生徒の「関心・意欲・態度」は高いという結果があるものの、「技能」や「知識・理解」が低いということを鑑みると理科における実験や観察などの体験は、学習において極めて重要だと言える。

図1は、小学2年、小学6年、中学1年と中学3年の結果について、縦軸を算数・数学、横軸を国語として、標準スコアとの差を表したものである。中心が全国標準となり、右上に位置する学校は、どちらの教科でも標準スコアを上回っている良好な結果となる。反対に、左下に位置する学校は、どちらの教科でも標準スコアを下回っており課題がある結果となる。なお、四隅の数については、各象限内の学校数である。1校分多いのは、柏市の平均値も含まれるためである。

小学6年は、多くの学校が中心から左下に位置している。教科における顕著な偏りは見られないが、国語のみに課題のある学校が数校存在する。一方で中学3年は、数学に課題のある学校が数校見られることに加え、多少ばらつきが見られる。国語・算数/数学におけるそれぞれの見方・考え方を生かして、児童生徒がバランスよく3つの観点の力がつくよう指導していく必要がある。

また、小学6年と中学1年の分布の様子に大きな変化が見られないことから、今後も小中の接続が重要だと言える。各中学校区で「子どもをどう育てるか」など協議・共有を行い、授業改善につなげていくという視点も大切にしたい。

これらは、柏市全体の結果概要なので、各学校の結果すべてが当てはまるわけではない。従って、各学校に送付されている結果について、校内で変化や相関を詳細に分析し、手立てを講じていく必要がある。



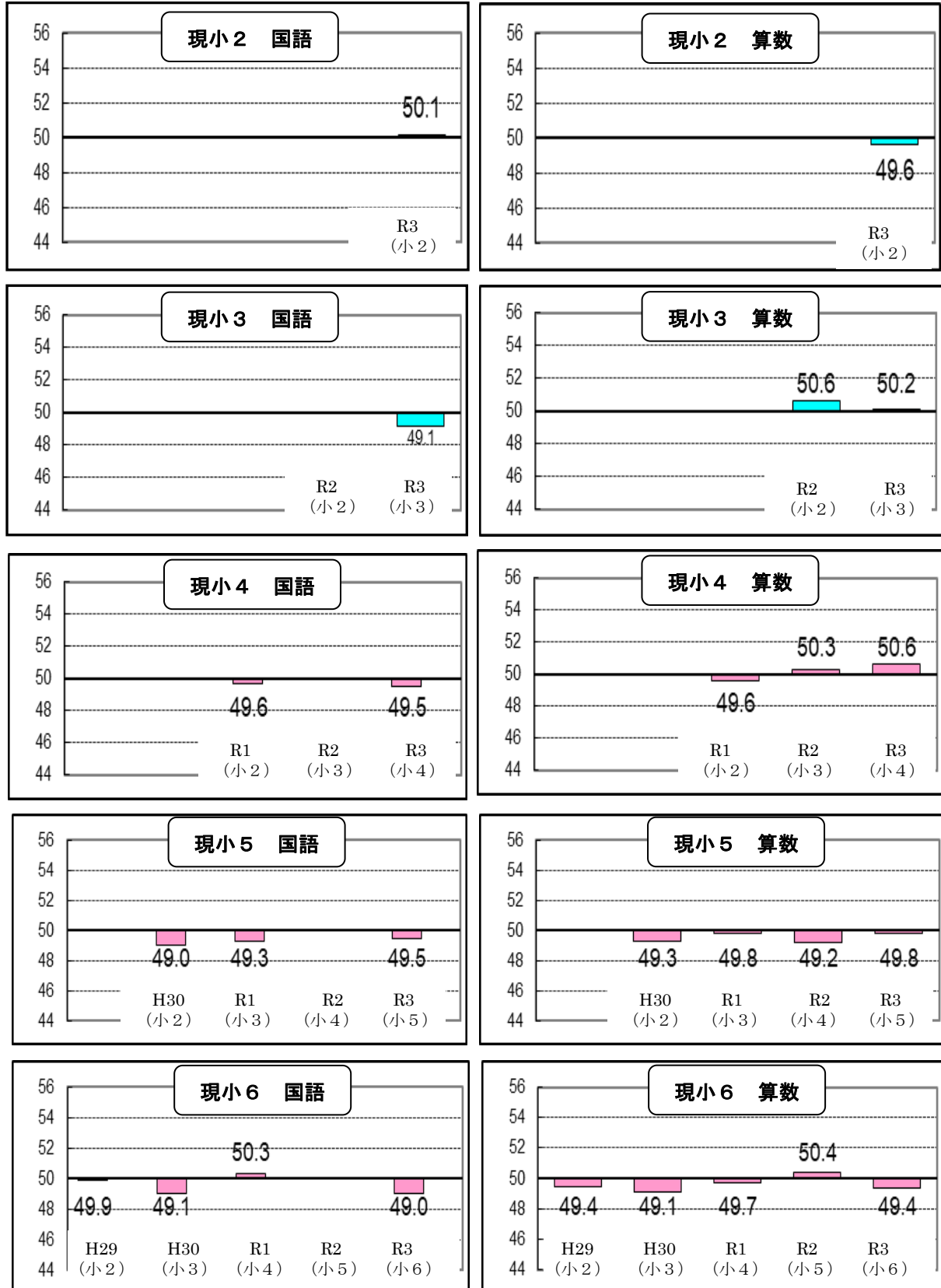
(図1) 標準スコアとの差による学校の分布 (国語-算数/数学)

過去5年間の学力状況の推移一覧

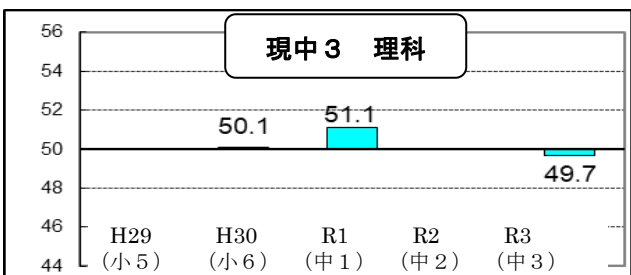
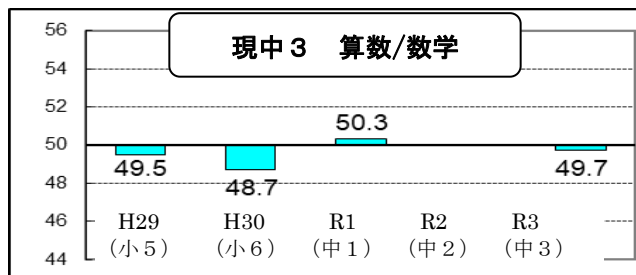
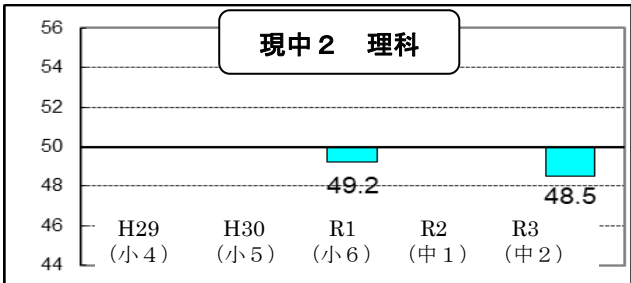
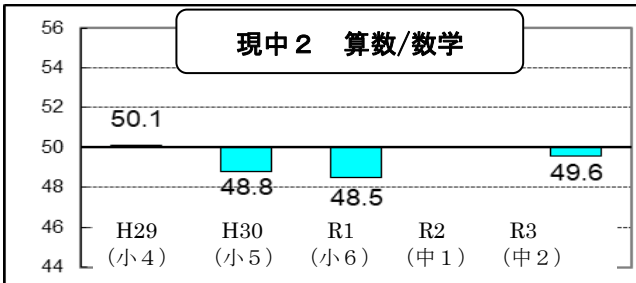
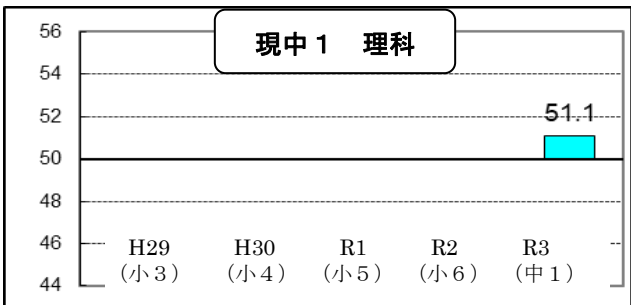
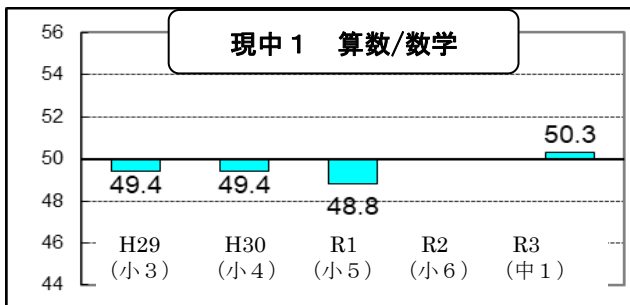
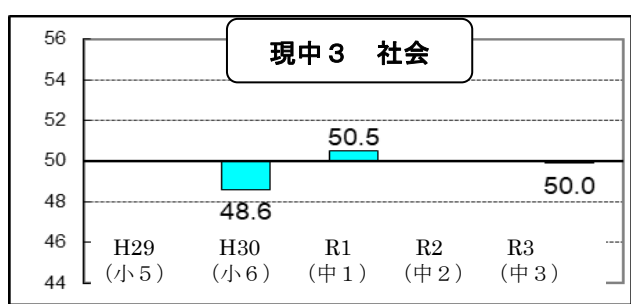
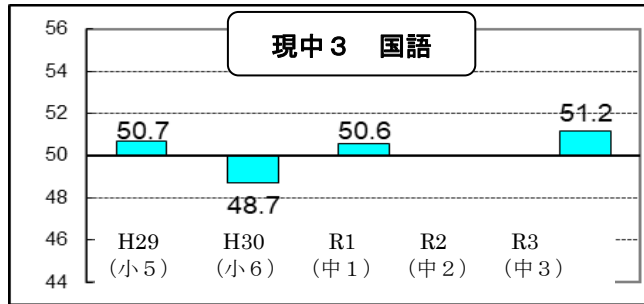
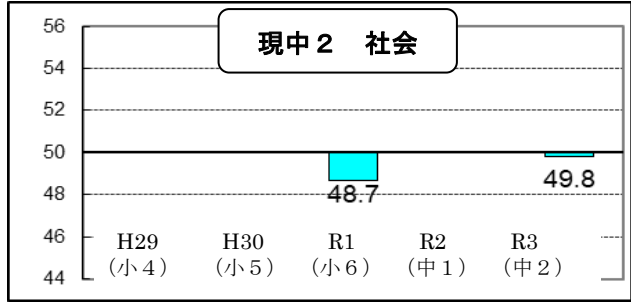
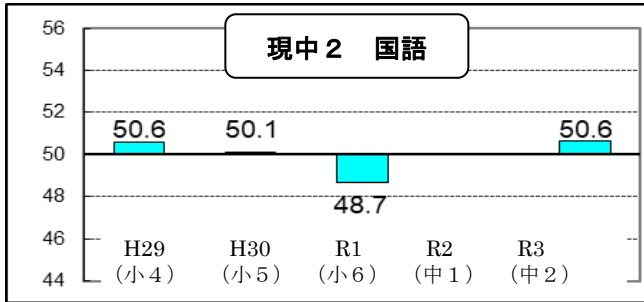
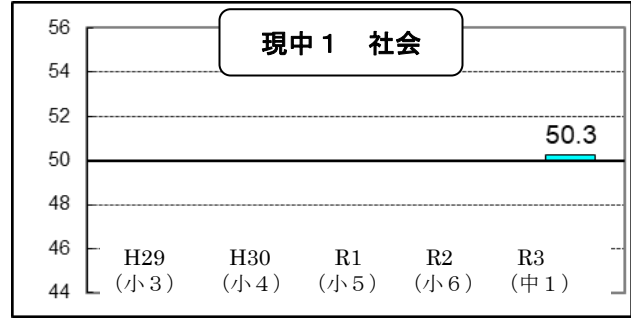
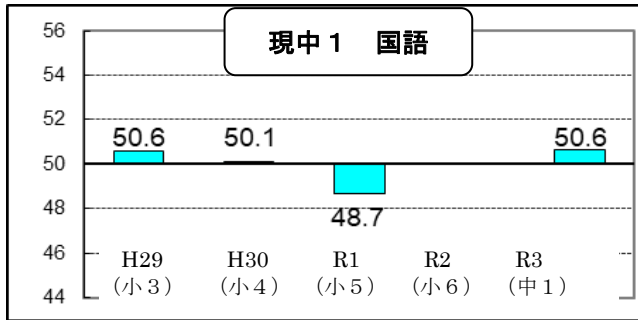
過去5年間の児童生徒の変化を標準化得点によりグラフ化したものを示す。なお、令和2年度の算数については、一部の学校のみの実施となる。

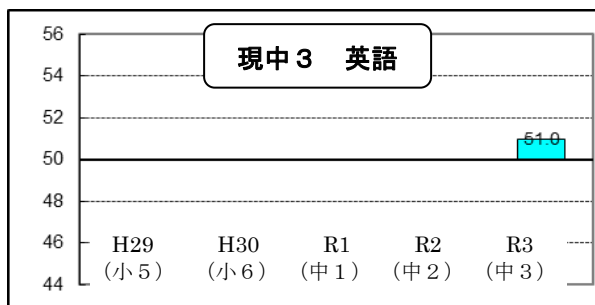
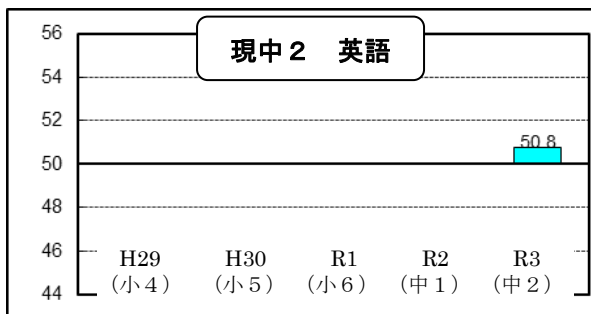
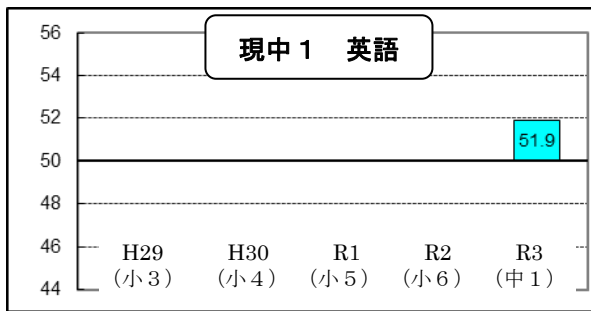
【中央の線が標準スコアとなり、良い場合は上向き、劣る場合は下向きに表示】

《小学校の概要》



《中学校の概要》





教職員の若年化が進むなか、授業の質を確保することは柏市喫緊の課題である。そういった視点で、小中学校の概要を見ると、概ね標準スコアを維持できていることは、教職員の日々の授業成果と言えるであろう。今後も、実態の把握を積極的に行うとともに、児童生徒が意欲をもって学ぶことができるよう、授業改善を進める必要がある。

「学び続ける力」を可視化するための「4つのC」について

柏市教育委員会では、第五次総合計画前期基本計画及び柏市教育振興計画後期基本計画において児童生徒に身につけたい力を「学ぶ意欲と学ぶ習慣」としてきた。

児童生徒が大人として活躍する21世紀中盤から後半の社会は、知識基盤社会と言われ、“正解と言われる解”の無い課題に対して、他者と協力し合いながら最善を尽くし、新たなものを創造する力が求められている。知識を利用しながら定型的な処理をする仕事は、第四の産業革命と言われるロボットの台頭により無くなるだろうと言われ、数多くの仕事が消えて無くなる仕事リストに掲げられ、今の小学生の65%は、現在存在しない職業に就くだろうとも言われている。(キャッシュ・デビットソン 2013)

このような近未来社会へ向けて「学力」を育む時、「学力」を「学んだ結果」として捉えるのではなく、「学ぶ力」として捉えることが、21世紀を生き抜く為の「学力」の実態に即していると考えられる。そして、学ぶ力の根底となるものが学ぶ意欲と学ぶ習慣である。ここに示す4つの力「見通す力(Concept)」「挑戦する力(Challenge)」「関わり合う力(Communication)」「自律する力(Control)」は、変化の激しい時代を生き抜く柏市の児童生徒に身に付けて欲しい力である。即ち「4つのC」＝学ぶ力であり、それは困難に直面したとき乗り越える為に学ぼうとする力であり、生涯学び続ける力である。

今年度より、第2次柏市教育振興計画の学校教育分野の基本方針に基づいて4つの力(4つのC)の枠組みを維持しつつ、児童生徒に身につけたい力を定める「学び続ける力」、「多様性の尊重」に関連する力を中心に再整理した。令和2年度までの学習状況調査では、児童生徒一人一人の「4つのC」の定着状況を数値化できるよう、全学年共通で40の質問項目を設定していた。今回の改訂により、「4つのC」の該当項目を18とし、自校における分析をさらに活性化できるように改善を図った。この数値が63校共通の指標となり、児童生徒の「学ぶ力」が全校で共有化され、指導改善の指標となることを目指すものである。

4つの力(4つのC)はこう決まった

平成25年度第2回調査結果から、学校が好き、国語や算数が好きと回答する児童生徒の割合が正答率も高く、学ぶ意欲と正答率の相関関係が認められた。さらに、好きと回答する割合は、小学校高学年から急激に低下し、その低下と正答率の低下にも相関が認められ、学ぶ意欲を持続することが課題であると認識された。

さらに、学ぶ習慣の指標とされる家庭学習時間30分以内と回答する児童生徒が、小学校4年生で50%存在するが、中学校3年でも40.6%存在するという事実を把握し、学ぶ習慣を身につけることの重要性も認識された。

平成26年度第3回調査結果を元に、児童生徒の学ぶ意欲と学ぶ習慣の状況について分析を行った。分析の結果から、中学校区単位で取り組んだり、学校全体の授業改善を通して取り組んだり、組織的に授業における指導改善を行った学校で、一定の効果が見られた。

このことから、意欲と習慣に関する指標を明確に設定し、校内や中学校区において共通目標を持って取り組めるようにすることが重要であることがわかった。これからの子どもたちに必要な力を、学校管理職・学校教職員・市役所事務系職員・指導主事・管理主事等総勢50名近くにより、複数回のブレインストーミングを通して抽出されたキーワードが、「見通す力」「挑戦する力」「関わり合う力」「自律する力」の4つの力である。

当初、「挑戦する力」と「関わり合う力」の2つの意欲、「見通す力」と「自律する力」の2つを習慣とする考えもあったが、4つの力それぞれに、意欲的に取り組むことと、習慣化することの両面があるとの結論に至り、40項目を評価指標とした。令和3年度より、質問を18項目に再整理した。

4つの力（4つのC）質問項目一覧

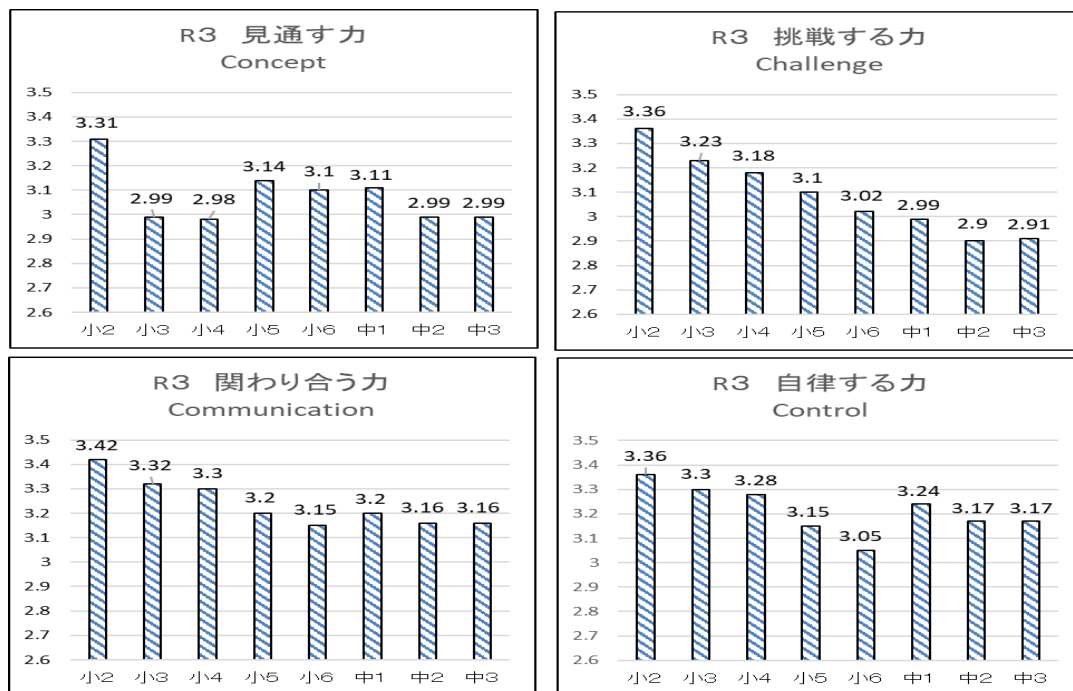
見出し	質問項目	小学校2年生用	小学校3・4年生用	小学5・6年生用	中学校1・2・3年生用
Concept（見通す力）					
夢・目標	1	しょうらいのゆめはありますか。	しょうらいのゆめはありますか。	しょう来の夢や目標を持っていますか。	将来の夢や目標を持っていますか。
計画	3	しゅくだいやべんきょうをやる時間をきめてやっていますか。	しゅくだいやべんきょうをやる時間をきめてやっていますか。	ものごとに取り組む時、計画を立てて取り組んでいますか。	物事に取り組むとき、計画を立てて取り組んでいますか。
振り返り	17	じゅぎょうのあと、わかったことわからなかったところがいえますか。	じゅぎょうのあと、わかったことわからなかったところがいえますか。	じゅぎょうのあと、わかったこと、わからなかったことを整理することができますか。	授業のあと、わかったこと、わからなかったことを整理することができますか。
わかる努力	18	わからないことがあったとき、人にきいたり、じぶんですらべたりしていますか。	わからないことがあったとき、人に聞いたり、自分でしらべたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり自分で調べたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり自分で調べたりしていますか。
改善	6	なにかをやったあとに、もっとよいやりかたがないかかんがえていますか。	なにかをやったあとに、もっとよいやりかたがないかかんがえていますか。	ものごとに取り組んだ時、どうすればもっと良くできるかかんがえていますか。	物事に取り組んだ時、どうすればもっと良くできるかかんがえていますか。
挑戦する力（Challenge）					
目標への努力	2	そのゆめにむかってがんばっていますか。	そのゆめにむかってがんばっていますか。	しょう来のゆめや目標に近づくために努力をしていますか。	将来の夢や目標に近づくために努力をしていますか。
粘り強さ	5	こまったときに、あきらめずにいろいろなやりかたをかかんがえていますか。	こまったときに、あきらめずにいろいろなやりかたをかかんがえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろいろな方法を考えられていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろいろな方法を考えられていますか。
挑戦	4	むずかしいとおもうことでもちょうせんしていますか。	むずかしいと思うことでもちょうせんしていますか。	自分には難しいことでも、失敗を恐れないでちょうせんしていますか。	自分には難しいことでも、失敗を恐れないでちょうせんしていますか。
関わり合う力（Communication）					
相手の立場に立って考える力	10	学校で、ともだちの気持ちをかんがえてこうどうしていますか。	学校で、ともだちの気持ちを考えて行こうとしていますか。	ふだんの生活の中で、相手の立場・気持ちを考えて行動していますか。	普段の生活の中で、相手の立場・気持ちを考えて行動していますか。
思いやり	9	ともだちにやさしくしていますか。	友だちにやさしくしていますか。	人に思いやりの気持ちをもってせっしていますか。	人に思いやりの気持ちをもって接していますか。
伝える力	11	先生やともだちに言いたいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちに言いたいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく説明することはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく説明することはできますか。
傾聴	14	はなしあいをするとき、ともだちのはなしをしっかりときいていますか。	話し合いをするとき、友だちの話をしっかりと聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えを最後まで聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えを最後まで聞いていますか。
相談する力	12	いやなことがあったときに、人にそうだんしていますか。	いやなことがあったときに、そうだんできる人、そうだんするほうぼうがありますか。	なやんでいること、こまっていることがあった時、人に相談していますか。	悩んでいること、困っていることがあったとき、人に相談していますか。
協働	21	クラスのもくひょうにむかって、先生やともだちといっしょにがんばることができますか。	クラスのもくひょうにむかって、先生や友だちといっしょにがんばることができますか。	クラス全体で目標達成や問題かい決に向かって、周りの人と協力することができますか。	クラス全体で目標達成や問題解決に向かって、周りの人と協力することができますか。
地域との関わり	19	がっこうでべんきょうしたことを、だれかのためにやく立てたいとおもいますか。	学校でべんきょうしたことを、だれかのためにやく立てたいとおもいますか。	学校で学んだことを、地域や社会のために役立てたいと思いますか。	学校で学んだことを、地域や社会のために役立てたいと思いますか。
自律する力（Control）					
主体性	8	じぶんのことはじぶんでやろうとしていますか。	自分のことは自分でやろうとしていますか。	自分がすべきと思うことを自ら進んでやっていますか。	自分がすべきと思うことを自ら進んでやっていますか。
自己肯定感	7	じぶんのことがすきですか。	自分のことがすきですか。	自分のことが好きですか。	自分の長所・短所をふくめ、自分のことを受け入れることができますか。
規範意識	22	ルールをまもることができますか。	ルールをまもることができますか。	学校のきそくやクラスで決めたことについて、なぜそれが必要か、なぜそれを守らなければいけないかかんがえることができますか。	学校の規則やクラスで決めたことについて、なぜそれが必要か、なぜそれを守らなければいけないかかんがえることができますか。

4つの力（4つのC）の状況について

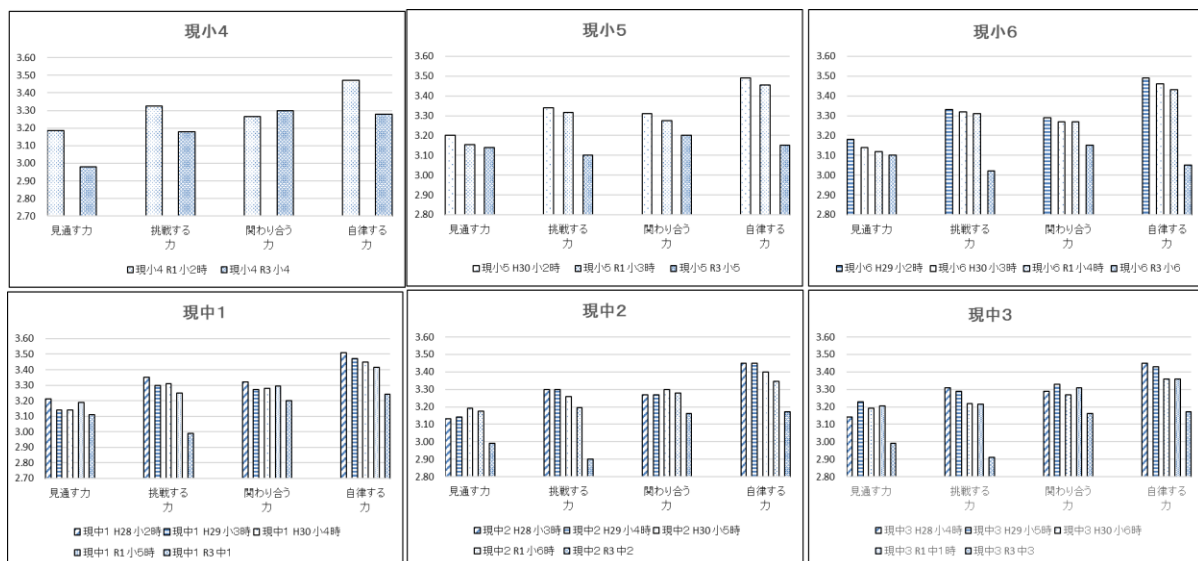
柏市全体では、4つの力の総合平均が、平成28年度3.24、平成29、30年度3.26、令和元年度3.25、今年度3.15となっている。今年度低下した理由としては、質問項目の精選を図ったことによる影響が考えられる。特に（図3）における挑戦する力（Challenge）の低下が著しいことについては、これまで高い傾向があった友だちからの「承認経験」や学習における「発見する喜び」を問う質問項目の削除による影響が考えられる。

令和3年度学年別（図2）でみると、見通す力（Concept）の小学4年から小学5年にかけて、関わり合う力（Challenge）の小学6年から中学1年にかけて、自律する力（Control）の小学6年から中学1年で上昇している。その他については、概ね学年を経ていくうちに低下する傾向がある。

同一集団（図3）における変容を見ると、4つのCは、学年が上がるにつれ、低下傾向がある。特に「自律する力」においてその傾向が強く、反対に見通す力では、やや弱い。



（図2）「4つのC」各学年平均値



（図3）「4つのC」同一集団で見る経年変化

令和3年度 生活・学習意識調査 結果一覧表(令和元年度と比較して)

		4 C 総 平均	意 欲	習 慣	見通す力		挑戦する力		関わり合う力		自律する力	
					意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣	意 欲	習 慣
R1	小2	3.31	3.34	3.29	3.23	3.14	3.37	3.28	3.25	3.28	3.49	3.45
	小3	3.30	3.34	3.26	3.23	3.08	3.38	3.25	3.27	3.28	3.47	3.44
	小4	3.28	3.32	3.24	3.20	3.04	3.40	3.22	3.26	3.28	3.44	3.42
	小5	3.29	3.30	3.27	3.18	3.20	3.26	3.24	3.31	3.28	3.45	3.38
	小6	3.25	3.26	3.24	3.15	3.20	3.22	3.17	3.29	3.27	3.38	3.31
	小学計	3.29	3.31	3.26	3.20	3.13	3.33	3.23	3.28	3.28	3.44	3.40
	中1	3.27	3.28	3.27	3.17	3.24	3.26	3.17	3.31	3.31	3.36	3.36
	中2	3.14	3.14	3.14	2.97	3.04	3.12	3.02	3.20	3.21	3.28	3.27
	中3	3.10	3.11	3.09	2.92	3.02	3.11	2.94	3.19	3.18	3.24	3.23
	中学計	3.17	3.18	3.17	3.02	3.10	3.16	3.05	3.23	3.23	3.30	3.29
小中計	3.25	3.27	3.23	3.14	3.12	3.27	3.17	3.26	3.26	3.39	3.36	
R3	小2	3.36			3.31		3.36		3.42		3.36	
	小3	3.21			2.99		3.23		3.32		3.30	
	小4	3.19			2.98		3.18		3.30		3.28	
	小5	3.15			3.14		3.10		3.20		3.15	
	小6	3.08			3.10		3.02		3.15		3.05	
	小学計	3.19			3.07		3.18		3.28		3.22	
	中1	3.14			3.11		2.99		3.20		3.24	
	中2	3.06			2.99		2.90		3.16		3.17	
	中3	3.06			2.99		2.91		3.16		3.17	
	中学計	3.08			3.03		2.93		3.17		3.19	
小中計	3.15			3.08		3.09		3.24		3.22		

4つの力（4つのC）を活用する授業改善について

(1) 効果的な実践の共有

「学び続ける力」を可視化する「4つのC」の改善に取り組むことは、結果として子どもたちに育む資質・能力を育成することに繋がる。

4つのCに関する質問は、小学校2年生から中学校3年生まで共通内容で実施した。(文言は年齢相応に変更)これは、課題と効果のある実践を共有化することにつながるよう意図している。各学校・各学級の課題解決に向けた好事例が、チーム柏としての実践につながるという理想を掲げ、お互いの実践交流が頻繁に行われることを期待している。

(2) 指標を生かした授業改善マネジメントの推進

課題とは、目指す姿と現状との差のことを指す。

自校の課題を明確にするために、4つのCの指標を活用し、目指す子どもの姿と現状を把握した上で取り組めるよう、次のような手立てが挙げられる。

① 子どもたちの今の姿（現状）を共有化

学習状況調査の4つのCのデータから、課題は何か、自校の強みと弱み等を分析し全職員（事務やサポート・図書館・理科等の人材も含むと良い）で共有化を図る。

② 目指す子どもの姿の共有化

課題（現状と目指す姿との差）が明確になったら、全職員によるワークショップ型研修により、自校の子どもたちに付けたい力を出し合い、共通理解を深めながら最も力を入れて取り組む内容(指標の質問項目)を1～3点程度に定め、全職員で共有する。

③ 課題解決に向けた手立ての共有化

最も力を入れて取り組む内容（指標の質問項目）が定まったら、この力を育むために授業の中で何に留意し、どう取り組むか（教科・学年ごとに）の方針を立て実践する。また、学校生活や学校行事の中でどう取り組むかを共通理解する。これらの取組の中で効果的な手立てがあれば実践の共有化を図る。

④ 子どもたちの実態に応じた実践の共有化

柏市学力・学習状況調査は年1回であるが、学び続ける力の育成において日々の実践は大変重要である。課題に偏ることなく、指標となる項目をもとに、子供たちの意識の変化や指導の効果を検証し、子供たちの現状を見取りながら実践を進めることが大切である。授業改善が子どもたちの学ぶ力の育成に繋がった時、成就感や達成感とともに、組織としての一体感を得ることができる。

（3）家庭や地域との連携に活用

指標から自校の課題を明確にして、全職員で共通実践を行うと同時に、家庭や地域の協力が必要な項目について1～2点程度選び、家庭や地域に具体的に協力を依頼することも大事である。教育ミニ集会等のテーマとして、全職員で行ったようなワークショップを実施して、参加者みんな決めて、参加者みんなで活動することにより、マネジメントサイクルを生かした取組が実施できる。

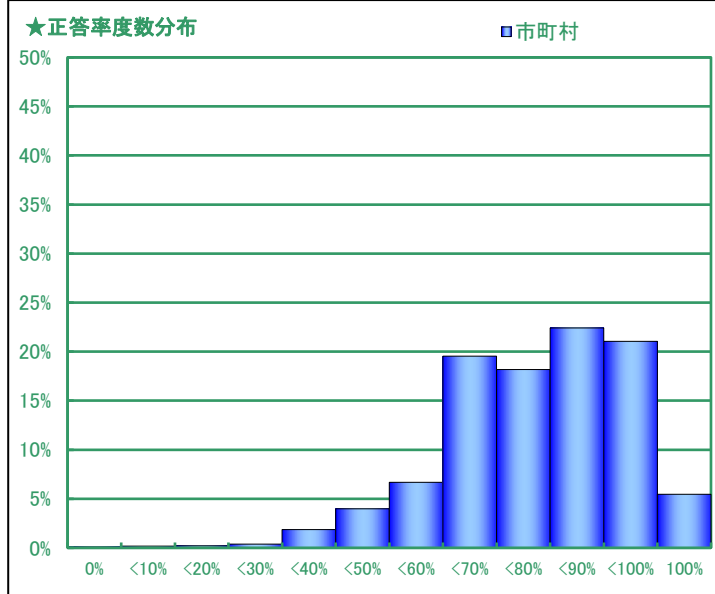
（4）強みを生かし、重点的な実践

学校教育目標に照らし、4つのCに現れる子どもたちの実態の中から、強み（得点が高いもの）を生かしながら、弱みを引き上げる工夫を図りたい。しかし、課題となっているもの全てに取り組むといった、総花的な取組にならず、付けたい力を明確にした取組みとなるよう留意したい。

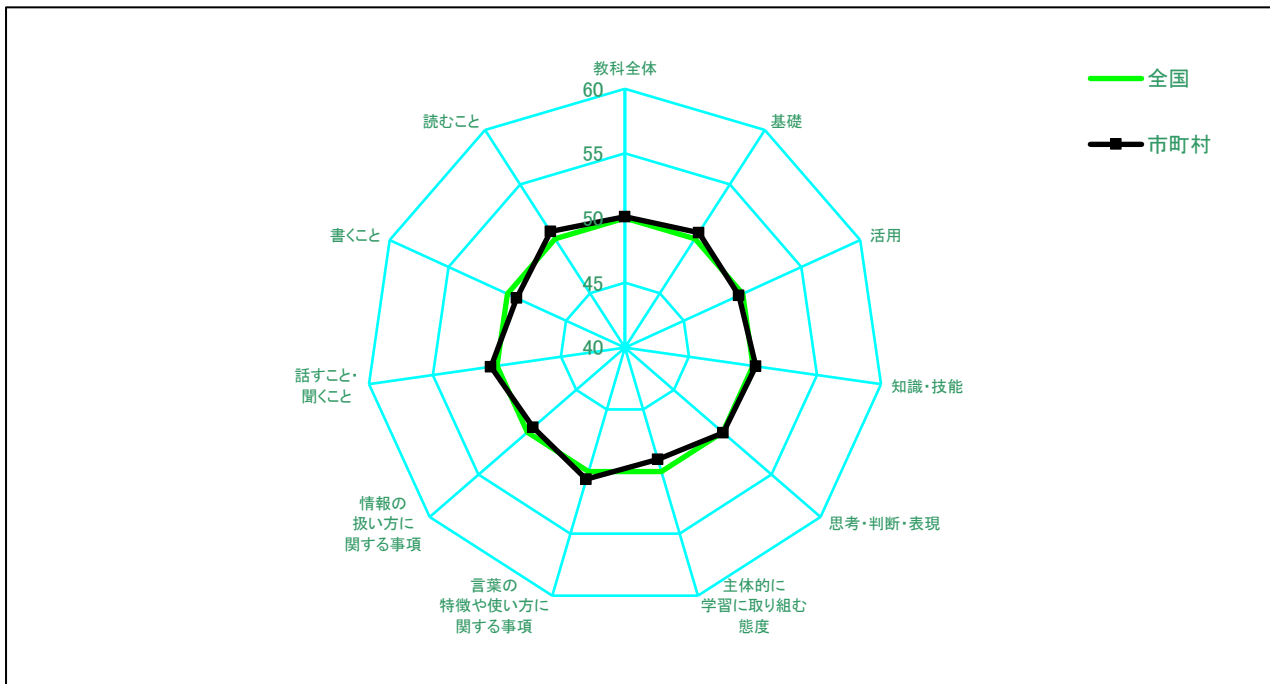
各教科 結果の考察と指導事例

小学校 2年 国語

★カテゴリー別正答率			
分類	区分	平均正答率	
		市町村	全国
教科全体		77.1	76.9
基礎・活用	基礎	88.4	87.7
	活用	55.9	56.8
観点	知識・技能	91.7	91.5
	思考・判断・表現	67.7	67.6
	主体的に学習に取り組む態度	57.5	60.5
領域	言葉の特徴や使いに関する事項	95.5	94.8
	情報の扱いに関する事項	61.8	64.6
	話すこと・聞くこと	84.5	83.5
	書くこと	55.6	58.0
	読むこと	69.4	67.6
解答形式	選択	80.5	79.3
	短答	86.6	85.9
	記述	57.5	60.5



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



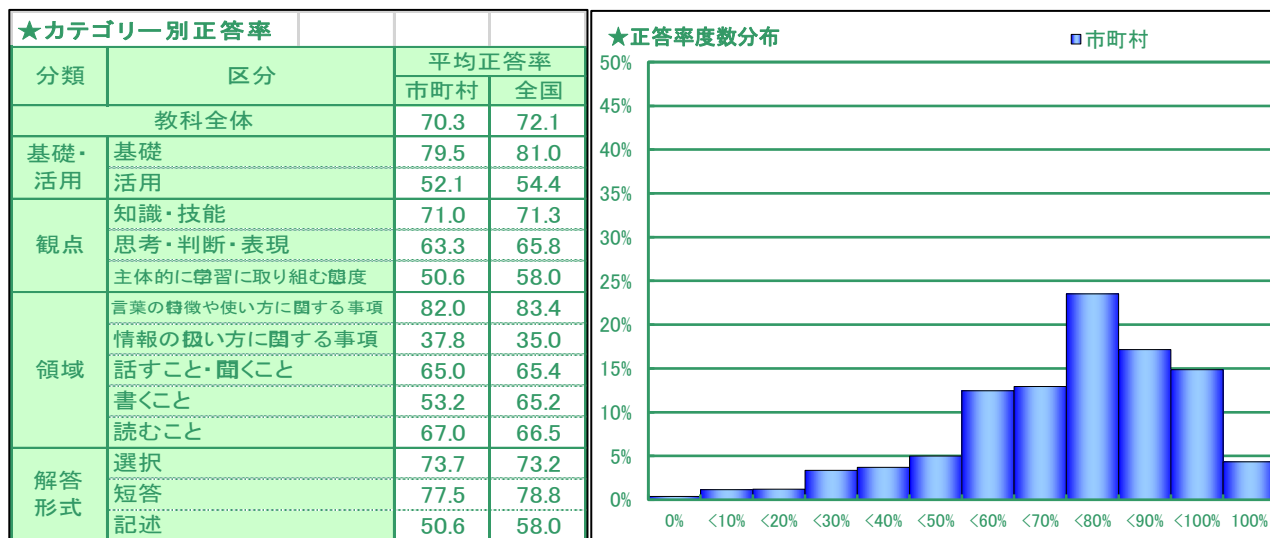
【考察】

- ・教科全体の平均正答率は全国平均と同程度でおおむね良好である。
- ・観点別に見ると、「知識・技能」や「思考・判断・表現」は良好であるが、「主体的に学習に取り組む態度」(記述形式)が全国より3ポイント下回っている。
- ・領域別では、「言葉」「話すこと・聞くこと」「読むこと」は良好である。「情報の扱いに関する事項」は約3ポイント、「書くこと」は約2ポイント全国より下回っている。

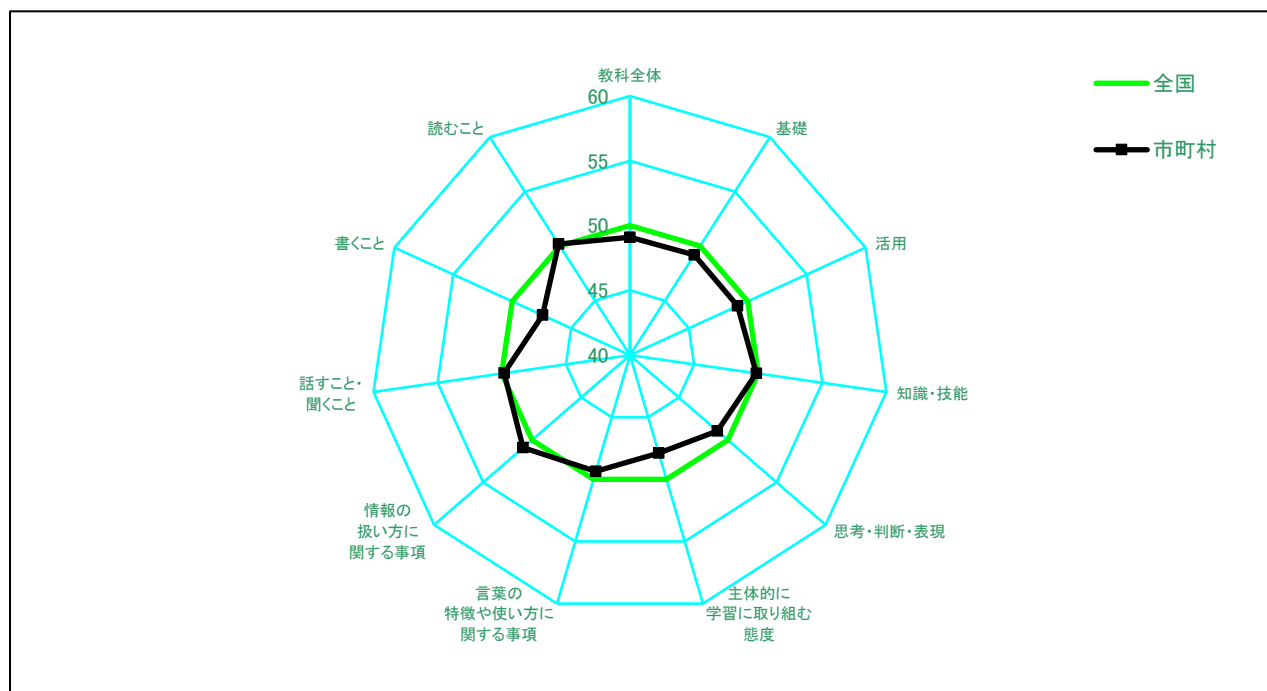
【強みと弱み】

- 漢字の読み書きや文、語彙など「言葉」については、強みといえる。
- ただし、言語の中でも、意味による語句のまとまりについては全国平均より約3ポイント下回っている。
⇒身近な語句の量を増やし、言葉には意味による語句のまとまりがあることに触れ、語彙を豊かにしていくとよい。
- 物語文や説明文の内容の大体は読み取れており、強みといえる。
- 「書くこと」について誤答を分析してみると、無回答とは別に問題文の読み取り自体に課題が見られる。
⇒思ったことや伝えたいことを書く際に、問われている内容についてしっかりと自分で読んで捉えられるよう働きかけることが大切である。

小学校 3年 国語



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



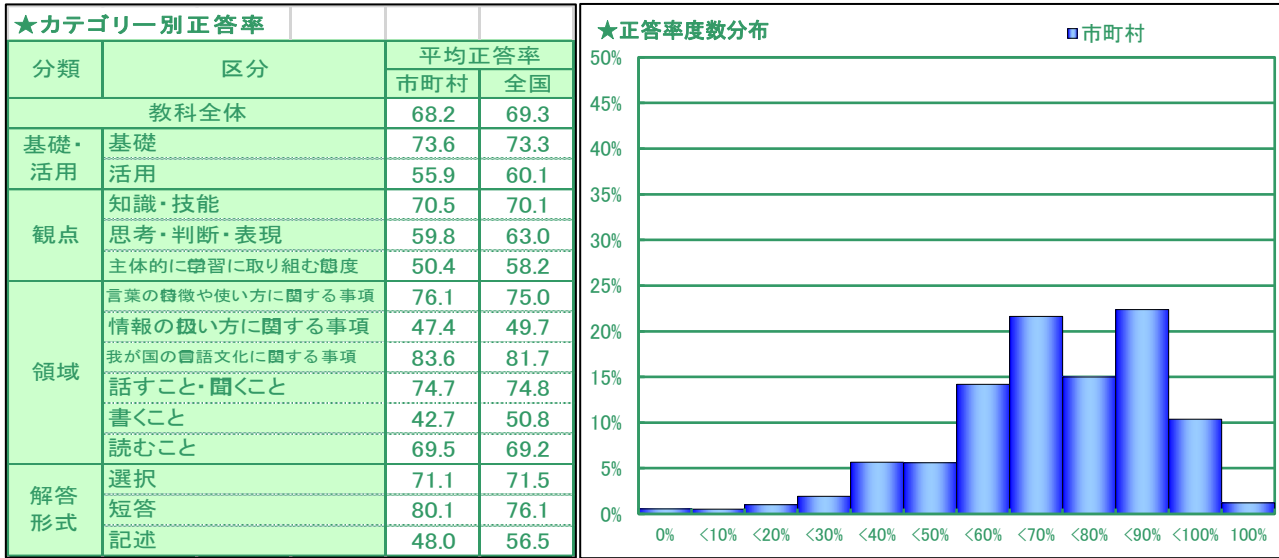
【考察】

- ・教科全体の正答率は、全国平均と同程度、または下回っている。
- ・観点別に見ると、「知識・技能」は全国と同程度でおおむね良好である。「思考・判断・表現」が約3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」が約7ポイント下回っている。
- ・領域別では、「書くこと」以外は、おおむね良好である。「書くこと」については、12ポイントと全国より大幅に下回っており課題が見られる。

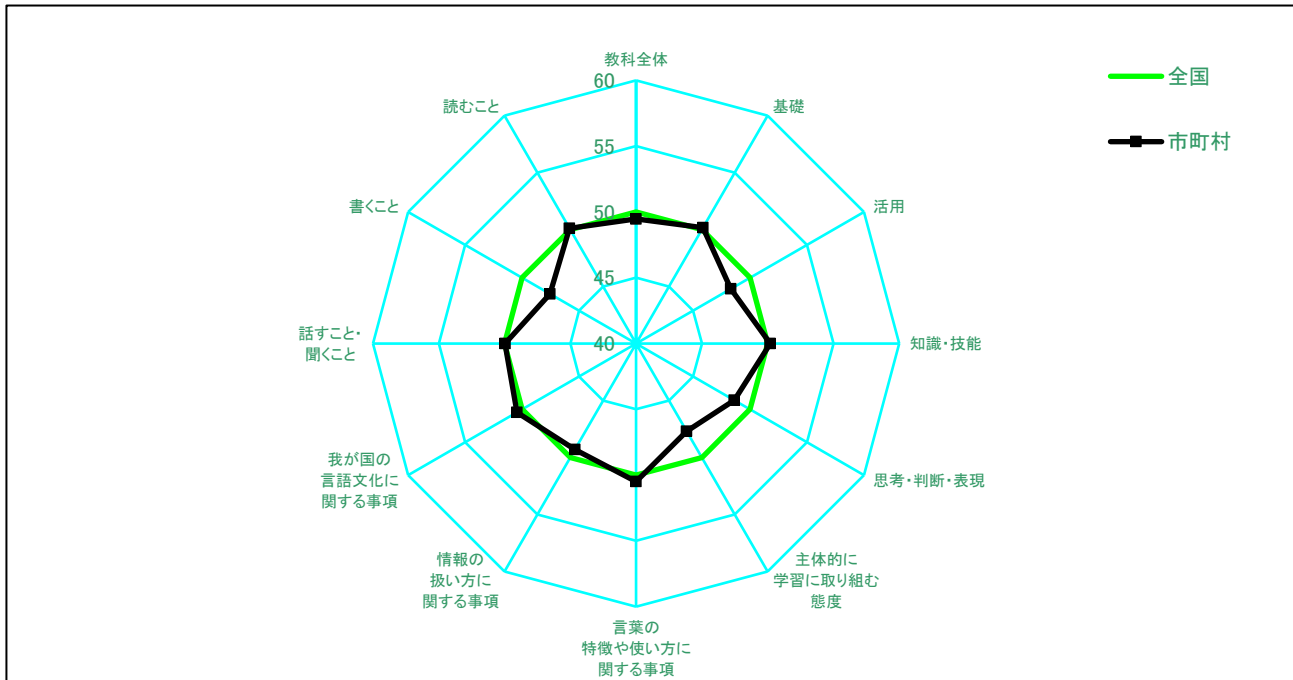
【強みと弱み】

- 事柄の順序などの情報と情報との関係については全国平均を上回っており、おおむね良好である。
- 物語文や説明文の内容の大体は読み取れており、強みといえる。
- 「話すこと・聞くこと」の中で、相手の話に関心をもって質問することについては約4ポイント全国より下回っている。
 - ⇒話し手に質問する活動を取り入れる。
 - ⇒問われている内容について、最後までしっかりと捉えられるよう働きかけることが大切。
- 「書くこと」では、指定された長さで、また、自分の思いや考えが明確になるように書くことに課題が見られる。

小学校 4年 国語



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

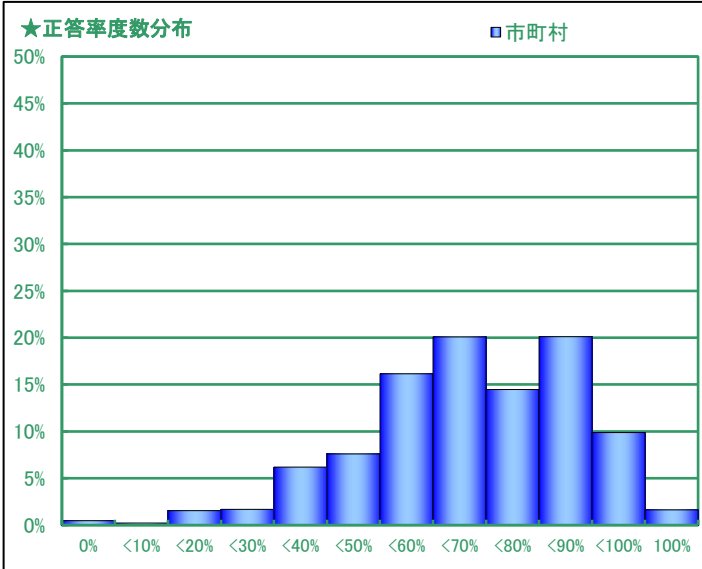
- 教科全体の平均正答率は全国とほぼ同程度でおおむね良好である。
- 観点別に見ると、「知識・技能」は良好であるが、「思考・判断・表現」が約3ポイント、「主体的に学習に取り組む態度」が約8ポイント全国より下回っている。
- 領域別では、「情報の扱い方に関する事項」と「書くこと」以外は良好である。「情報の扱い方に関する事項」は約2ポイント、「書くこと」は約8ポイント全国より下回っている。

【強みと弱み】

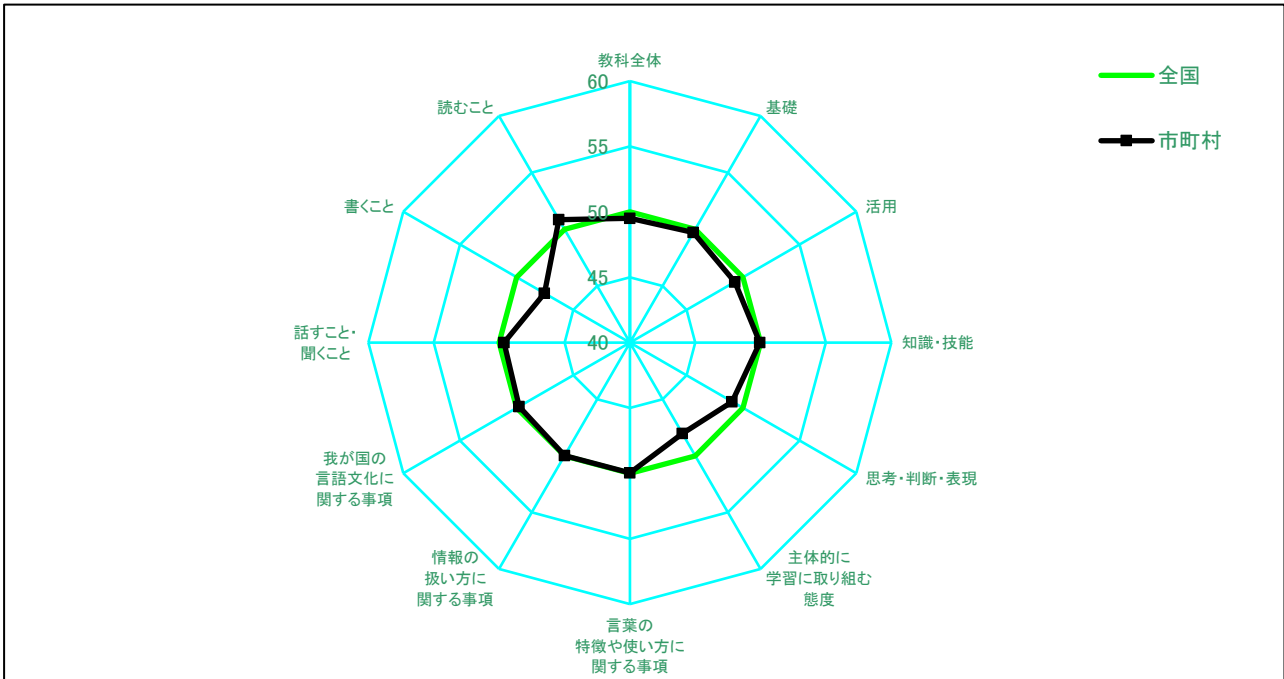
- 漢字の読み書きやローマ字の読みといった言葉は全国平均と同程度、または上回っており良好である。
- 物語文や説明文で叙述を基に内容を捉えることについては、全国と同程度で強みといえる。
- 「情報の扱い方に関する事項」の中の国語辞典の使い方については、全国より約5ポイント下回っており、課題が見られる。
- 「書くこと」では、指定された長さで、また、自分の思いや考えが明確になるように書くことに加え、2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。
⇒事実とそれを基に考えたことを書くなど、ある程度の長さの文章で構成を考えて書く活動を取り入れるとよい。

小学校 5年 国語

★カテゴリー別正答率		
分類	区分	平均正答率
		市町村 全国
教科全体		
		66.9 67.8
基礎・活用	基礎	72.0 72.5
	活用	55.4 57.4
観点	知識・技能	69.4 69.5
	思考・判断・表現	59.3 61.6
	主体的に学習に取り組む態度	48.4 55.0
領域	言葉の特徴や使い方に關する事項	73.1 73.1
	情報の扱い方に關する事項	50.9 50.9
	我が国の言語文化に關する事項	87.6 88.3
	話すこと・聞くこと	57.3 58.4
	書くこと	45.0 55.3
	読むこと	70.5 68.4
解答形式	選択	69.1 68.8
	短答	79.8 77.8
	記述	47.0 54.2



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

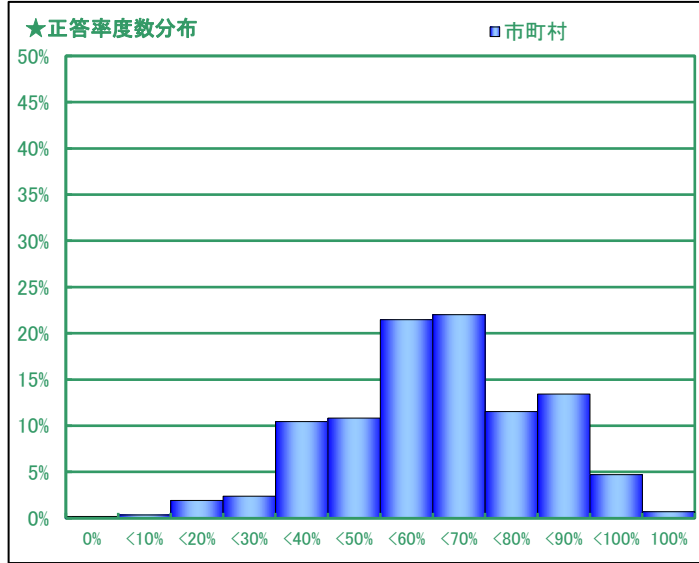
- ・「知識・技能」は全国正答率と同等であるが、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」は全国平均を下回っている。
- ・「思考・判断・表現」のうち、「読むこと」は、全国正答率より約2ポイント上回っているが、「書くこと」はどの設問も正答率が約10ポイント下回っている。

【強みと弱み】

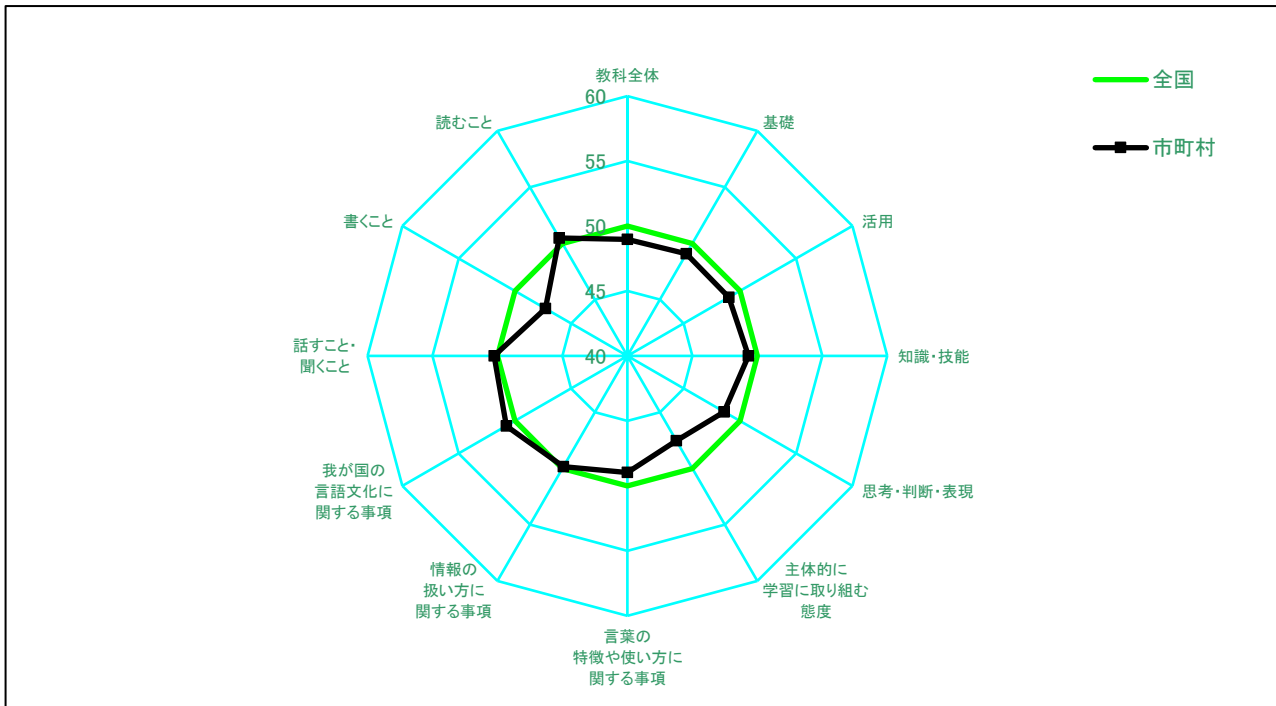
- 漢字の読み書き等の言語に關することと、物語や説明文の内容を読み取ることは、正答率が全国を上回っており、強みといえる。
 - 「書くこと」のうち、自分の考えを書くことはできるものの、考えを支える理由や事例を明確にして書くことに課題がある。
- ⇒文章全体の構成を考える際に、考えと事例との関係を明確にしてから文章を書く活動を取り入れていく。

小学校 6年 国語

★カテゴリー別正答率		平均正答率	
分類	区分	市町村	全国
教科全体		60.5	62.5
基礎・活用	基礎	64.1	65.8
	活用	52.3	55.0
観点	知識・技能	58.9	60.2
	思考・判断・表現	58.5	61.7
	主体的に学習に取り組む態度	48.9	57.6
領域	言葉の特徴や使い方に関する事項	62.1	64.1
	情報の扱い方に関する事項	48.8	49.3
	我が国の言語文化に関する事項	54.3	50.5
	話すこと・聞くこと	76.4	75.6
	書くこと	47.7	57.2
	読むこと	60.3	59.2
解答形式	選択	66.9	65.5
	短答	61.4	62.2
	記述	47.6	57.4



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

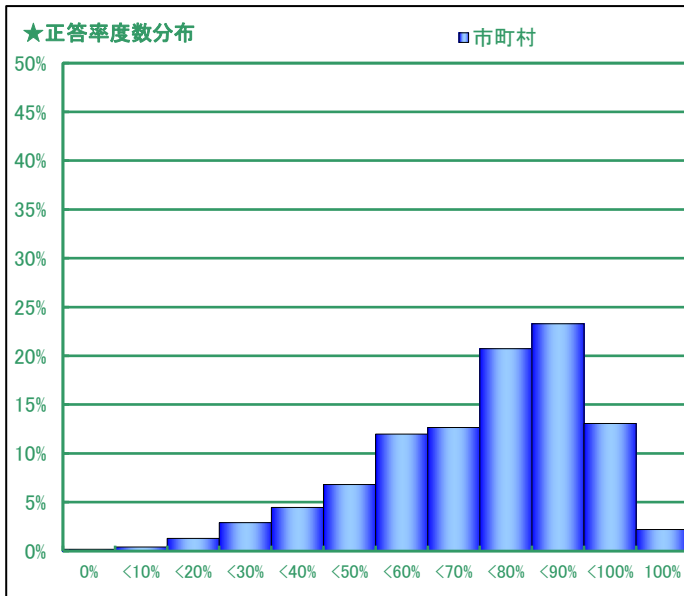
- ・全体的にほとんどの項目で全国平均正答率を約2ポイント下回っている。
- ・「思考・判断・表現」のうち、「読むこと」は、全国正答率より約1ポイント上回っているが、「書くこと」はどの設問も正答率が全国を約10ポイント下回っている。

【強みと弱み】

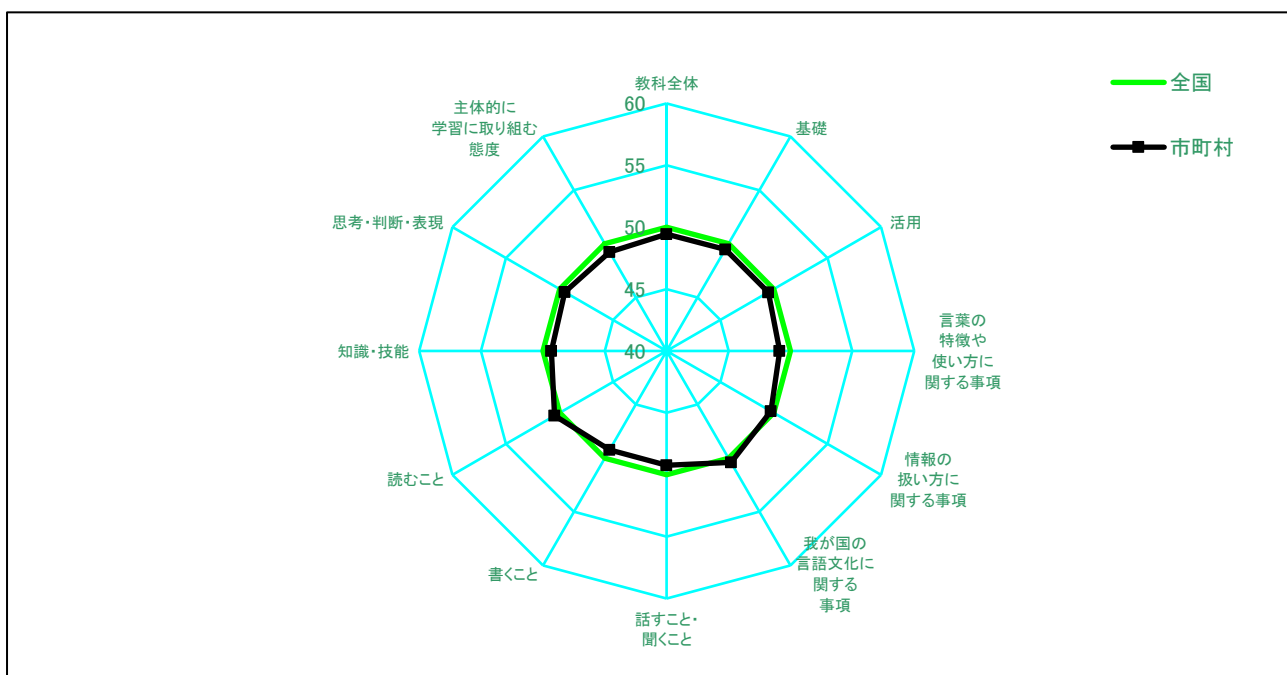
- 漢字の読みや活用、敬語等の言語と、物語や説明文の内容を読み取ることは、正答率が全国を上回っており、強みといえる。
- 「書くこと」のうち、自分の考えを書くことはできるが、目的に応じて情報を整理して書くことに課題がある。
⇒伝えたいことを明確にし、筋道の通った文書となるように、文章を書く前に、文章全体の構成や展開を考える活動を取り入れていく。

中学校 1年 国語

★カテゴリー別正答率				
分類	区分	目標値	平均正答率	
			市町村	全国
基礎・活用	教科全体	67.4	70.3	71.4
	基礎	67.6	68.6	69.7
	活用	67.0	73.1	74.4
領域	言葉の特徴や使いに関する事項	74.5	74.6	76.4
	情報の扱いに関する事項	70.0	75.5	76.4
	我が国の言語文化に関する事項	55.0	60.5	58.5
	話すこと・聞くこと	65.0	67.1	69.4
	書くこと	65.6	68.9	71.4
	読むこと	60.0	65.4	64.2
観点	知識・技能	72.3	73.6	75.0
	思考・判断・表現	63.5	67.4	68.5
	主体的に学習に取り組む態度	65.0	69.1	71.6
解答形式	選択	62.1	65.0	65.6
	短答	78.1	81.1	81.6
	記述	64.3	66.9	69.8



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

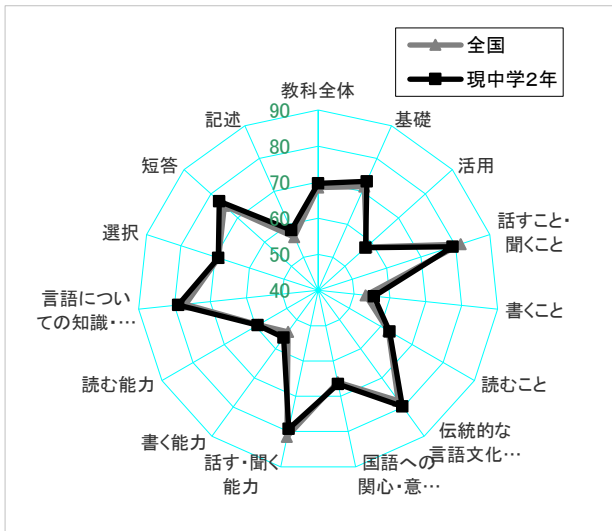
- ・領域や観点ごとの大きな差異はなく、バランスがよいが、全国正答率よりどれも約1～2ポイント下回っている。
- ・選択形式や短答形式は、全国正答率とほぼ同等であるが、記述形式は、約3ポイント下回っている。

【強みと弱み】

- 全体的に無解答が少なく、粘り強く取り組むことができている。
 - 説明文や文学作品の読み取りは、全国正答率を上回っているかほぼ同等であり、強みといえる。
 - 「聞くこと」では、大体の内容を捉えることはできるが、話し手の工夫を捉えたり、さらに意見をもったりすることに課題がある。
 - 「書くこと」では、筋道を通った文章を書くことに課題がある。
- ⇒書く活動では、友達と共有する活動を取り入れ、自分や友達の文章全体の構成が明確になっているか見直す機会を設けていく。

中学 2年 国語

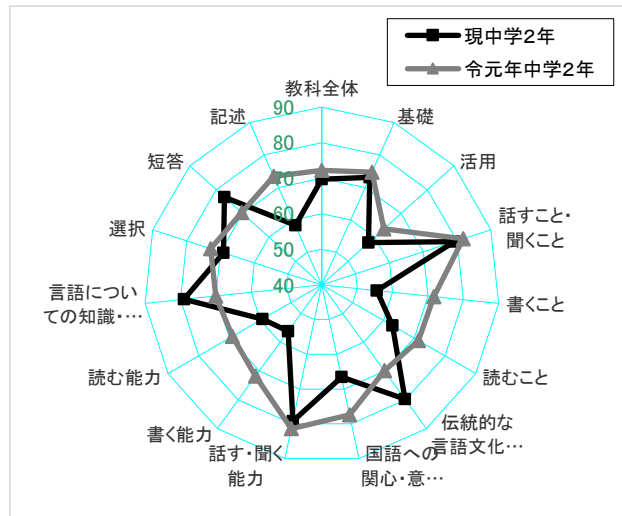
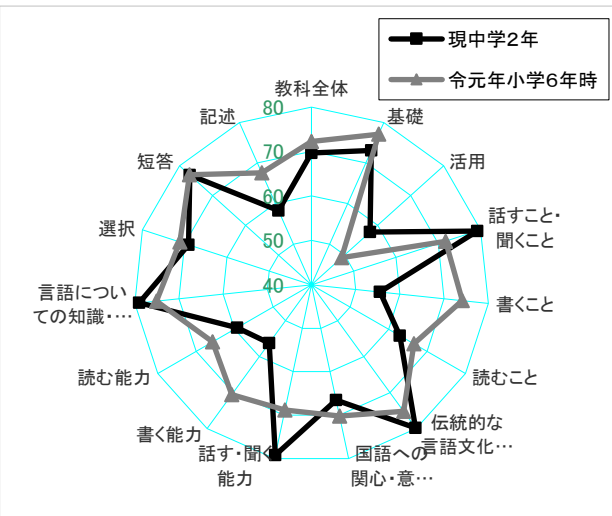
1 全体傾向



【コメント】

- ・教科全体の平均正答率は全国と同程度である。
＜問題別＞
- ・文学作品の読み取り, 漢字の知識, 理解は基本全国正答率を上回る。
- ・書くことの領域においては, 「作文を書く」出題のタイプは全国と同等あるいは約5ポイント上回っている問題もあり良好。同じ書く領域でも「レポートを書く」出題タイプは, 3ポイントほど下回っていた。
伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして考えを書くことができなかった。
- ・「話すこと・聞くこと」の領域では, 聞き手や話し手の工夫が何であるか注意しながらの聞き取りが全国正答率から3ポイント程度下回る。内容を捉えることはできているが, 相手の発言を客観的に分析することができないと考えられる。

2 経年変化



【コメント】

- ・教科全体では, 小学校6年生時と比較すると若干下回っている。
- ・領域別では, 「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語に特質に関する事項」が上回り, 観点別の「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」が上回っている。
- ・「書く」ということは領域別, 観点別の視点の両面から低い傾向がある。

【コメント】

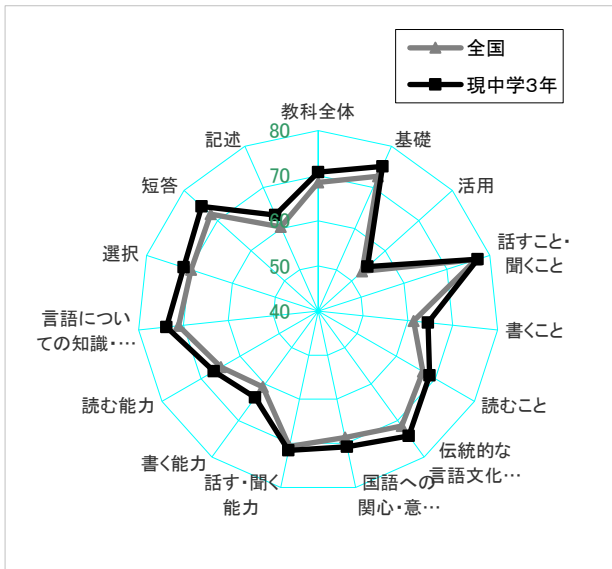
- ・教科全体としては差が無いが, 現中2は全体のバランスが悪く, 領域差が出ている。
- ・言語の知識, 短答問題は得意であるが, 読む・書く領域や記述問題においては, 大きく下がっている。
- ・問題の部分改訂があり, 読み取ったことや聞き取ったことをそのまま問う問題から, 表や吹き出し, 会話に当てはめて理解しているかを問う問題に変わってきている。

3 強みと弱み

- 「作文力」や言語知識を問う問題は良好であり, 指示された条件で自分の意見を書くことができる。特に, 最後に文章の内容に沿ったまとめを書くことは, 全国と比較して約3ポイント上回っており, 強みといえる。
- 課題となる問題からみると, 次のことに気をつけて指導する必要がある。同じ「書くこと」の領域でも, 伝えたい事実や事柄を理解した上で, 根拠を明確にしながらか追加する資料の分類や提示する資料を推敲する活動の問題は弱い。多くの情報の中から提示資料の意図や発言の工夫を理解し, 「話す・聞く・書く」につなげていく活動に力を入れていく必要がある。

中学 3年 国語

1 全体傾向



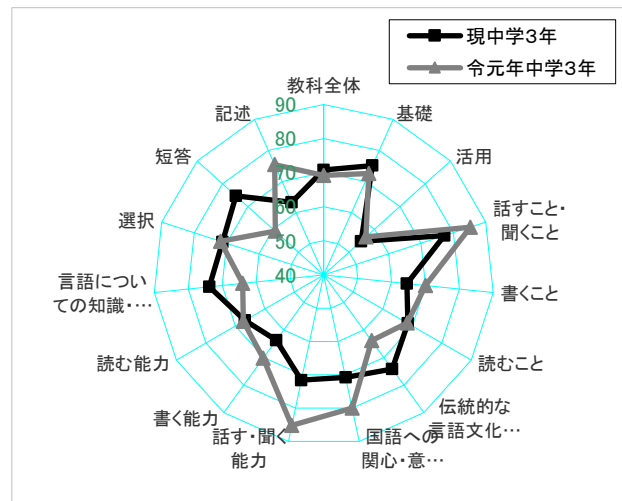
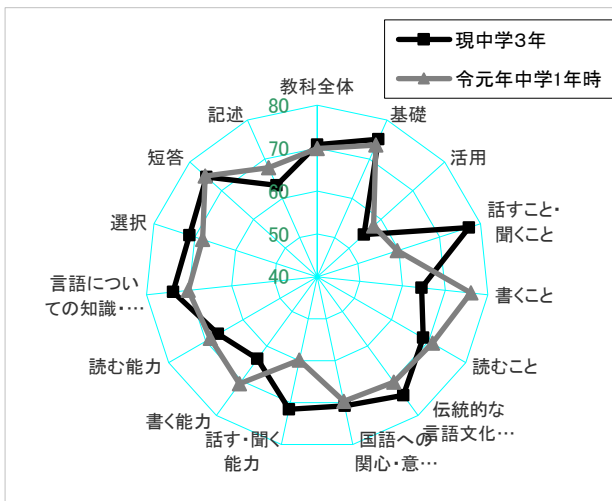
【コメント】

・教科全体の平均正答率は、全国に比べて基礎(3ポイント)・活用(1ポイント)共に高い。すべての評価が「同程度」か「上回っている」で上回っていることが多い。

＜問題別＞

・漢字の知識を問う問題は全国平均から5ポイントほど高く良好である。ただし、古典や敬語に対する知識は、全国から若干下回る。
 ・「話すこと・聞くこと」の領域では、司会者の工夫が何であるか注意しながらの聞き取りが全国正答率から2ポイント程度下回る。内容を捉えることはできているが、相手の発言を客観的に分析することは無回答も多いことから苦手と言える。

2 経年変化



【コメント】

・教科全体では、令和元年度中学1年生時と比較すると向上している。
 ・基礎的な事柄については、令和元年度中学1年生時と比較して理解されている。
 ・領域別、観点別ともに「話す聞く」に関しては、良好である。
 ・一方で「書く」ことについては、令和元年度と比較し下がる傾向にある。

【コメント】

・現中3の方が、教科全体や基礎は令和元年度の中3を上回る。言語の知識を問う短答問題は得意であるが、記述の解答形式や「書く力」は7ポイント下回っている。
 ・問題の部分改訂があり、読み取ったことや聞き取ったことをそのまま問う問題から、表や吹き出し、会話に当てはめて理解しているかを問うものになっている。「話す・聞く」領域が下回る要因と考えられる。

3 強みと弱み

・基礎学力や言語に対する知識などは全国を上回るので、強みと言える。しかし、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことが全国を下回った。
 ・「話す・聞く」の領域では、問題の部分改訂があり、発言者の読み取ったことや聞き取ったことをそのまま問う問題から、表や吹き出し、会話に当てはめて理解しているかを問うものになってきている。話し合い内容の聞き取りはできるが、司会者の工夫考えたり、発言者から聞き取ったことを記述することは苦手である。多くの情報の中から提示資料の意図や発言の工夫を理解し、「話す・聞く・書く」につなげていく活動に力を入れていく必要がある。

(1) 単元名

ころぽかぽか手紙をかこう

(2) 本単元についてのつまずき

柏市学力・学習状況調査の結果より、「書くこと」のつまずきが見られる。また、質問内容を「読むこと」のつまずきや、「意味による語句のまとまり」についてのつまずきが見られる。

(3) 実態解消に向けた指導例

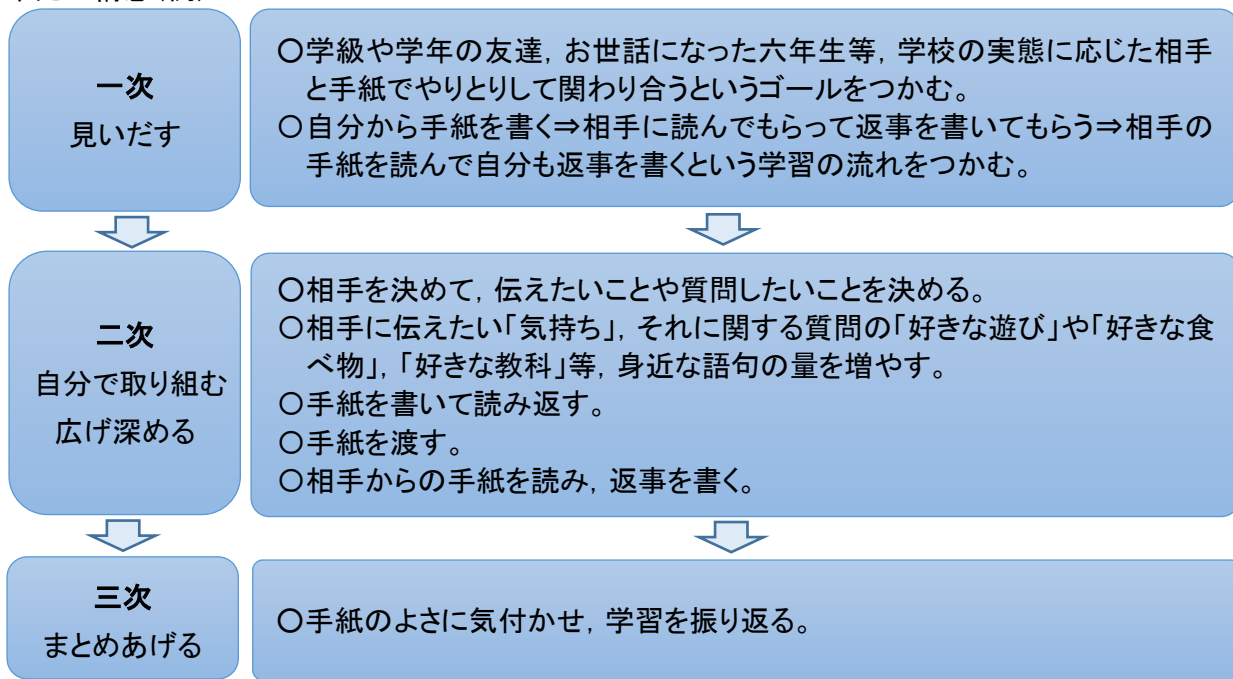
① 学習指導要領との関連

- 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。
(知識及び技能 (1)ーア 言葉の働き)
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。
(思考力, 判断力, 表現力等 C 読むこと - オ 考えの形成)

② つけたい力に合った言語活動

ころぽかぽか「文つう(手がみのやりとり)」をしよう

③ 単元の構想(例)



④ 指導のポイント!

思ったことや伝えたいことを書く活動の際には、言葉には「事物を表す働き」や、「経験したことを伝える働き」があることに気づかせることが大切である。手紙を書かせる前には、書きたい内容に触れ、そこから関連する言葉を集めて語句の量を増やすようにする。さらに、集めた言葉を仲間分けする活動を行い、言葉には意味による語句のまとまりがあることにも触れ、語彙を豊かにしていくとよい。

書く力を身に付けるためには、実際に文章を書く活動をなるべく多くとることが大切である。そこで、言語活動を「文通」としたことで、手紙を一度書くだけでなく、返事を読み、それを受けて手紙を二度書くことになり、目的をもって書く活動に多く取り組むことができる。相手の手紙を読み、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつという主体的な読みの学習にもつながる。

最後に、各学校の実態に応じて、国語の学習にとどまらず、学級活動や生活科との関連を図り、指導の効果を高めていくとよい。

(1) 単元名

おすすめ図書カードを作ろう

(2) 本単元についてのつまずき

柏市学力・学習状況調査の結果より, 指定された長さで書くことや, 2段落構成で書くこと, 自分の思いや考えが明確になるように書くことなど, 「書くこと」のつまずきが見られる。

(3) 実態解消に向けた指導例

① 学習指導要領との関連

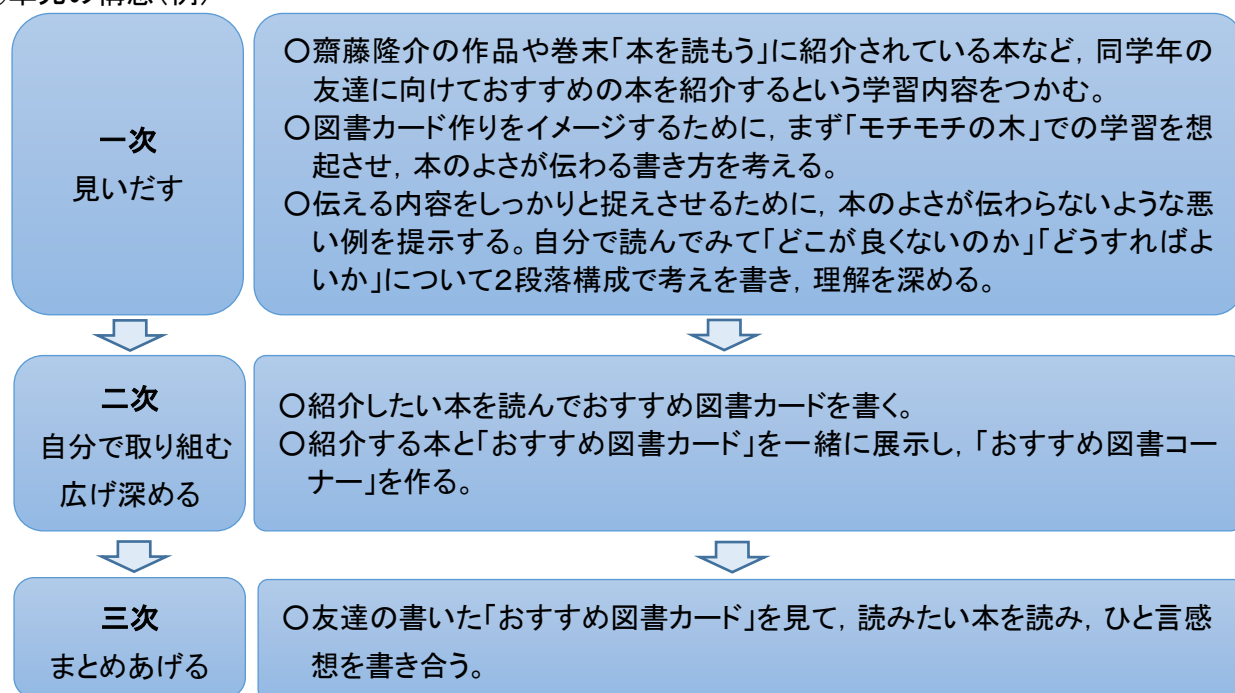
○ 相手や目的を意識して, 経験したことや想像したことなどから書くことを選び, 集めた材料を比較したり分類したりして, 伝えたいことを明確にすること。
(思考力, 判断力, 表現力等 B 書くこと - ア 題材の設定, 情報の収集, 内容の検討)

○ 文章を読んで理解したことに基づいて, 感想や考えをもつこと。
(思考力, 判断力, 表現力等 C 読むこと - オ 考えの形成)

② つけたい力に合った言語活動

同学年の友達へおすすめ図書カードを作ろう

③ 単元の構想(例)



④ 指導のポイント!

段落を意識して書けるように働きかけていくことをねらいとしてこの単元を設定した。おすすめ図書カードを書くときに2段落構成で書くことを条件にし, 例えば, 主人公の気持ちの変化と, それに対する自分の思いを書くという構成などを考えるようにする。

おすすめの図書以外にも, 図書カードの悪い例を読み, 批判的な意見を書かせることを単元の中に取り入れてみた。柏市学力・学習状況調査の問題傾向を見てみると, 文章を読んで理解したことに基づいて自分の感想や考えを(批判的な考えも含めて)もつことが小学校中学年に対して求められている。この単元に限らず, 批判的な意見を書かせるといった活動を要所要所に設定できるとよい。

友達からの図書の紹介は効果的である。たくさんの本を読ませ, 感想をもたせることも大切にしていきたい。

(1) 単元名

提案文をかこう —— 事実と意見を結びつけて書こう ——

(2) 本単元についてのつまずき

「書くこと」のうち、自分の考えを書くことはできるが、考えを支える理由や事例を明確にしたり、目的に応じて情報を整理したりして書くことに課題がある。伝えたいことを明確にするとともに、文章を書く前に、読み手が考えを理解しやすいように、文章全体の構成や展開を考えたり、友達と共有する活動で構成を見直したりする時間を設ける。そうすることで、文章全体の筋道を整えることを意識して文章を書くことができるようつなげていく必要がある。

(3) 実態解消に向けた指導例

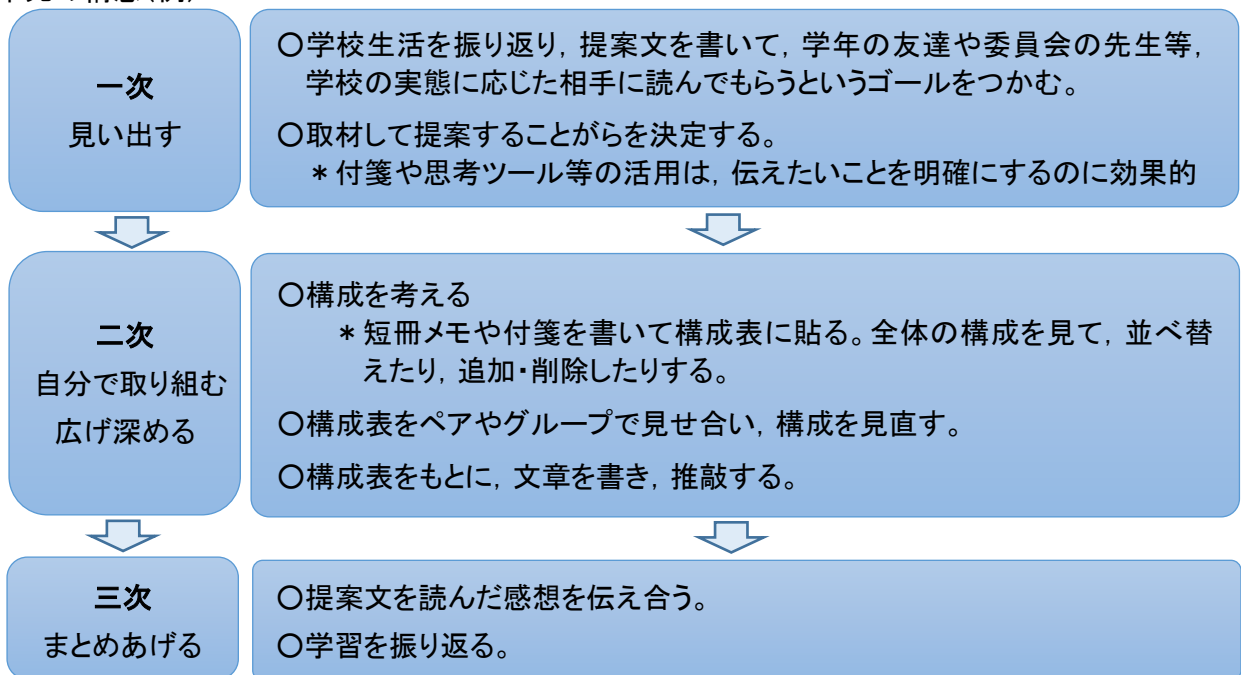
① 学習指導要領との関連

- 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
(B 書くこと - イ 構成の検討)
- 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること
(B 書くこと - カ 共有)

② つけたい力に合った言語活動

身のまわりの生活から課題を見つけ、事実と意見を結びつけて提案文を書くこと

③ 単元の構想(例)



④ 指導のポイント!

文章を書きあげてから構成を見直すことは、児童の意欲がそがれたり、修正する負担が大きかったりする。そのため、構成の段階で、何度でも試行錯誤ができるようにすることが大切。短冊メモや付箋を活用することで、目的に合った情報を選び出したり、より伝わるような構成になるように並び替えたりすることが可能になる。

また、構成表の段階で、友達同士で見せ合う活動を取り入れると、構成を意識するきっかけとなる。

授業改善の方向, 効果的指導事例

【中2年生の実践例】

(1) 単元名 持続可能な未来を創るために —不平等のない社会を考える—

「ここにいる」を言う意味 ロバートキャンベル

(2) 本単元についてのつまずき

「話すこと・聞くこと」の領域のうち, 読み取ったことや聞き取ったことを共有(話し合うこと)しながら考えをまとめたり, 広げたりする活動である。新聞投書に寄せられた言葉から, 互いの立場を明確に理解して相手に発信することが課題と言える。聞き取ったことを基にしながら全体の構造をつかみ, その上で自分の考えを形成して持続可能な未来を創るために何が必要か書くことが求められる。

(3) 実態解消に向けた指導例

① 学習指導要領との関連

- 異なる立場や考えを想定しながら集めた資料を整理し, 伝え合う内容を検討すること。
(A 話すこと・聞くこと — ア 話題の設定, 情報の収集, 内容の検討)
- 根拠の適切さを考え, 説明や具体例を加えながら, 自分の考えが伝わる文章になるよう工夫すること。
(B 書くこと — ウ 考えの形成, 記述)

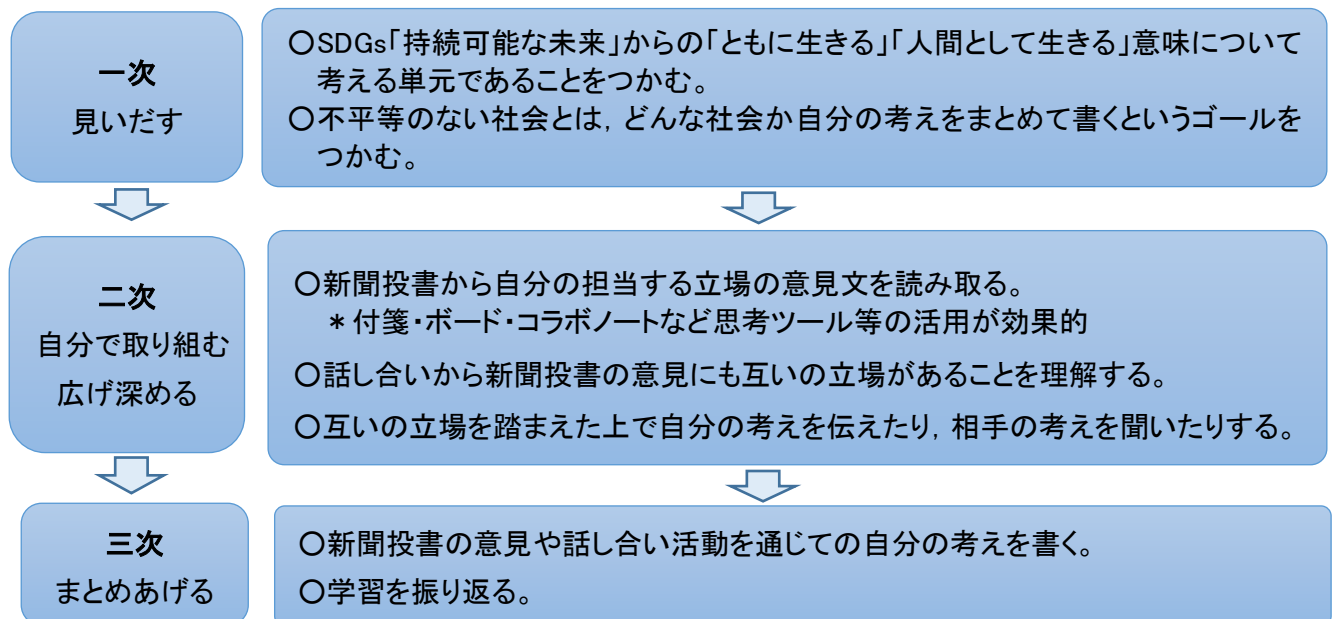
② つけたい力に合った言語活動

読み取ったことや聞き取ったことを共有して話し合う
持続可能な未来を創るために何が必要か考えを書くこと

< ICT との関連 >

新聞投書に寄せられた言葉(互いの立場)をコラボノートなので要点をメモとして用いながら共有することは有効(付箋やボードなどでも良い)

③ 単元の構想(例)

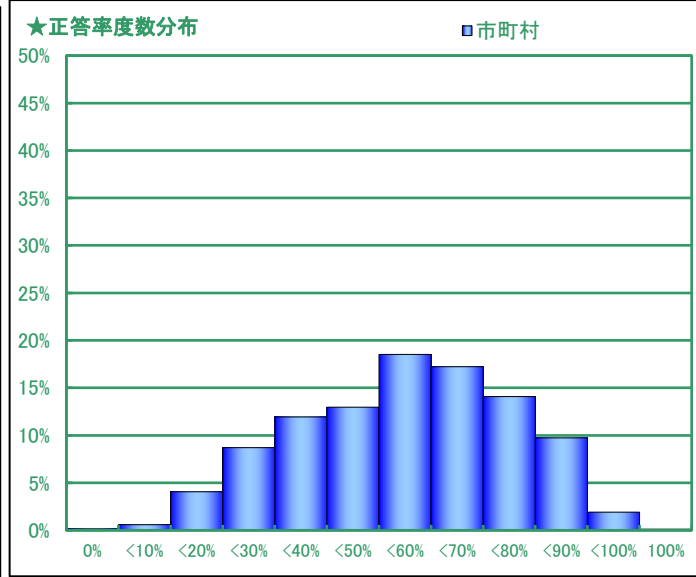


④ 指導のポイント!

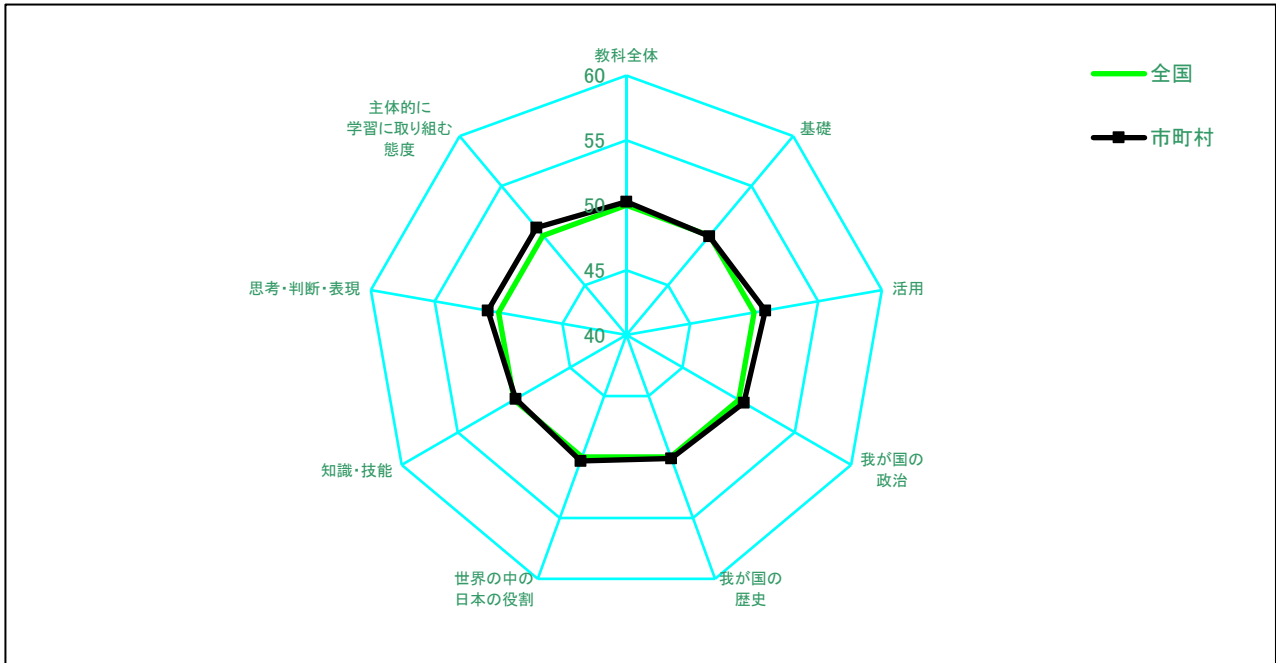
話し合いの段階では学校の実態により2段階に分けても良い。異なる立場や考えを想定しながら集めた資料を整理する段階とそれを踏まえた上で自分の考えや相手の考えを伝え合う段階である。異なる立場や考えを整理するためにコラボノートなので全体構造を共有することもゴールを達成する上で効果的。

中学校 1年 社会

★カテゴリー別正答率				
分類	区分	目標値	平均正答率	
			市町村	全国
基礎・活用	教科全体	54.3	54.8	54.3
	基礎	57.4	56.7	56.8
	活用	47.8	50.9	48.8
領域	我が国の政治	56.7	59.0	57.8
	我が国の歴史	53.6	52.8	52.6
	世界の中の日本の役割	53.8	57.6	56.6
観点	知識・技能	57.2	56.1	56.5
	思考・判断・表現	50.4	53.1	51.3
	主体的に学習に取り組む態度	47.2	50.1	48.3
解答形式	選択	57.8	60.4	58.7
	短答	48.8	44.0	46.2
	記述	45.0	47.8	46.2



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

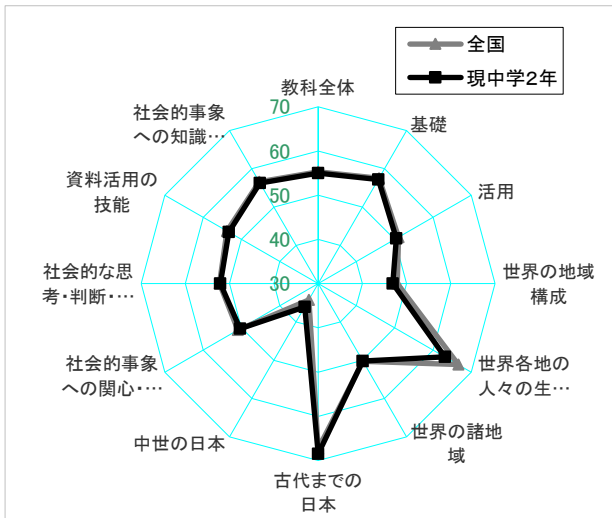
- ・「教科全体」としては、全国平均正答率とほぼ同程度だった。
- ・「基礎」は、全国平均正答率と同程度であるが、「活用」は、全国平均正答率より若干ではあるが、2ポイント以上上回っている。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」と「思考・判断・表現」の観点は、全国平均正答率よりも上回っている。

【強みと弱み】

- 基本的人権の尊重について、具体的事例をもとに判断している。
 - 大陸文化の摂取について、資料をもとに判断している。
 - 日本の戦後の史実について、理解している。
 - 地球の環境問題について、資料に着目して考えている。
 - 国会の働きについて、資料をもとに考えることに課題がある。
- ⇒ 日頃から資料と読み取る場面を多く取り入れ、多面的、多角的に考察できるようにしていく。

中学 2年 社会

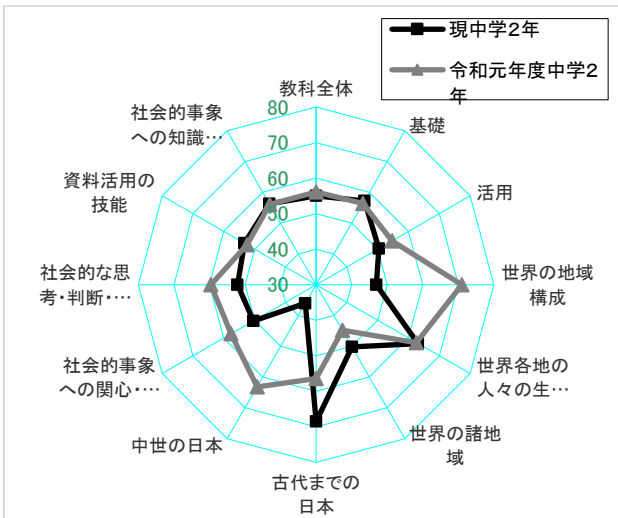
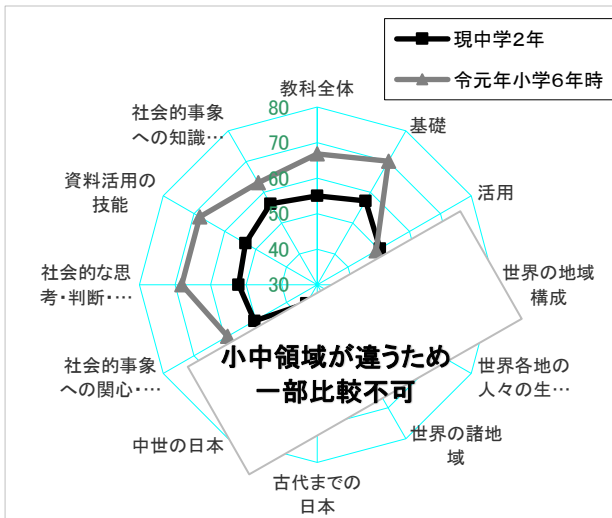
1 全体傾向



【コメント】

- ・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同様であった。
- ・「基礎」「活用」とも全国平均正答率とほぼ同様であった。
- ・世界各地の人々の生活と環境と日本の地域構成は、全国平均正答率より少し下回っている。
- ・唯一、中世の日本のみ、約2ポイント上回っている。

2 経年変化



【コメント】

- ・教科全体で下回っている傾向である。
- ・基礎活用の活用面については、全国値を上回りよい傾向が見られる。

【コメント】

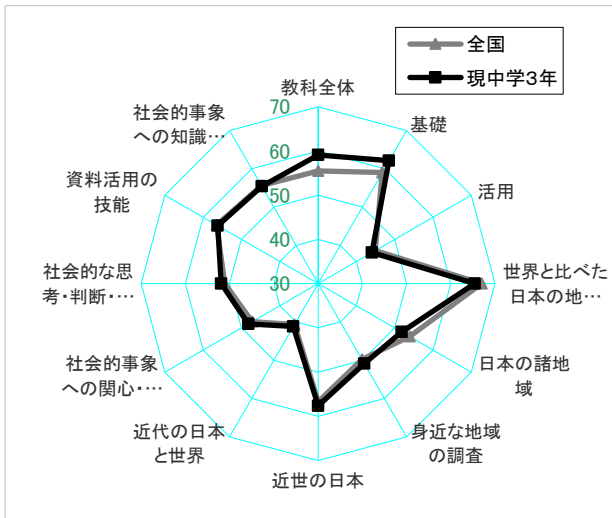
- ・領域の分野では、「世界の地域構成」と「中世の日本」の正答率が大幅に下がっている。「世界の諸地域」と「古代までの日本」の正答率は上がっている。
- ・観点別に見ると、「社会的な思考・判断・表現」と「社会的事象への関心・意欲・態度」が下がっている。

3 強みと弱み

- オーストラリアの貿易相手国の変化について、理解している。
 - 古代までの日本では、世界の表し方について、理解している。
 - 日本の領域をめぐる問題についてや、排他的経済水域の理解について課題がある。
 - 冷帯気候の人々の暮らしについて、複数の資料をもとに考察することが苦手である。
 - 高山気候の雨温図を把握することができない。
- ⇒多くの資料から自分に必要なものを取捨選択したり、資料の読み取りや話し合いなどを通して多様な見方・考え方を育む。

中学 3年 社会

1 全体傾向



コメント

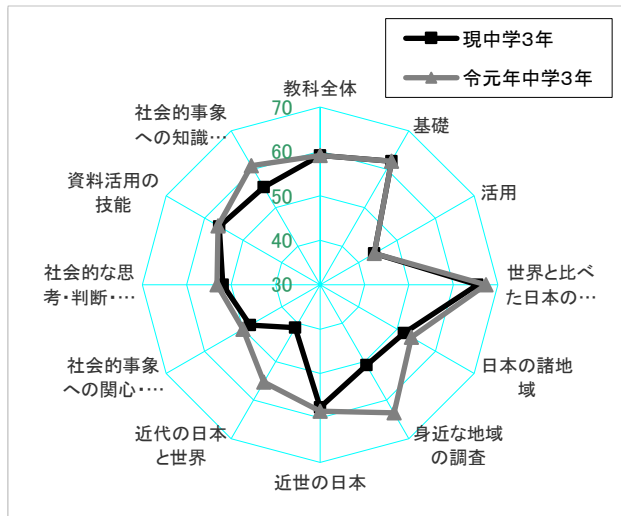
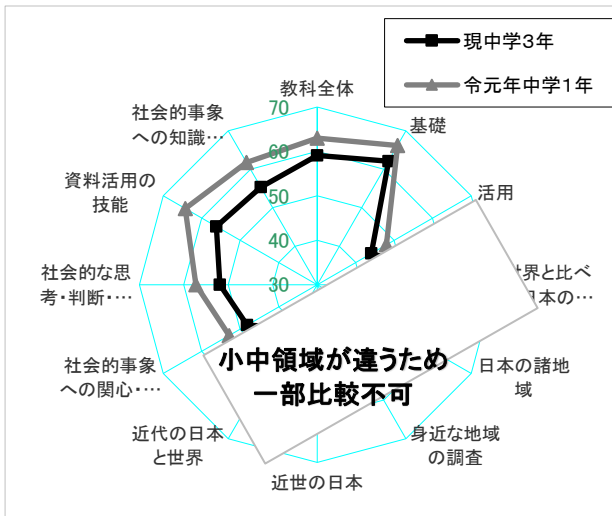
・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同様であった。

・「基礎」としては、全国平均正答率とほぼ同様である。

・「活用」は全国平均正答率より、2ポイント以上上回っている。

・「世界と比べた日本の地域特色」と「日本の諸地域」は、全国平均より下回っている。

2 経年変化



【コメント】

・2年前と比較すると、全体的に成績が大幅に落ちている。

【コメント】

・領域の分野では、「身近な地域の調査」と「近代の日本と世界」の項目における正答率が下がっている。

・観点の分野では、「社会的事象への知識理解」が下がっている。

・上記の3つの項目以外は、2年前とほぼ同じく結果となっている。

3 強みと弱み

- 縮尺に着目して、地形図を読み取ることができる。
 - 信長の秀吉による政策について、資料をもとに判断することができる。
 - 江戸幕府による大名統制について、資料を読み取ることができる。
 - 三角州についての理解度が低い。
 - 気候での発展した酪農についての理解に課題がある。
 - 日本の工業地帯工業地域の工業製品について、資料をもとに把握することに課題がある。
- ⇒日常の授業の中で、資料の収集活動や情報の精選、必要な情報を読み取る場面を意図的に取り入れる。

(1) 単元名

縄文のむらから古墳のくにへ

(2) 本単元についてのつまずき

中学1年生の柏市学力調査の全体傾向や経年変化を見ると、「我が国の歴史」における市の平均正答率は全国の平均正答率を下回っている。今年度の問題の中では、渡来人についての問題や鎌倉時代の御恩と奉公の関係についての問題につまずきが見られた。従って小学6年生で学習する日本の歴史における時代ごとの特色をしっかりと抑える必要がある。

(3) 実態解消に向けた指導例

学習指導要領との関連

○狩猟・採集や農耕の生活, 古墳, 大和朝廷(大和政権)による統一の様子を手掛かりに, むらからくにへと変化したことを理解する(歴史分野の目標【知識】)

主体的・対話的で深い学びにつながるように、【見出す】→【自分で取り組む】→【広げ深める】→【まとめあげる】のプロセスを単元計画の中に盛り込む。4つのプロセスをワンサイクルで終了させず、途中で振り返りをするすることで、新たな課題を見つけたり、さらに幅広く情報を集めたりする等、複数回サイクルを繰り返してもよい。

【見出す】

- 生徒が主体的に課題を設定できるような素材と導入の入り方を工夫する。
- 単元のまとめ(ゴール)を工夫する。
ノート作り, 新聞作り等

【自分で取り組む】

- 時代ごとの特色とキーワードを結びつける。

【広げ深める】

- 体験的な学習を積極的に取り入れる。
- グループ間での意見交換等も積極的に行い, 自分の調べた内容を整理していく。

【まとめあげる】

- 生徒の発表に対して, 第三者から評価してもらう。
担任以外の教員や他学年の児童
- 他者の評価から新たな課題を設定する。

(4) ICT との関連

新聞作りを行う場合は、「ドキュメント」を活用する。あらかじめ新聞の枠を教員が用意しておき, 児童が自分でアレンジを加えることができるようにする。

(1) 単元名

第3章 日本の諸地域

(2) 本単元についてのつまずき

中学3年生の柏市学力調査の全体傾向や経年変化を見ると、「日本の諸地域」における市の平均正答率は全国の平均正答率を下回っている。今年度の問題の中では、気候で発展した酪農についての問題と資料をもとに日本の工業地帯・工業地域の工業生産についての問題につまずきが見られた。従って中学2年生で学習する日本の産業における特色をしっかりと抑える必要がある。

(3) 実態解消に向けた指導例

学習指導要領との関連

○地域の諸事象や地域的特色を理解する(地理的分野の目標【知識・技能】)

主体的・対話的で深い学びにつながるように、【見出す】→【自分で取り組む】→【広げ深める】→【まとめあげる】のプロセスを単元計画の中に盛り込む。4つのプロセスをワンサイクルで終了させず、途中で振り返りを行うことで、新たな課題を見つけたり、さらに幅広く情報を集めたりする等、複数回サイクルを繰り返してもよい。

【見出す】

○生徒が主体的に課題を設定できるような素材と導入の入り方を工夫する。

○単元のまとめ(ゴール)も明確に示す。

「ポスターやパワーポイントやスライドにまとめ、発表する」

【自分で取り組む】

○その土地の特色と産業の結びつきに焦点を当てる。

【広げ深める】

○体験的な学習を積極的に取り入れる。本やインターネット以外で情報を収集し、自分達で調べた内容をさらに広げる。

○外部の教育団体等を活用する。

○グループ間での意見交換等も積極的に行う。

【まとめあげる】

○生徒の発表に対して、第三者から評価してもらう。

担任以外の教員や他学年の生徒等

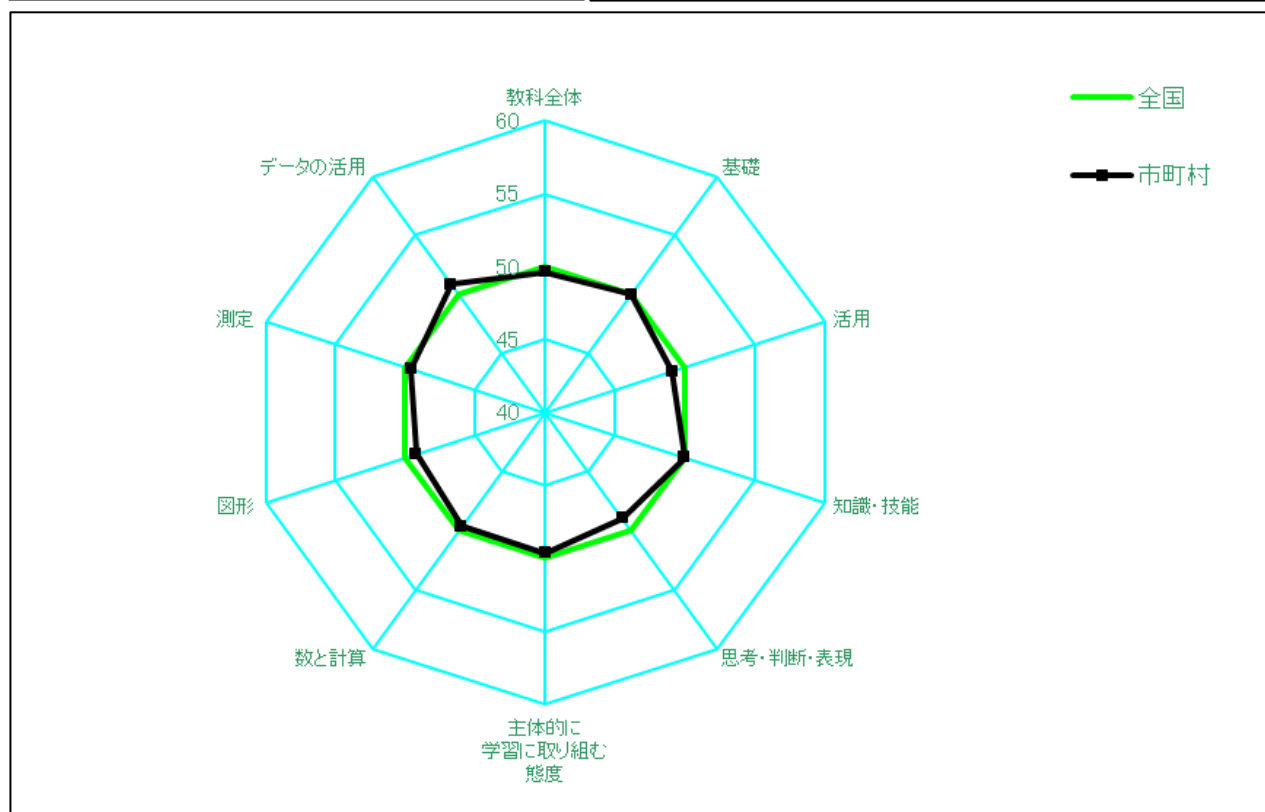
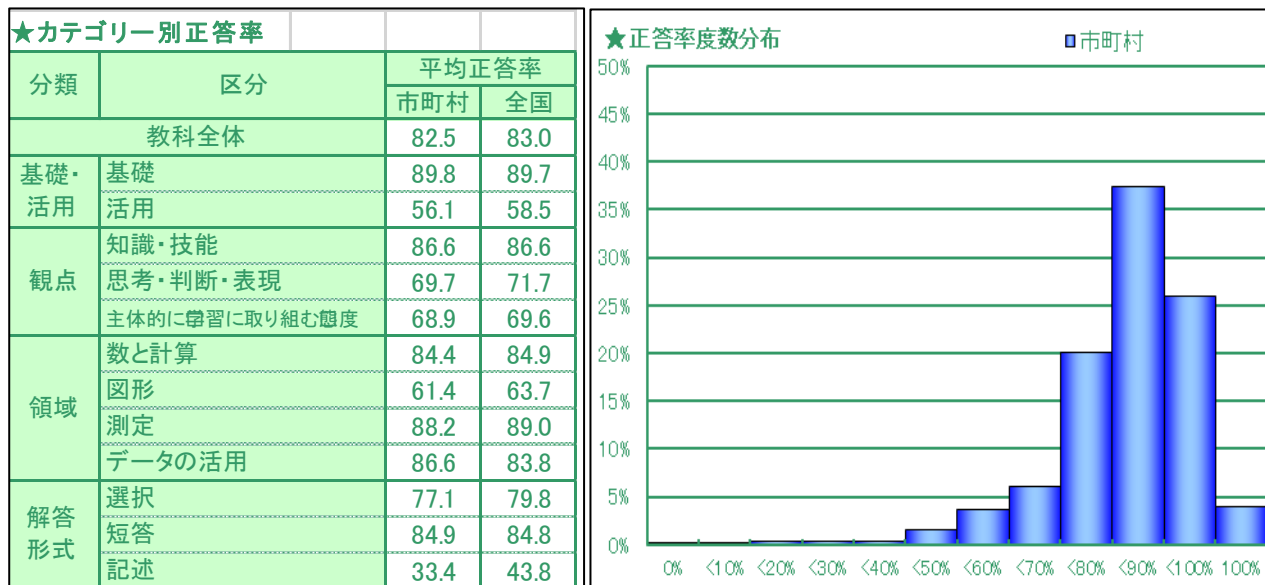
○他者の評価から新たな課題を設定する。

(4) ICT との関連

○スライド等を活用して、発表用のプレゼン資料を作成する。

○情報収集の際、現地への見学は難しいので、端末を使って、遠方の協力者と対面式でインタビューする等の工夫が可能であれば、積極的に活用する。

小学校 2年 算数



【考察】

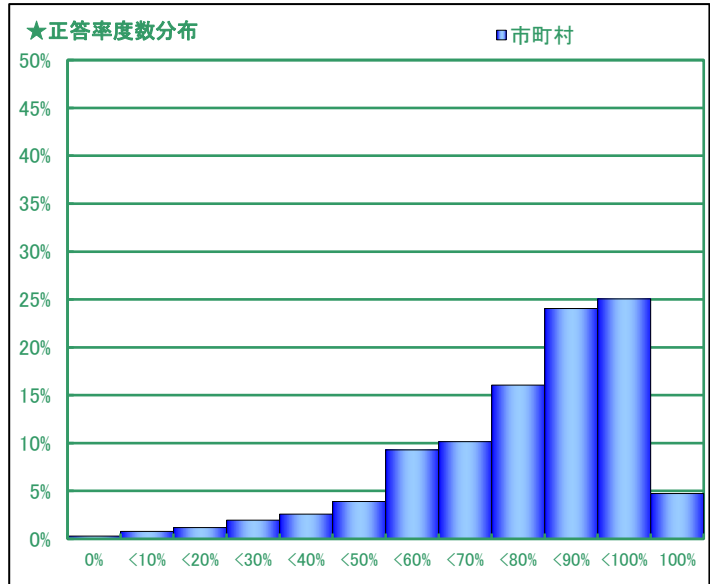
- ・領域別で見ると、「データの活用」のみ全国平均を上回っており、良好な状況と言える。
- ・解答形式で見ると、「選択」「短答」は、ほぼ全国平均と同等であるが、記述式になると10ポイント以上も下回る。

【強みと弱み】

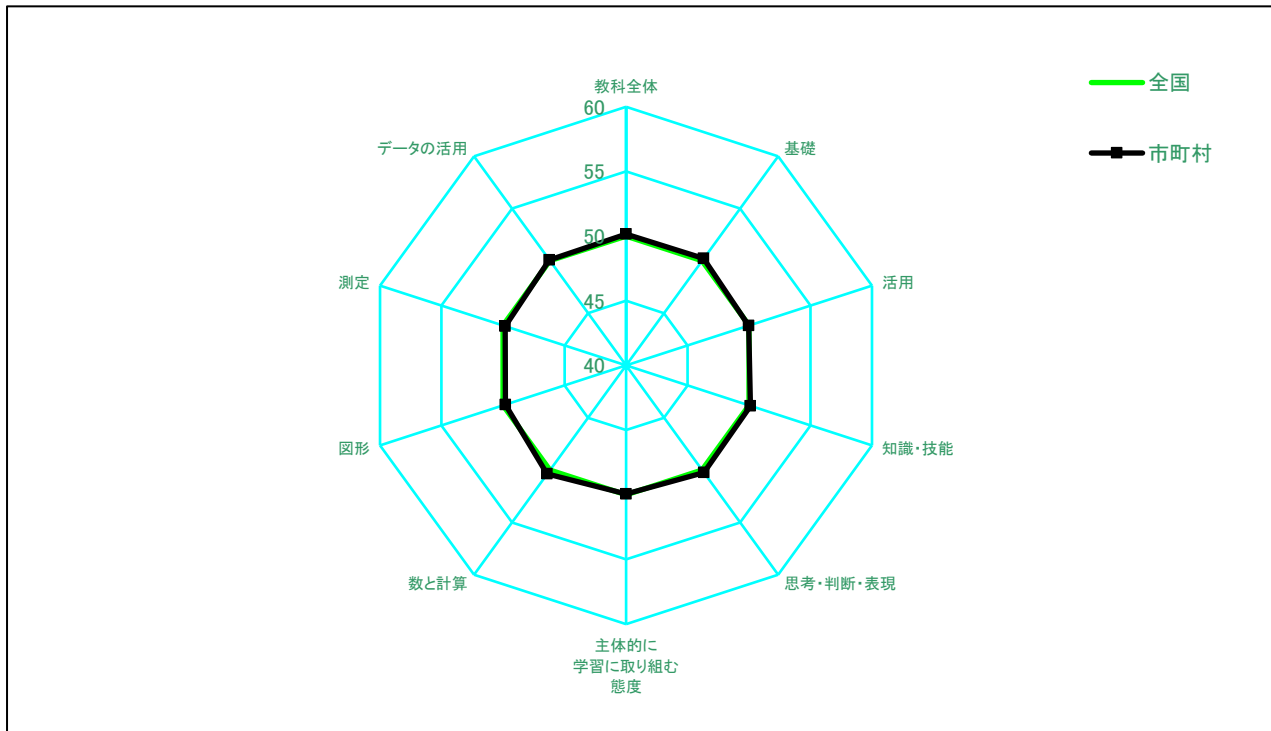
- ものの数を正しくグラフに表すことができる。
- 数の構成の理解、計算技能については、定着が図れている。一方で、示された加法・減法の式に合う文章問題を選択したり、作ったりすることに課題が見られる。

小学校 3年 算数

★カテゴリー別正答率			
分類	区分	平均正答率	
		市町村	全国
教科全体		75.8	75.5
基礎・活用	基礎	80.1	79.7
	活用	60.4	60.5
観点	知識・技能	79.4	79.2
	思考・判断・表現	60.3	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	68.8	69.0
領域	数と計算	75.5	74.8
	図形	79.5	80.1
	測定	74.9	75.4
	データの活用	73.6	73.2
解答形式	選択	74.6	73.9
	短答	81.2	81.5
	記述	26.5	24.9



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



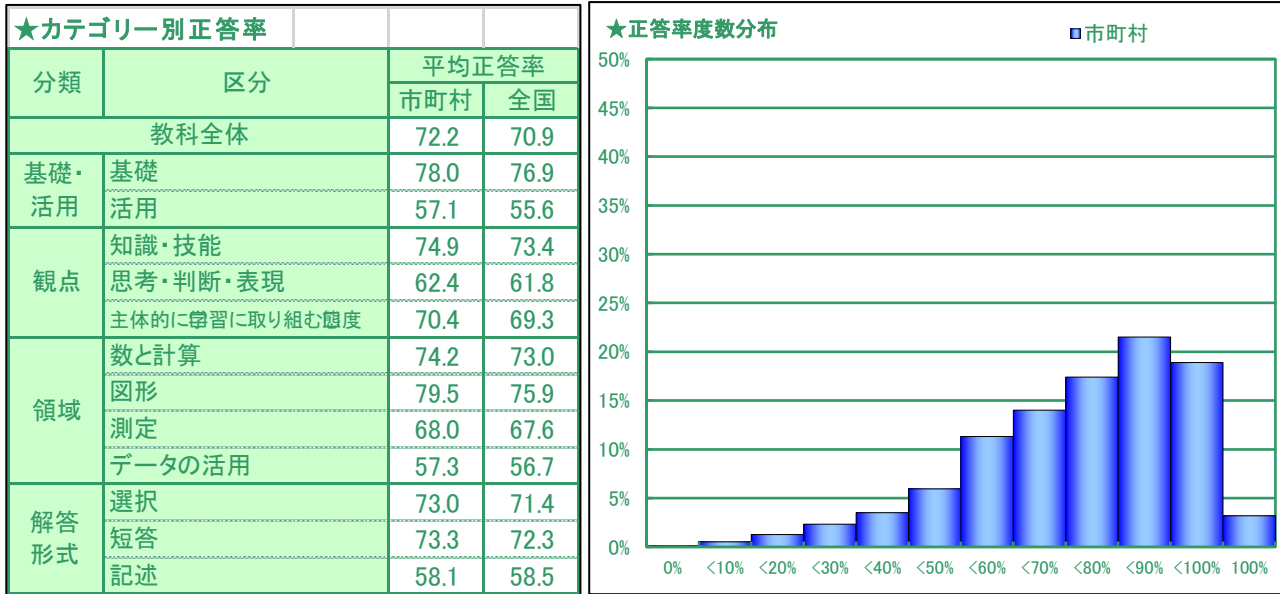
【考察】

- ・教科全体としては、全国平均とほぼ同等といえる。
- ・観点別としては、全国平均とほぼ同等といえる。
- ・各領域としては、全国平均とほぼ同等といえる。
- ・解答形式においては、記述が全国平均より1.6%高くなっている。

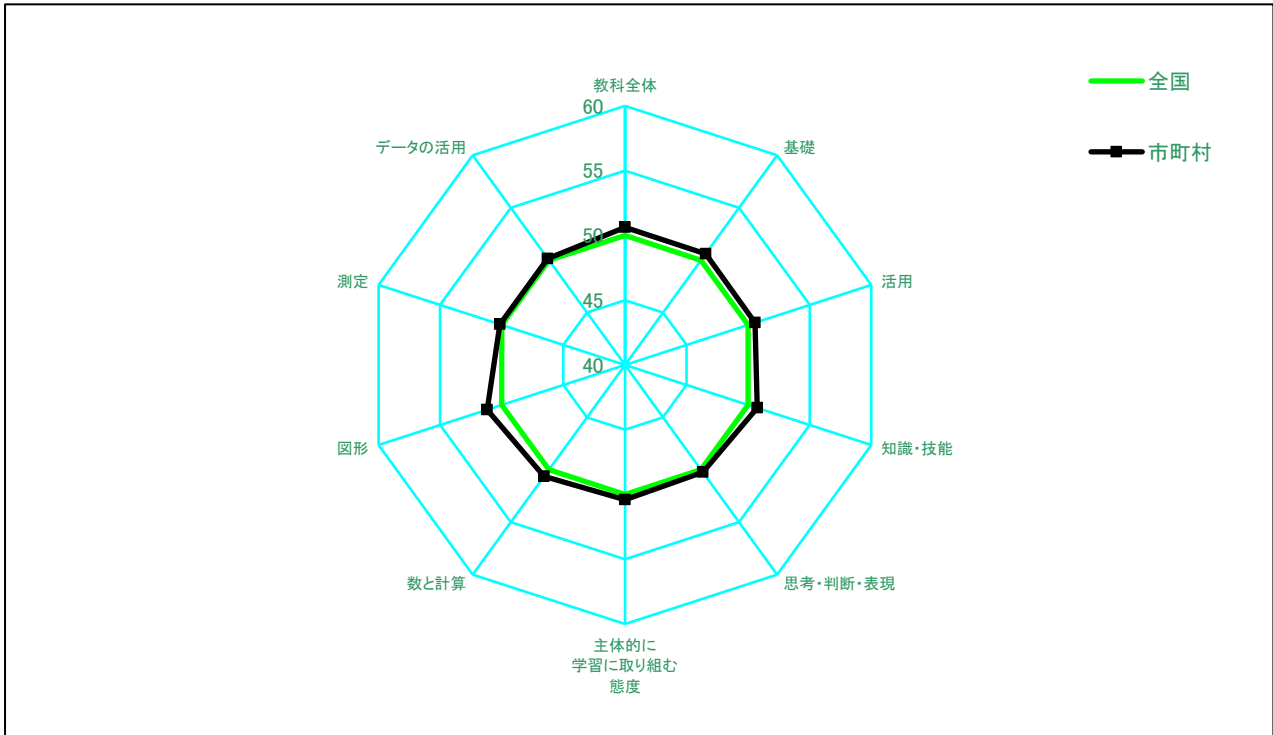
【強みと弱み】

- 基本的な計算技能が概ね身に付いている。
- 乗法九九を用いた文章問題の立式ができる。
- グラフを読み取って表に表したり、人数の違いを読み取ったりすることに課題がある。また、無解答率が高い。
- 図や絵で表されたいくつかの選択肢と設問にある考え方を結びつけることに課題がある。

小学校 4年 算数



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



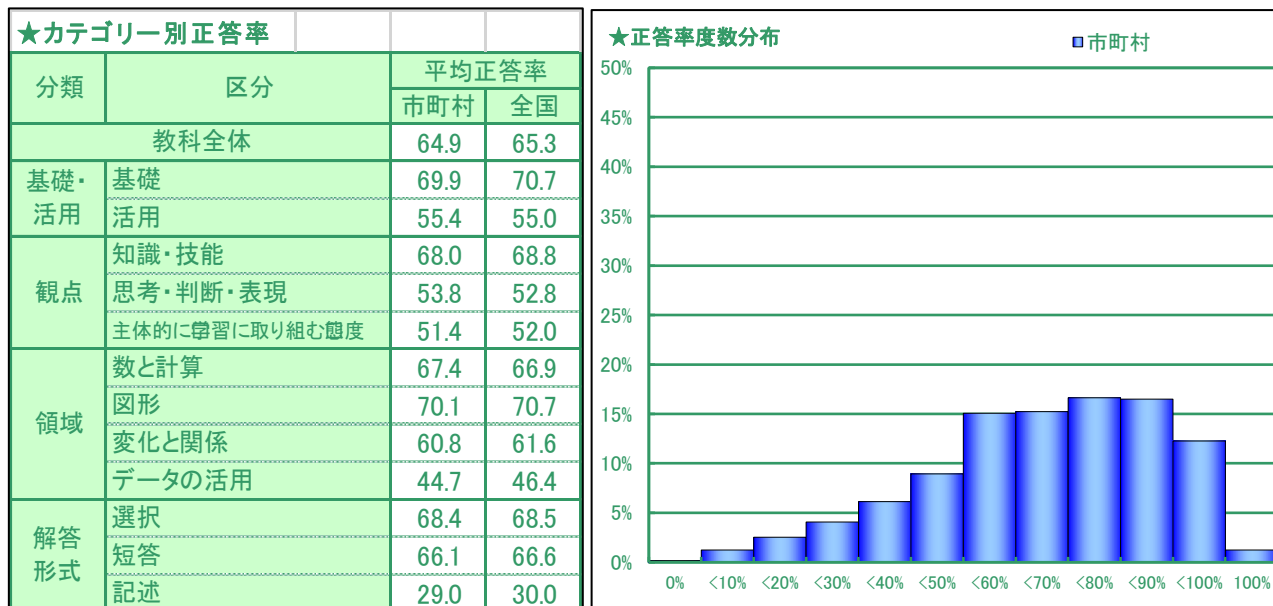
【考察】

- ・教科全体としては、全国平均とほぼ同等といえる。
- ・観点別、領域別のいずれにおいても、すべて全国平均を上回る。
- ・図形領域においては、全国平均を3.6ポイント上回っている。

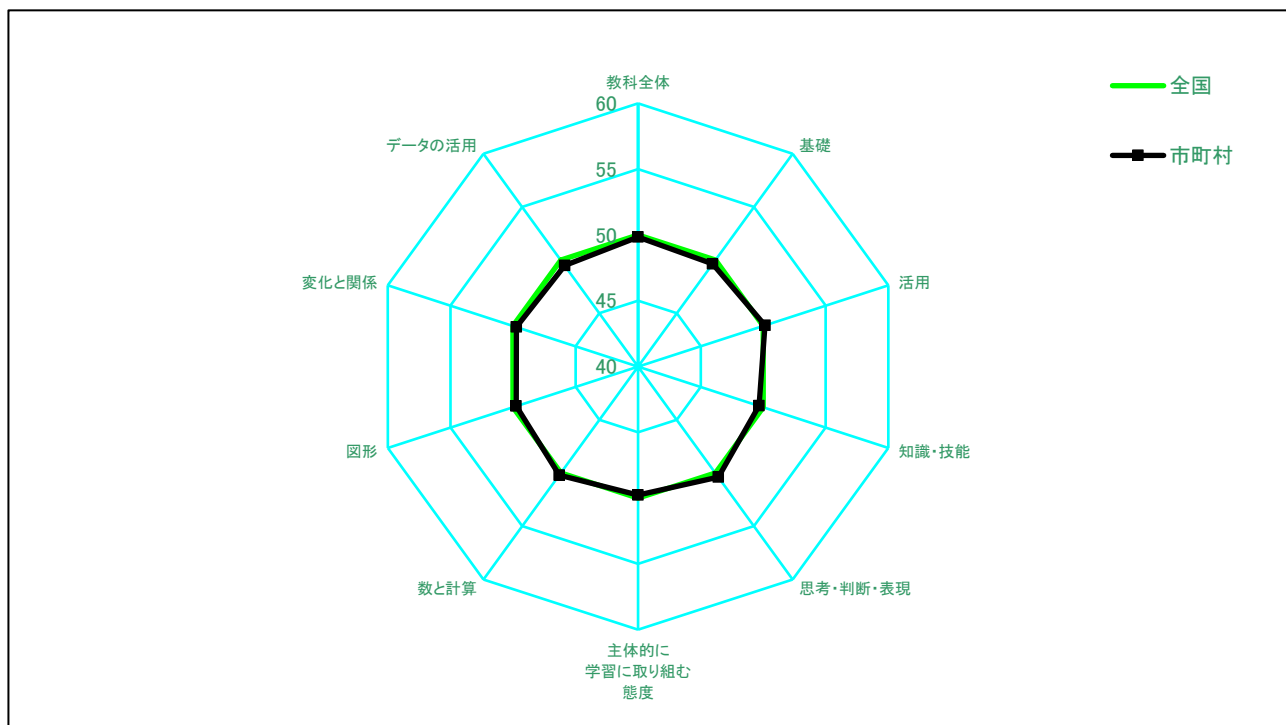
【強みと弱み】

- 「数と計算」領域の基本的な問題については、概ね理解できている。
- 正三角形の作図が全国平均を2.2ポイント上回っている。
- 余りを切り上げて処理する問題では、無解答率が高い。
- 答えの理由を表から考えることに課題がある。

小学校 5年 算数



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

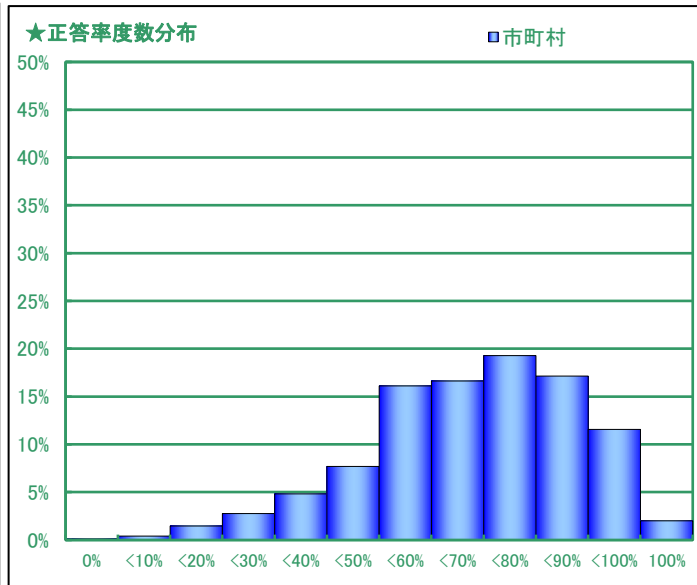
- ・教科全体として、ほぼ全国と同等である。領域で見ると、「数と計算」だけ全国平均を上回っている。
- ・正答率60～90%の各階級が、概ね 15%程度で散らばっている。

【強みと弱み】

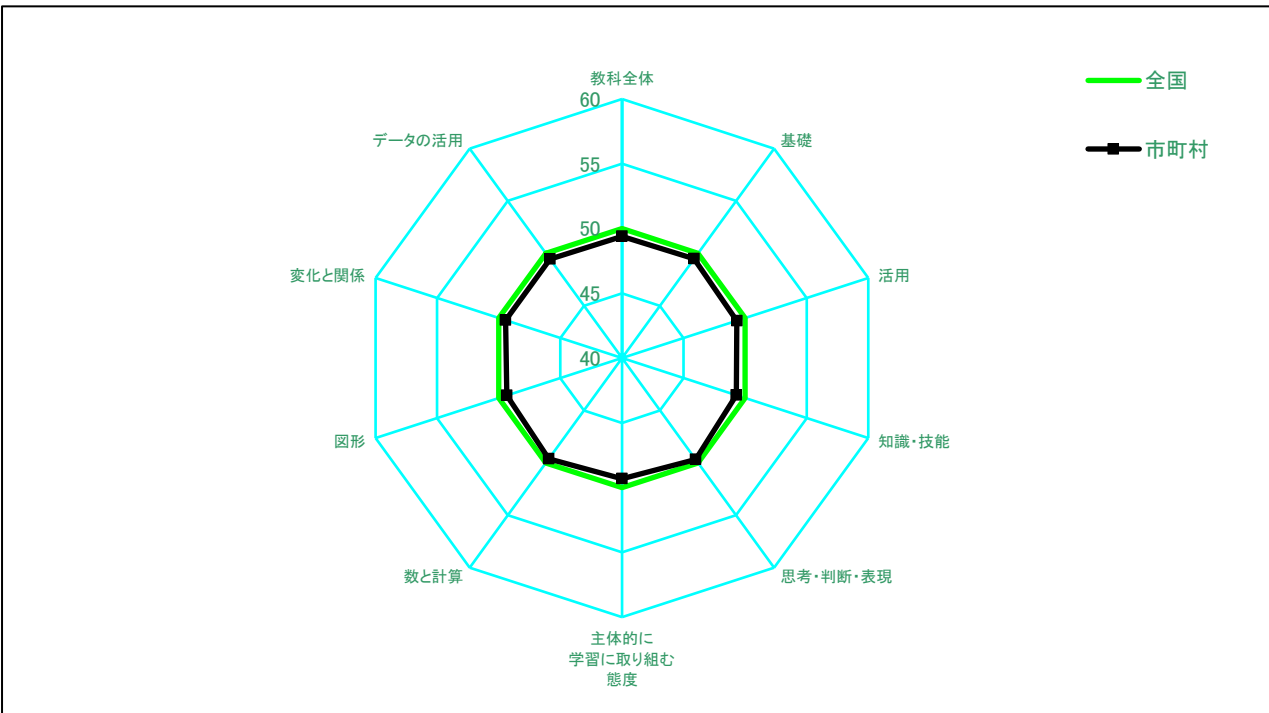
- 「面積」に関する問題について、3問とも、全国値を上回っている。
- ひし形の作図やともなって変わる2量の関係を式に表すことについて、全国値より5ポイント以上下回っており、課題と言える。

小学校 6年 算数

★カテゴリー別正答率			平均正答率	
分類	区分	平均正答率		
		市町村	全国	
教科全体		67.6	68.8	
基礎・活用	基礎	72.7	73.8	
	活用	52.1	53.8	
観点	知識・技能	73.3	74.8	
	思考・判断・表現	56.6	57.3	
	主体的に学習に取り組む態度	50.5	52.3	
領域	数と計算	67.0	67.8	
	図形	71.6	73.1	
	変化と関係	65.1	66.5	
	データの活用	62.3	63.8	
解答形式	選択	71.7	72.6	
	短答	68.3	70.3	
	記述	24.4	24.2	



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

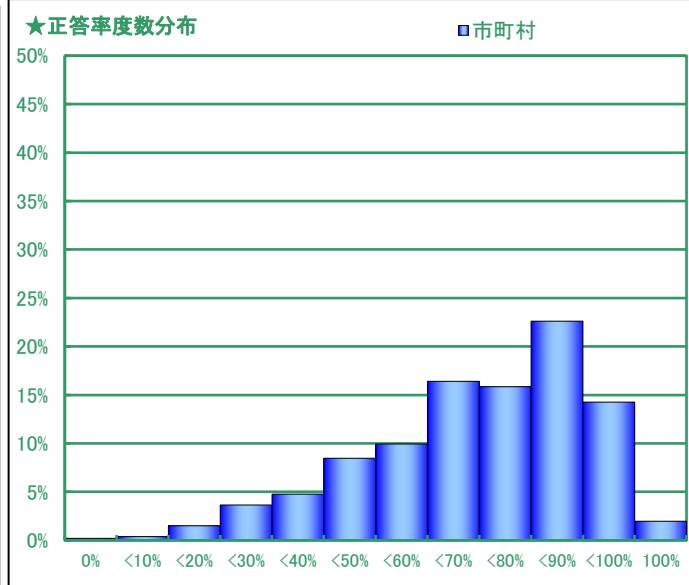
- ・教科全体として、全国平均を下回っているといえる。
- ・観点別において、全国平均を0.7～1.5ポイント下回る。
- ・各領域において、全国平均を0.8～1.5ポイント下回る。
- ・解答形式別に見ると、記述による解答が、全国平均を上回っている。

【強みと弱み】

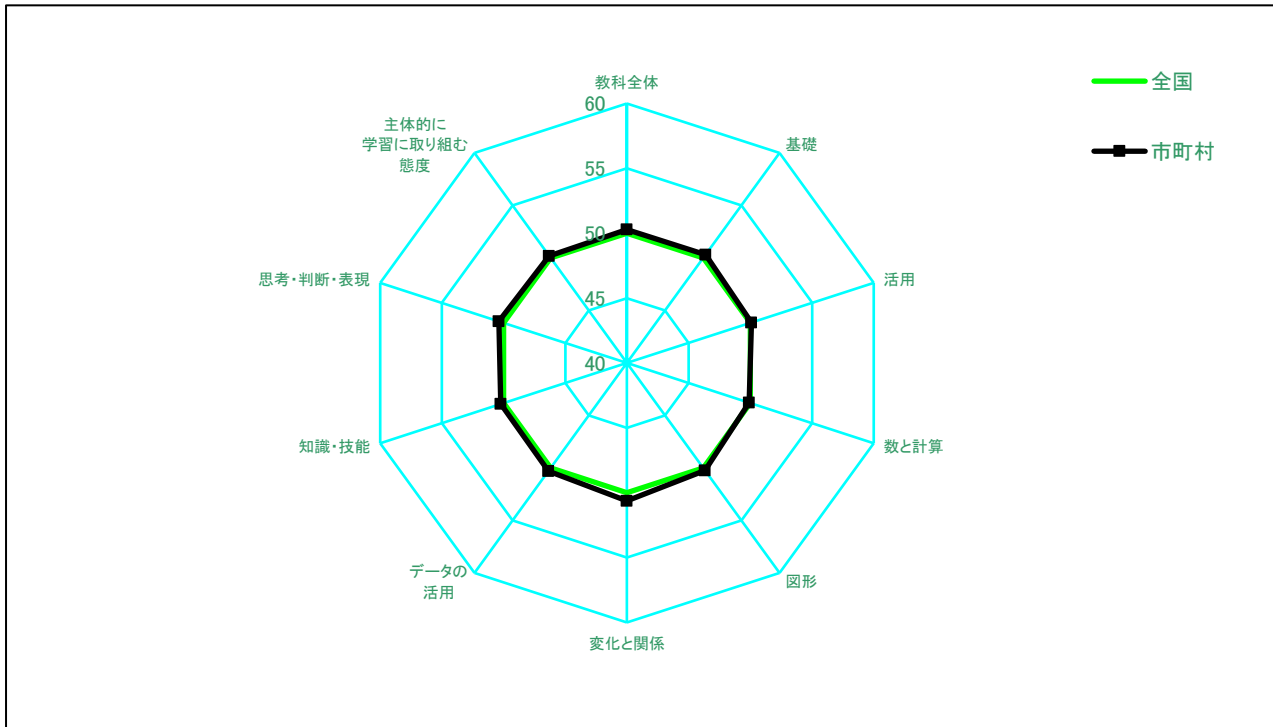
- 人口密度を求める問題において、全国平均を2.0ポイント上回っている。
- 全国平均を2点以上下回る設問は8問あり、領域や難易度を問わず存在している。
- 「単位量あたりの大きさ」に関する5問の正答率は平均して全国平均と2.1ポイントの開きがあり、最も課題がある。

中学校 1年 数学

★カテゴリー別正答率				
分類	区分	目標値	平均正答率	
			市町村	全国
基礎・活用	教科全体	68.3	68.8	68.2
	基礎	71.4	72.5	71.8
	活用	55.7	54.2	53.9
領域	数と計算	76.4	76.1	76.3
	図形	67.5	70.3	69.7
	変化と関係	61.3	60.5	58.9
	データの活用	65.0	65.7	64.9
観点	知識・技能	71.3	71.9	71.5
	思考・判断・表現	58.1	58.3	57.3
	主体的に学習に取り組む態度	64.1	63.9	63.4
解答形式	選択	67.9	69.1	68.4
	短答	72.8	73.2	72.8
	記述	35.0	31.2	30.6



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

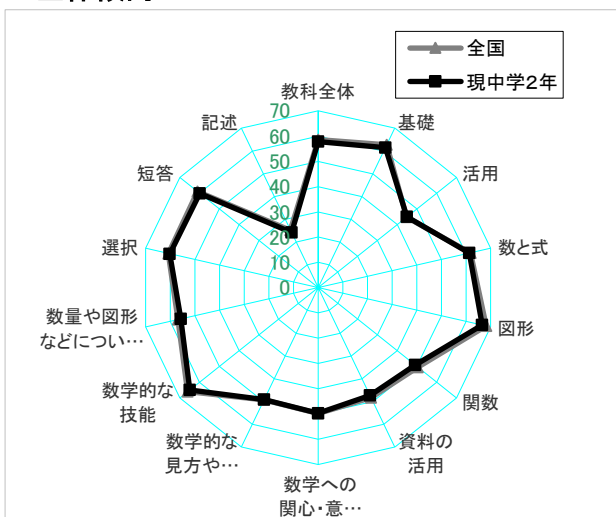
- ・教科全体としては、全国平均正答率とほぼ同等であり、良好な状況である。
- ・特に「百分率」の問題は、全国に比べ高い。反対に、「小数分数の計算」問題は、全国より下回っている問題が多い。

【強みと弱み】

- 「百分率」は全国平均より4.2ポイント上回っている。
- 「時間の単位の違う速さと時間から道のりを求める式を選ぶ」問題では、誤答を選ぶ生徒が正答を選ぶ生徒を上回っている。実生活に結び付けた量感の習得が必要である。
- 「線対称な図形の対応する点を選ぶ」問題では、誤答の点対称の点を選ぶ生徒が多かった。

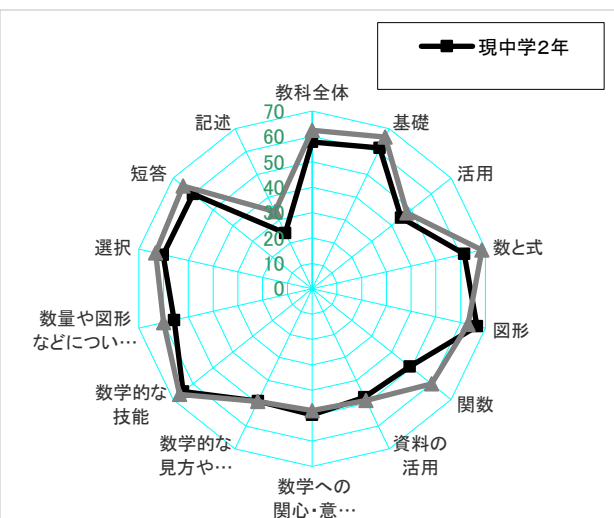
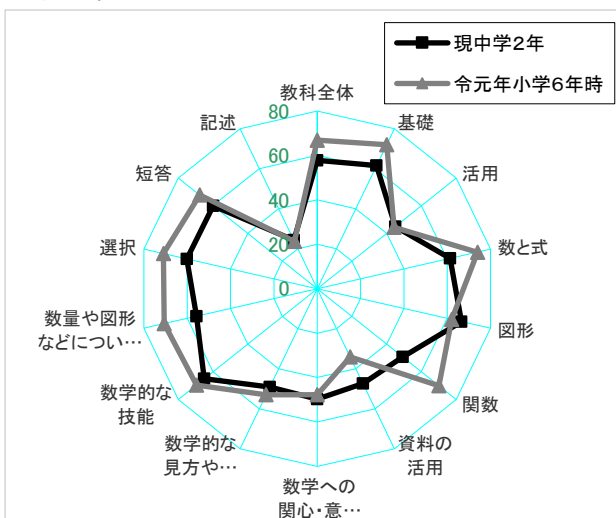
中学 2年 数学

1 全体傾向



- ・教科全体としては、活用問題は全国平均より0.2ポイント上回ったが、その他は0.1～1.6ポイント下回っている。
- ・関数の領域全般および資料の活用における「相対度数」「累積度数」につまずきが見られる。
- ・全国的な傾向であるが、解答形式において、「選択」、「短答」の正答率に比べ、「記述」の正答率は大変低くなっている。

2 経年変化



- ・数学への関心意欲態度は、令和元年度6年生時より若干高い結果となっている。
- ・基礎活用の活用面は、0.6ポイント向上している。
- ・「図形」「資料の活用」においては、1年時よりも向上している。
- ・「関数」の領域は、およそ21ポイント下回った。

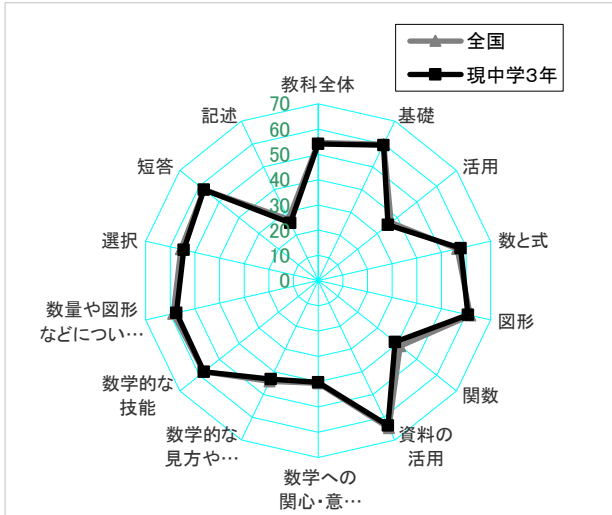
- ・令和元年度中学2年と比較すると、教科全体で多くの項目で下回っている。
- ・図形分野では上回っている一方で、関数分野ではつまずきが見られる。

3 強みと弱み

- 最頻値を理解し、正しい表を選ぶ問題では、全国平均を3.7ポイント上回った。
- 相対度数および累積度数を求める問題では、それぞれ6.4ポイントと3.3ポイント下回っており、実際にデータを比較・検討したりする中で、知識・技能を活用する機会を作る改善が必要である。
- 関数の領域では、令和元年度の2年生より11ポイント下回っている。式・表・グラフを関連付けて、ともなって変わる2つの変数を比較・検討する機会を増やす必要がある。

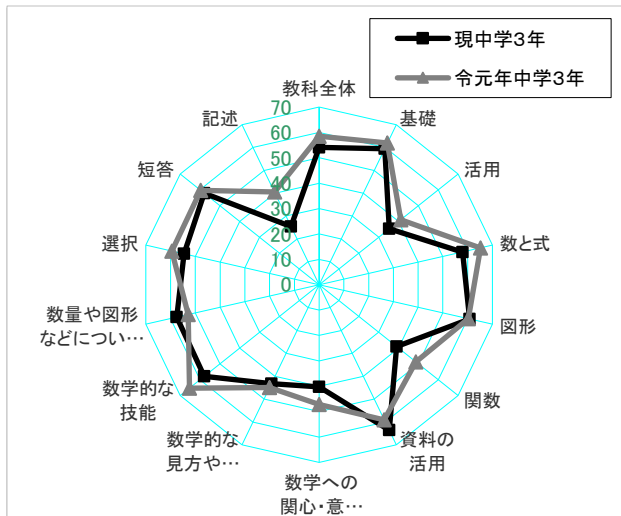
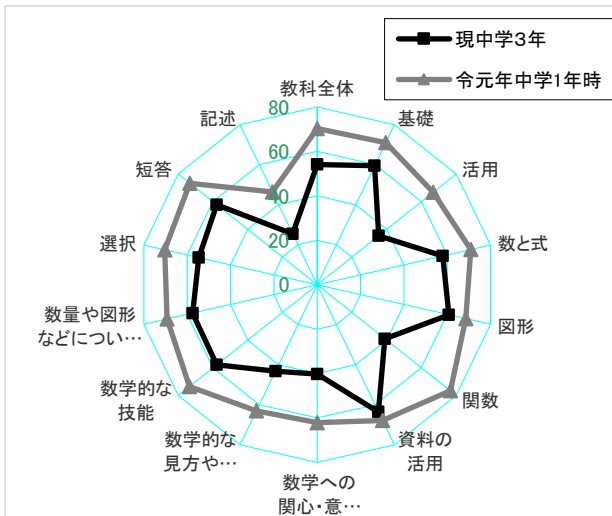
中学 3年 数学

1 全体傾向



- ・教科全体としては、数と式の領域で全国平均を上回っているが、その他は2.5ポイントの範囲内で下回っている。
- ・領域別に見ると、「数と式」において、全国平均より上回っている問題が7問あり、基本的な計算技能が身に付いていると言える。
- ・「関数」、「資料の活用」領域は、各問題で3.7ポイントの範囲内で、全国平均を下回っている。

2 経年変化



【コメント】

- ・令和元年1年時と比較すると、全体的に下回る傾向がある。特に基礎と活用の活用面と関数については、大幅に下回る。
- ・資料の活用については、やや下回るが、他の領域や観点に比べ、下回り方が小さいといえる。

【コメント】

- 令和元年度3年と比較すると、数量や図形などについての知識理解および資料の活用の領域は上回っている。
- その他は、下回っており、特に記述式の問題と関数の領域に課題が認められる。

3 強みと弱み


- 「2つの文字を含む式の値を求める方法について理解し、よりよく問題解決できる方法を判断する」問題が、全国平均より6ポイント上回っている。
- 「二つのサイコロを投げる時の確率を求める」問題は、昨年度より向上し、全国平均も上回っている。
- 記述式の問題では、令和元年度の3年生より15.1ポイント下回っており、授業の中で説明を記述させる機会を増やす必要がある。
- 関数の領域では、令和元年度の3年生より9.7ポイント下回っている。式・表・グラフを関連付けて、ともなって変わる2つの変数を比較・検討する機会を増やす必要がある。

(1) 単元名 『かけ算』


(2) 本単元についてのつまずき

① 調査問題

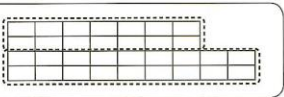
みさきさんは、スーパーマーケットの売り場にならんだ、おかしについて考えています。



みさきさんは、おかしが何箱あるか、次のように考えて求めました。



上と下の2つに分けて
考えました。



みさきさんの考えた式は、1～4の中のどれですか。

<p>1 $4 \times 7 = 28$ $2 \times 2 = 4$ $28 + 4 = 32$</p>	<p>2 $2 \times 8 = 16$ $2 \times 8 = 16$ $16 + 16 = 32$</p>	<p>【選択肢別出現率】</p> <p>①9.0 ②5.2 ③57.8 ④9.2</p> <p>無解答 16.5</p>
<p>3 $2 \times 7 = 14$ $2 \times 9 = 18$ $14 + 18 = 32$</p>	<p>4 $2 \times 7 = 14$ $3 \times 6 = 18$ $14 + 18 = 32$</p>	

② つまずき仮説

日常的に、以下2点の経験が不足していると考えられる。


- ア. 図と式を関連付けて考えること
- イ. 他者の考えを読み解くこと

(3) 実態解消に向けた指導例

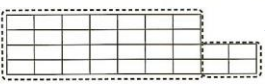
問題提示→自力解決→比較・検討→まとめ という、一般的な問題解決のプロセスでは、児童が個々に解決方法を考え、それらを全体で共有し一般化する、という活動だけに陥りがちである。

つまずきを解消するには、自力解決後に、意図的に以下のような活動を取り入れるとよい。

★児童の考えを表した図だけを提示し、その図に対応した式を考えさせる。




右と左の2つに分けて
考えました。



ゆうとさんの考えを
式に表しましょう。

★児童の考えを表した式だけを提示し、その式に対応した図を考えさせる。

<p>$3 \times 3 = 9$ $2 \times 3 = 6$ $4 \times 3 = 12$ $9 + 6 + 12 = 27$</p>		<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>左の式はどのように考えたのかな？ 図に分け方を書きましょう。</p> </div>
--	---	--

(1) 単元名 「わり算を考えよう」

(2) 本単元についてのつまずき

◇出題のねらい「問題場面に応じた商や余りの処理ができる」

◇出題例

ケーキが23こあります。1箱に4このケーキを入れていきます。全部のケーキを入れるには、箱は何箱あればよいでしょうか。

◇多い誤答 ・5箱 ・5あまり3箱 ・5.3箱 ・8箱

◇つまずき仮説

- ①あまりの意味を理解していない。
- ②問題のイメージが持てていなく、あまりの処理ができない。

(3) 実態解消に向けた指導例

①素材提示場面でイラスト用いて、豊かに場面想像ができるように支援する。



②具体物の操作や図でかくなどして、余りを明らかにする。あまりの処理について視覚的にわかるようにして、考えるべきことを焦点化して支援する。

③立式の際には、式に単位をつけて、あまりが何を表しているのか、式のうえでもわかるように支援する。

$$\begin{array}{ccccccc}
 23 & \div & 4 & = & 5 & \text{あまり} & 3 \\
 \text{個} & & \text{個} & & \text{箱} & & \text{個}
 \end{array}$$

(4) ICT との関連

- ・素材場面と同じような様子を iPad やタブレットで撮影し、問題づくりを行う。
- ・アプリを利用して写真に囲み線を記入させるなどして、授業と同じ流れで思考できるようにさせる。

(1) 単元名 『単位量当たりの大きさ(速さ)』

(2) 本単元についてのつまずき

① 調査問題

ア. 500m を 25 秒で走る馬の速さは秒速何 m ですか。 【R3 柏市平均正答率】 77.4%

イ. 分速 300m と同じ速さは次のうちどれですか。答えを1～4から一つ選びましょう。
 1 秒速 30m 2 秒速 50m 3 時速 18000m 4 時速 30000m

【選択肢別出現率】 ①17.6 ②19.4 ③46.3 ④10.4

② つまずき仮説


アの問題については、「秒速＝1秒間あたりに移動する長さ」と理解できていれば、計算過程でつまずくことは少ないと考える。約2割の児童は、「速さ＝単位時間あたりに移動する長さ」として捉えることができていない。


イの問題については、アの問題の理解を前提とする。その上で、さらに、つまずき仮説として以下の2点をあげる。


- ・分速と秒速, 時速という異種の速さを, どのように比べればよいか分からない。
- ・「単位とする時間を揃えればよい」ということは理解できるが, 正しく変換ができない。

(3) 実態解消に向けた指導例

● 「混み具合」と共に, 単位量当たりの学習では, その概念を理解することが重要となる。

* 秒速 10m 1秒間で S $\xrightarrow{10m}$ G 

* 分速 10m 1分間で S $\xrightarrow{10m}$ G 

* 時速 10m 1時間で S $\xrightarrow{10m}$ G 

教室の横の長さより少し長い距離を
 1秒間で…速い!
 1分間で…のろのろ
 1時間で…動いてるの?

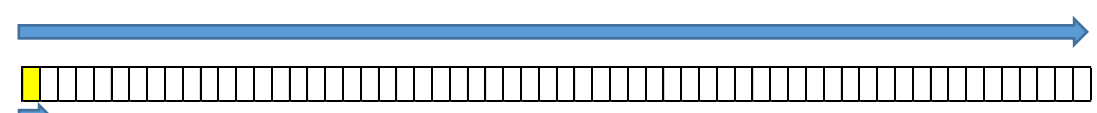
● 速さを比べるには, まず, 「長さ」や「重さ」などを例に, 『揃える』という見方を想起させたい。

1m80cm と 210cm では
 どちらが長いかな,
 どのように比べたかな?

分速 300m と秒速 50m を比べるには,
 何を揃えないといけないかな?



● 秒速を分速に変換するには, 下記のような図が有効である。



1 秒間に進む距離 (50m) 1 分 (60 秒)

1 秒間で 50m 進む。1 分間で何 m 進むかを考える。
 1 分 = 60 秒だから, 50m の 60 倍と考えればよい。

(1) 単元名「1次関数」

(2) 本単元をつまずき

『1次関数の関係を表す表から, その式を求めることができる。』

『1次関数の式から, そのグラフをかくことができる。』

(3) つまずき解消に向けた指導例

1次関数について理解し, 表, 式, グラフを関連付けて表す。

教科書p.81の1次関数の表と式とグラフの関連付けを意識して問題に取り組みさせる。

○p.84の問3 右の図の直線①～④を求めなさい。

- ・グラフから傾きと切片を読み取り, 解く
- ・2点を式に代入して連立方程式を利用して解く
- ・表を用いて解く

3つの解答を比較し, 表・式・グラフを関連付けて, どれを用いても解答を導き出すことができる関数の特徴を理解し, それぞれの考察方法や表現方法を習得させる。

○p.85の例4 2点(-4, 1)(2, 4)の直線の式を求めなさい。

- ・例4の解答のようにグラフを書いて解く
- ・問5の解答のように式を用いて解く
- ・表を用いて解く

3つの解答を比較し, 表・式・グラフを関連付けて考える有用性に気づかせ, 上記2つが本質的には同じ問題であることを理解させる。

○1次関数の式 $y=2x-3$ となる様々な問題を作り, 共有する。

思考力, 判断力, 表現力等の育成のために・・・

○表, 式, グラフによる関数の考察方法や表現方法を習得させること。

関数の変化や対応の特徴を考察し理解する上で, 表・式・グラフを相互に関連づけていく。

○数の範囲を負の数にまで拡張した上で, 関数の特徴を具体的に見いだすこと。

比例, 反比例, 1次関数の違いに触れ, 関数のグラフの増減の様子を対比させながら, 関数の特徴を理解させる。

小学校では, 表などを用いて関数の関係を調べたり, その関係を式で表現したりするなど学習してきました。

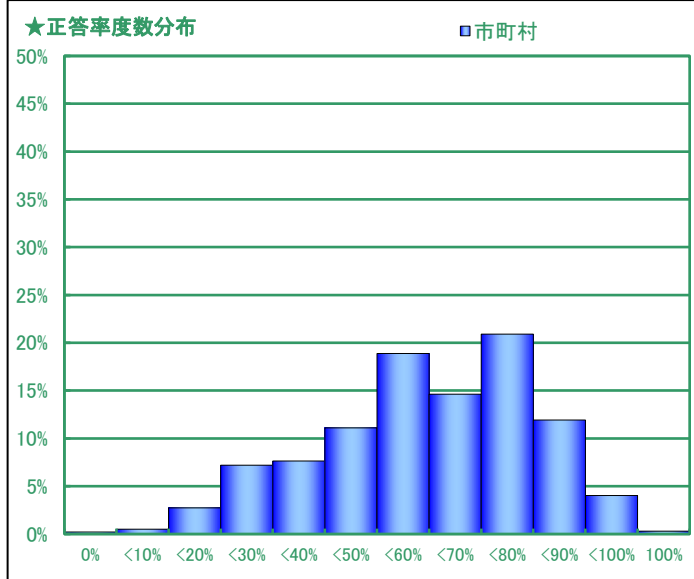
中学校では, 関数関係にある数量をもとに, 捉えにくい数量を求めるという関数的な見方・考え方のよさを実感させていきましょう。また, 日常の中で, 厳密には比例ではなくても, 比例とみなして問題解決や未知の状況を予測する場合があります。こうした考えの重要性や有用性についても認識させるようにしましょう。

いろいろな例を取り上げ, 身の回りの関数の関係について, 数学的に考察しようとする態度を育てていきましょう。

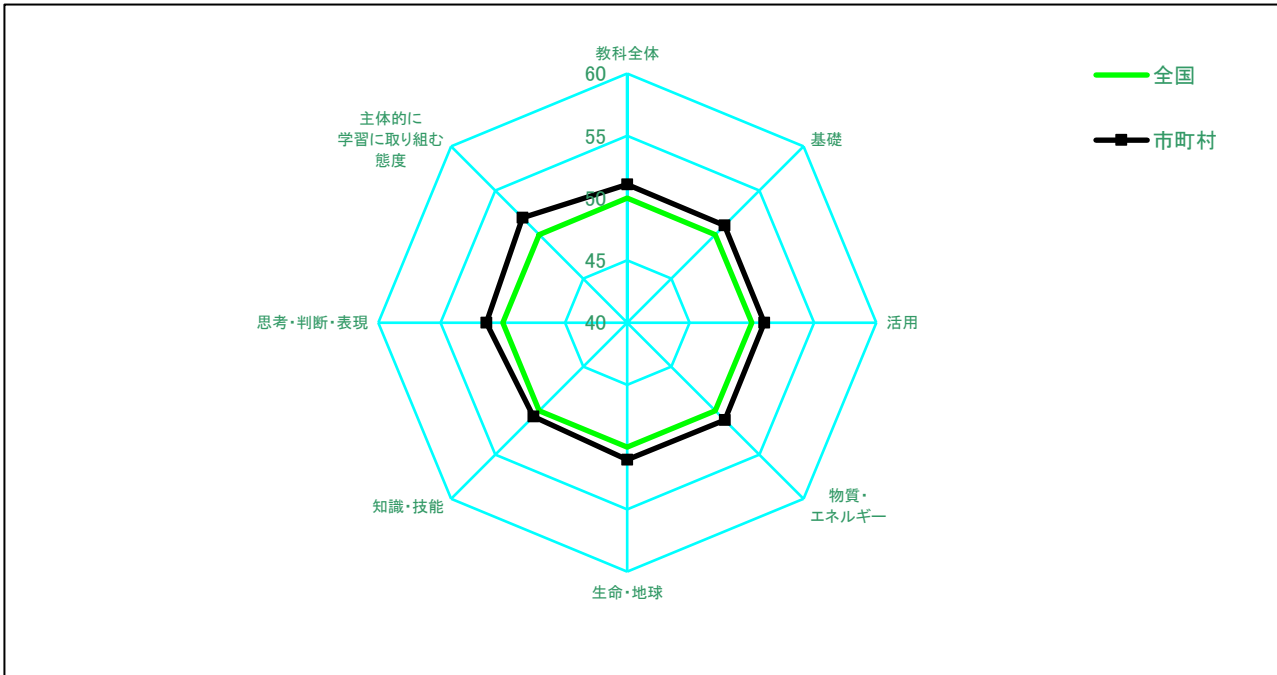


中学校 1年 理科

★カテゴリー別正答率				
分類	区分	目標値	平均正答率	
			市町村	全国
基礎・活用	教科全体	58.2	59.5	57.2
	基礎	60.0	61.5	59.2
	活用	53.3	54.1	51.6
領域	物質・エネルギー	59.6	59.9	57.3
	生命・地球	57.5	59.3	57.2
観点	知識・技能	58.2	57.3	55.7
	思考・判断・表現	58.3	61.1	58.3
	主体的に学習に取り組む態度	53.3	62.6	56.0
解答形式	選択	59.4	62.5	60.1
	短答	58.9	58.6	56.6
	記述	48.3	46.9	43.5



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

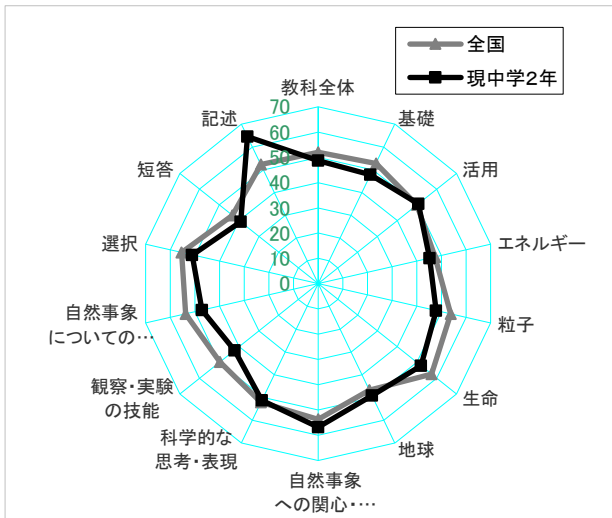
- ・全体として、全国を2.3ポイント上回っている。
- ・解答形式が記述の問題のみ、全国と同等の結果である。

【強みと弱み】

- 水中の小さな生物の例を理解している。
- 植物と動物の呼吸と光合成による気体の出入りについて正しく考察している人を考えることができる。
- 豆電球と発光ダイオードの光る時間の長さを調べる実験方法の理由について指摘できる。
- 蒸散の理解に課題がある。
- てこにおける物の重さと距離との関係を説明することに課題が見られる。
- さおばかりがはかることができる最大の重さを考えることに課題がある。

中学 2年 理科

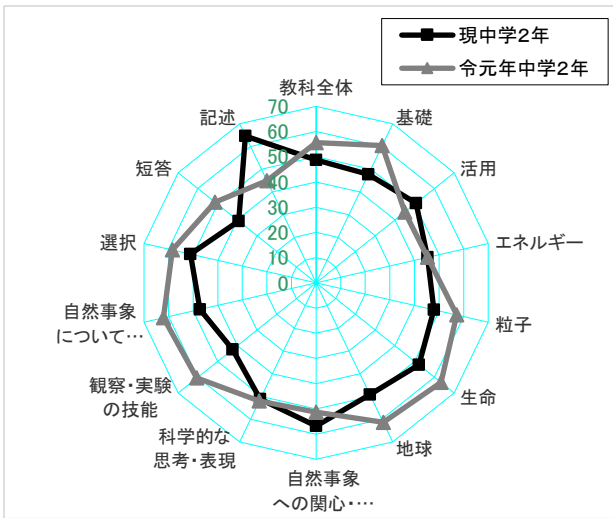
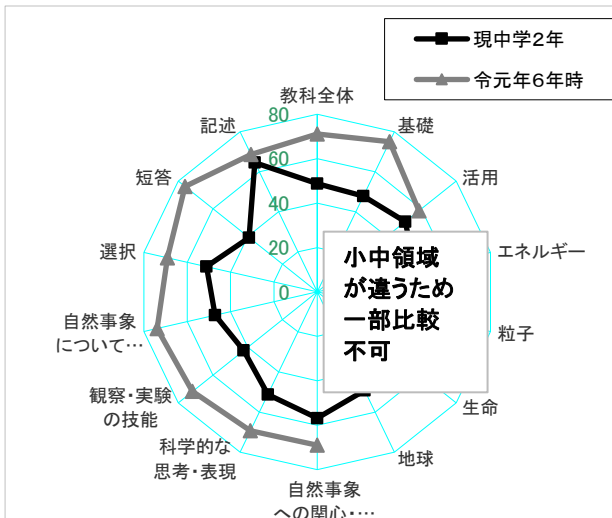
1 全体傾向



【コメント】

- ・全体として、3.3ポイント下回っている。
- ・解答形式が記述の問題で12.3ポイント上回っている。
- ・地球領域で2.5ポイント上回っている。
- ・基礎問題で5.0ポイント下回っている。
- ・粒子領域で5.9ポイント下回っている。

2 経年変化



【コメント】

- ・全体として、7~30ポイントの低下が見られる。
- ・記述の回答については、4.0ポイントの低下が見られるが、他の領域や観点に対して比較的良好である。

【コメント】

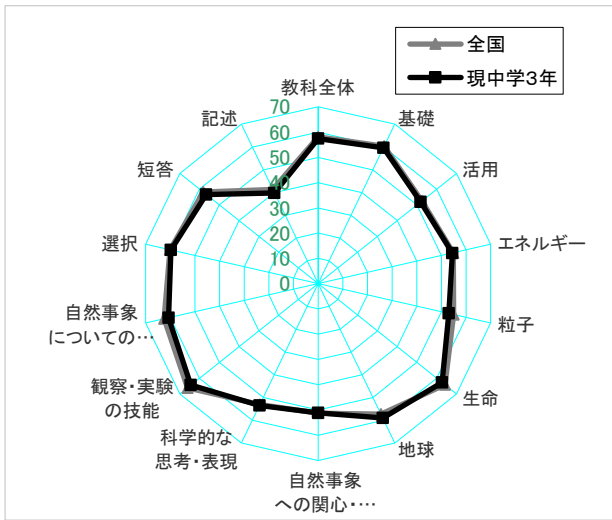
- ・全体として、6.9ポイント下回っている。
- ・解答形式が記述の問題で19.7ポイント上回っている。
- ・自然事象への関心・意欲・態度で5.5ポイント上回っている。
- ・観察実験の技能で18.3ポイント下回っている。

3 強みと弱み

- 体積を求め、密度を求めることで金属を特定することができる。
- 火山岩のでき方を説明することができる。
- アブラナとマツの花で、花粉が出るところを理解について課題がある。
- 水素の発生方法についての理解に課題がある。
- 水溶液の質量パーセント濃度を求めることに課題がある。
- 水溶液をしばらく置いたときの溶質のようすを、粒子モデルを使って考えることに課題が見られる。

中学 3年 理科

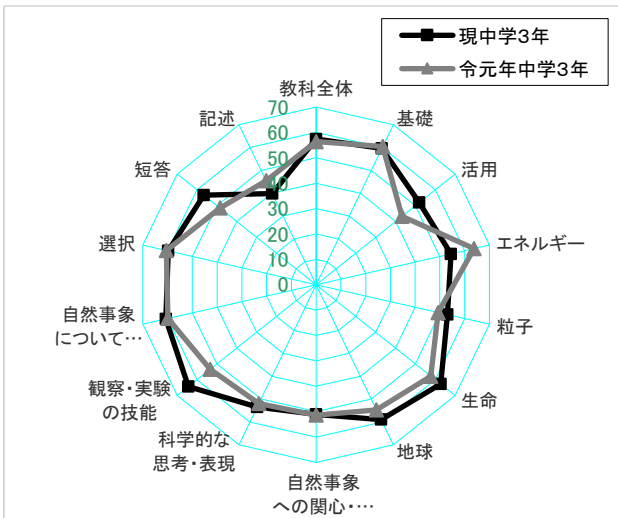
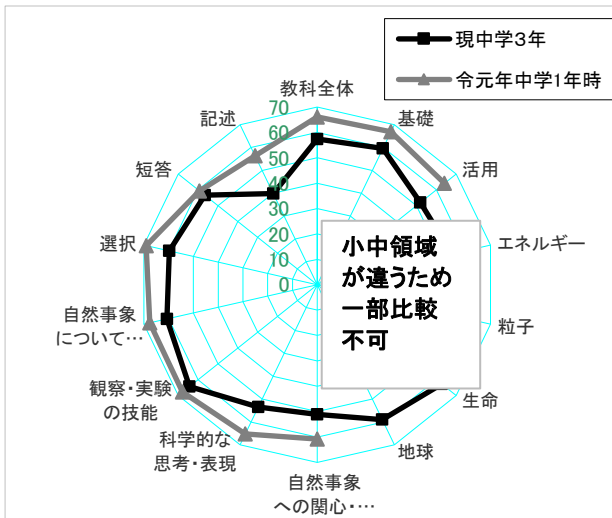
1 全体傾向



【コメント】

- ・全体として, 0. 7ポイント下回っている。
- ・地球領域で1. 7ポイント上回っている。
- ・粒子領域で2. 0ポイント下回っている。
- ・観察・実験技能の観点で1. 7ポイント下回っている。

2 経年変化



【コメント】

- ・記述問題がやや低い傾向が見られる。
- ・観察, 実験の技能については, 若干下回っているが, 他の項目に比べ減少が小さい。

【コメント】

- ・全体として, 1. 0ポイント上回っている。
- ・解答形式が短答で8. 2ポイント上回っている。
- ・解答形式が記述で5. 5ポイント下回っている。
- ・活用で8. 7ポイント上回っている。
- ・観察実験の技能で11. 0ポイント上回っている。

3 強みと弱み

- 鉄と硫黄の反応について正しくない考察をしている人を指摘できる。
- 日本の冬に見られる特徴的な気象について考えることができる。
- 直列回路に加わる電圧, 流れる電流について考えることに弱みがある。
- ICチップのコイルに電流が流れた理由を説明することに課題がある。

(1) 単元名

てこのはたらき

(2) 本単元についてのつまずき

本単元は「さおばかり」に注目して行っている。中学1年生の柏市学力調査の結果を見ると、てこの原理を応用したさおばかりとの共通点を58.5%の生徒が見つめることができている。しかし、さおばかりがはかることができる最大の重さを考える問いでは、15.4%の正答率となっており、正答以外の計算ミスによる誤答が25.9%となっている。正答と計算ミスによる誤答の合計が41.3%であり、共通点を見つめられた生徒58.5%から17.2%の生徒が解答に近づけていない状況である。てこのうでが水平になる条件を実験、体験により主体的に見つけだす必要があると考えられる。

(3) 実態解消に向けた指導例

○学習指導要領との関連

てこの規則性について追究する中で、力を加える位置や力の大きさとてこの働きとの関係について、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。【思考・判断・表現】

○付けたい力

できる限り少人数での実験を行い、条件制御(変える条件、変えない条件)によりわかることを明確にする。

千葉県教育委員会から出されている、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラムを活用し、「見いだす」→「自分で取り組む」→「広げ深める」→「まとめあげる」のプロセスを通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点を加えた授業改善の推進を図る。

実験は授業の目的ではなく、問題を解決するための手段として活用する。

「見いだす」

- ・思考に値する問い(課題設定→問いを作る→疑問を持つ)を設定する。
 - ※「まとめ」が児童の言葉で行えるように逆算して問いを設定する。
- ・てこの実験器にでき限り触れさせる時間を作り、疑問が持てるようにする。

「自分で取り組む」

- ・自分の考えを持つ時間(情報を集める→予想を作る→発表する)
- ・予想するための既習事項を確認する。
- ・てこに触れて疑問に感じたこと、条件制御によりわかることを明確にしたうえで予想する。

「広げ深める」

- ・予想したことを実験により確かめ、自分の言葉で結果を整理し、他者に説明する。

「まとめあげる」

- ・他者の考えを整理する。自分自身の考えの変容と与えられた問いに対してのまとめを自分の言葉で行う。

(1) 単元名

身近な物理現象 光の性質(凸レンズのはたらき)

(2) 本単元についてのつまずき

本単元は光の性質である「直進」と「屈折」に注目して行っている。中学2年生の柏市学力調査の結果を見ると、光源から出た光の道すじを作図で表すことができるかという問いで、43.0%の正答率である。全国の正答率が50.7%というところから、柏市としても苦手な分野となっている。

つまずくポイントとしては、①光は直進することを理解できているか。②光は光源からあらゆる方向に進んでいることが理解できているか。③あらゆる方向に出ている光から凸レンズに入射した「平行な線」「焦点を通る線」「凸レンズの中心を通る線」屈折光の進む道すじを理解できているか。が大切である。誤答では、20.9%の生徒が「平行な線」については正しく表しているが、「焦点を通る線」「凸レンズの中心を通る線」について答えられなかった。

「作図」を実際に使う場面を課題として与え、実験、体験により①～③が活用できる必要がある。

(3) 実態解消に向けた指導例

○学習指導要領との関連

身近な物理現象について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見だして表現すること。【思考・判断・表現】

○付けたい力

凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像のでき方との関係を見だして理解すること。

千葉県教育委員会から出されている、『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラムを活用し、「見いだす」→「自分で取り組む」→「広げ深める」→「まとめあげる」のプロセスを通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点を加えた授業改善の推進を図る。

実験は授業の目的ではなく、問題を解決するための手段として活用する。

「見いだす」

- ・思考に値する問い(課題設定→問いを作る→疑問を持つ)を設定する。
 ※「まとめ」が生徒の言葉で行えるように逆算して問いを設定する。
- ・(例)「凸レンズを半分隠した時の像はどのようになるか。」

「自分で取り組む」

- ・自分の考えを持つ時間(情報を集める→予想を作る→発表する)
- ・予想するための既習事項を確認する。
- ・作図により予想する。

「広げ深める」

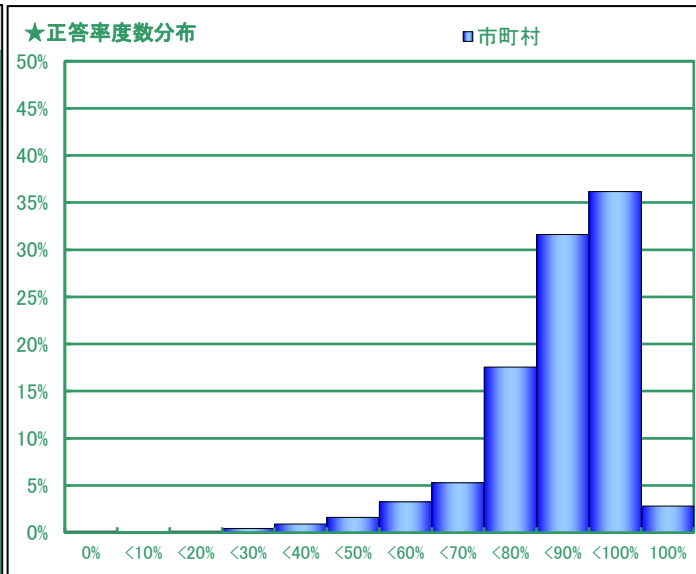
- ・予想したことを自分の言葉で整理し、他者に説明する。

「まとめあげる」

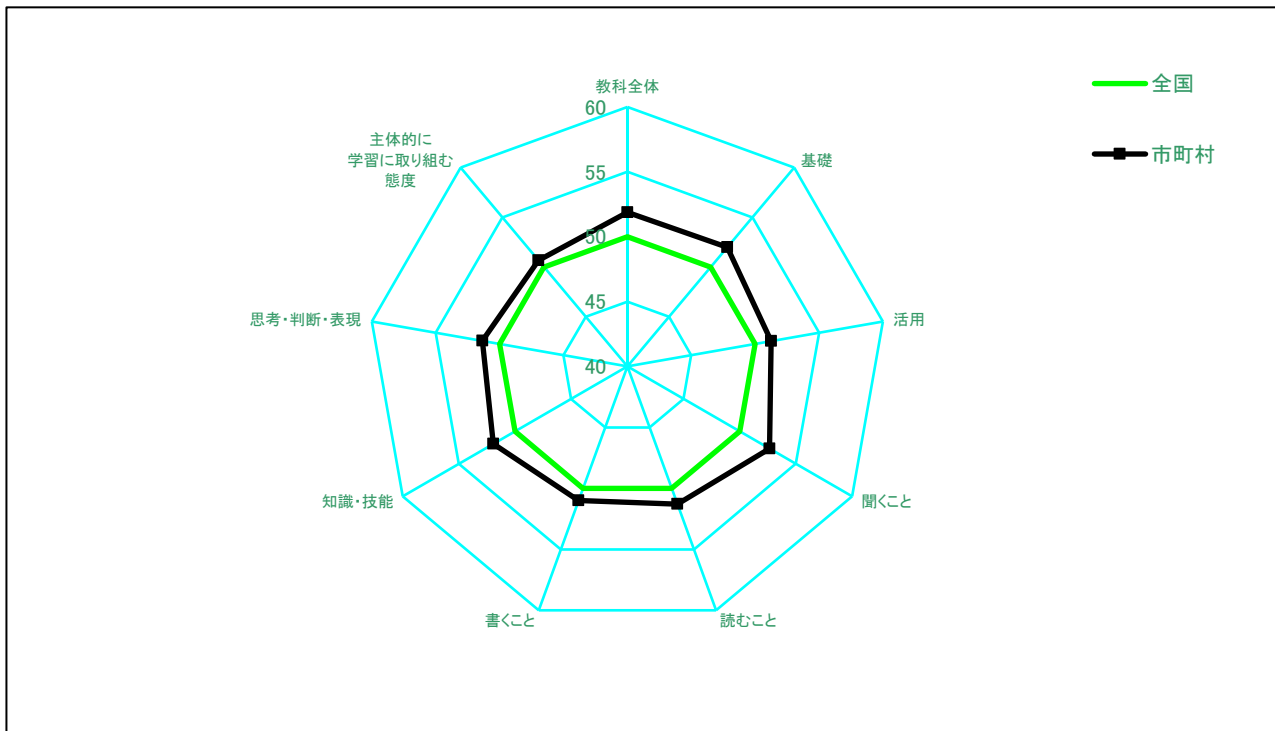
- ・他者の考えを整理し、自分自身の考えの変容を踏まえて、実験により事実を確かめる。
- ・なぜそのような結果になったのかを与えられた問いに対して自分の言葉でまとめる。

中学校 1年 英語

★カテゴリー別正答率				
分類	区分	目標値	平均正答率	
			市町村	全国
基礎・活用	教科全体	78.2	83.7	81.0
	基礎	76.1	82.1	79.1
	活用	83.1	87.6	85.5
領域	聞くこと	74.4	80.8	77.0
	読むこと	81.4	86.8	84.3
	書くこと	80.0	84.7	82.9
観点	知識・技能	74.8	80.7	77.6
	思考・判断・表現	84.1	88.9	86.9
	主体的に学習に取り組む態度	88.6	91.8	90.5
解答形式	選択	77.2	83.0	79.8
	短答	76.4	82.3	80.0
	記述	88.0	91.0	89.5



★標準スコアによるカテゴリー間の比較(各カテゴリーの値は、全国平均を50とした場合の標準スコアを表します)



【考察】

・教科全体の平均正答率は、全国平均をすべて上回っており、軒並み良好である。

＜問題別＞

・「場所を表す表現」を聞き取り、内容を理解することにおいて目標値を下回っているが、それ以外は、すべての問題について目標値より上回っている。

【強みと弱み】

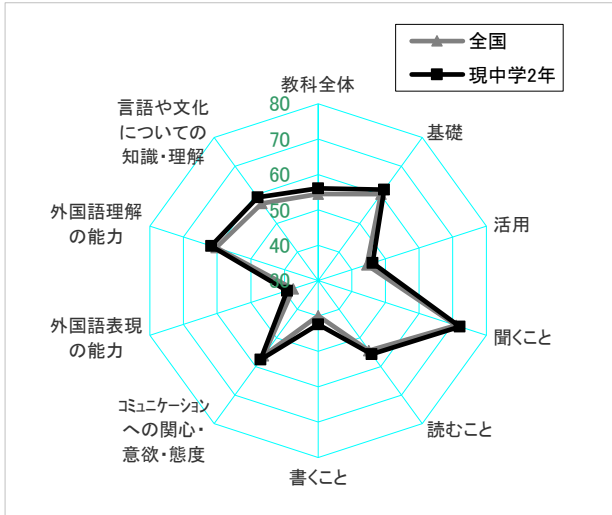
○「音声を聞きながら意味を理解する」ことや、「音声で十分に慣れ親しんだ、英語で書かれた語の意味を理解する」ことについて、大変良好である。

●「活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を身に付けている」ことに、やや弱さがある。

●文字と音を結びつける指導が、小学校高学年から中学1年生初期段階にかけて必要である。

中学 2年 英語

1 全体傾向



【コメント】

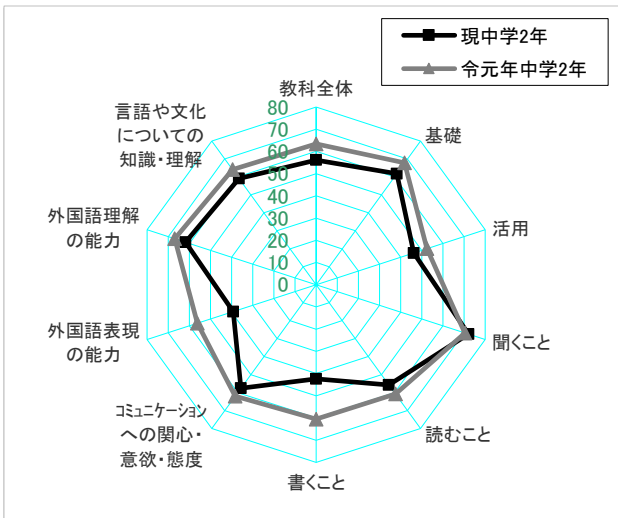
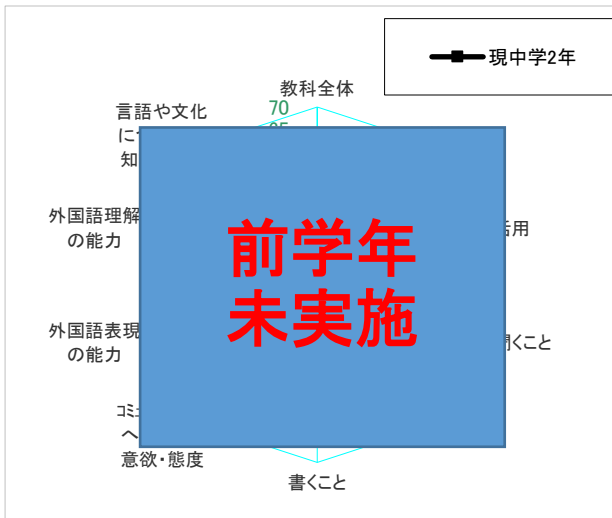
・教科全体の平均正答率は、全国平均をほぼすべて上回っており、軒並み良好である。

＜問題別＞

・長文中の代名詞の読み取りや、読み取った内容をふまえて英文を完成させることなど、思考・判断を伴う長文の読解力について、平均正答率が目標値に比べて、低い。また全国平均正答率と比べても下回っている。

・「情報に基づいて英文を書く」問題や、「まとまった内容で説明する英文を書く」などの正答率が目標値に対して低いものが多く、表現の能力に課題がみられる。

2 経年変化



【コメント】

【コメント】

・すべての項目において、一昨年度より若干低くなっている。依然として、「表現の能力」が弱いという課題がある。

3 強みと弱み

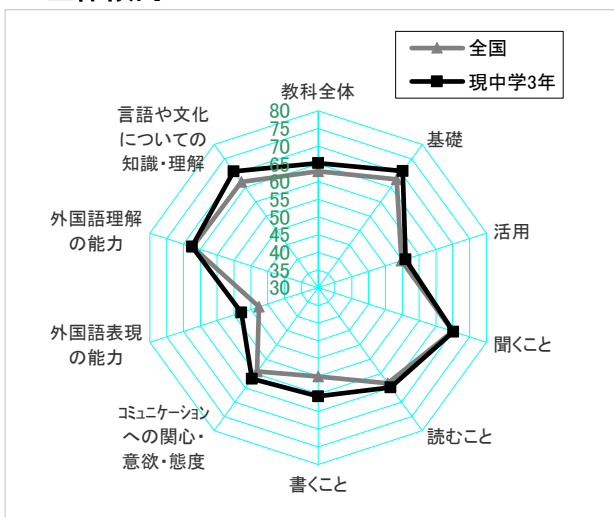
○「語彙・語形・語法の知識・理解」の知識習得に関すること、や、「内容理解」や「対話文の応答」の聞くことによる理解については、良好である。

●「読むこと」や「書くこと」の領域に課題があり、「思考・判断・表現」の資質能力が低い。

●習得した知識・技能を、目的・場面・状況に応じて活用する能力まで伸ばすことが必要となる。

中学 3年 英語

1 全体傾向



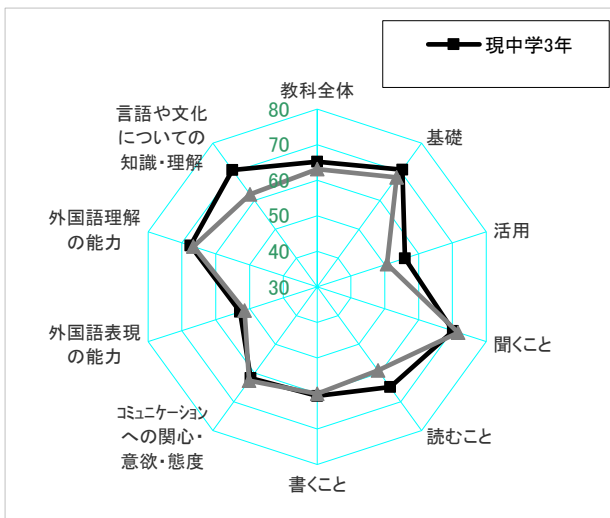
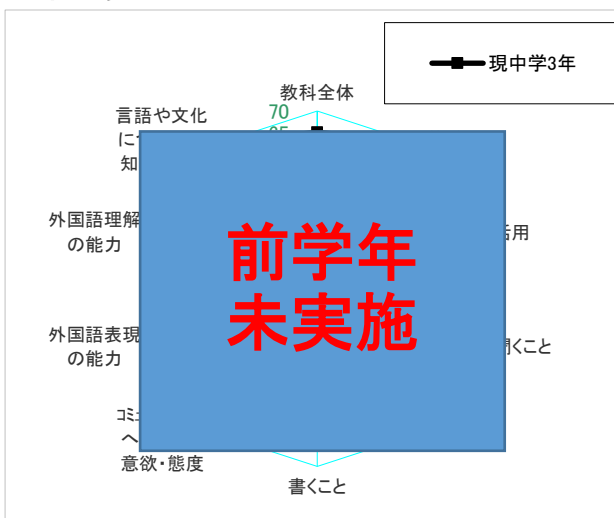
【コメント】

・教科全体の平均正答率は、全国平均をすべて上回っており、良好である。

＜問題別＞

- ・長文中の代名詞の読み取りや、読み取った内容をふまえて英文を完成させることなど、思考・判断を伴う長文の読解力について、平均正答率が目標値に比べて、低い。また全国平均正答率と比べても下回っているものがある。
- ・「場面に応じて書く英作文」において、全国平均と比較して上回っているものの、目標値より低く、表現の能力に課題がみられる。

2 経年変化



【コメント】

【コメント】

・すべての項目において、一昨年度より大きく上回っているものが多い。

3 強みと弱み

- 「語彙・語形・語法の知識・理解」の知識習得に関することや、短い英文や対話文について読むことによる理解については、良好である。
- 長文を「読むこと」や、場面に応じて「書くこと」に課題があり、「思考・判断・表現」の資質能力が低い。
- 習得した知識・技能を、目的・場面・状況に応じて活用する能力まで伸ばすことが必要となる。

(1) 単元名

Reading 1 *Faithful Elephants*

(2) 本単元についてのつまずき

・長文中の代名詞の読み取りや, 読み取った内容をふまえて英文を完成させる, 内容を把握することなど等, 思考・判断を伴う長文の読解力を生徒が身に付けることが難しい。

(3) 実態解消に向けた指導例

○学習指導要領との関連

(2)読むこと ウ

社会的な話題について, 簡単な語句や分で書かれた短い文章の要点をとらえることができるようにする。

○付けたい力

物語などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み, 一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく, 登場人物の行動や全体のあらすじなど, 大まかな内容をとらえることができるようにしたい。

【指導例 1】skimming 的な動詞読み

- ①生徒は, 各セクションの動詞 (be 動詞 / 一般動詞 (現在形・過去形・過去分詞・原形等) のみ, ざっと線をひく。(ヒントとして, 1セクションに何個動詞があるかを先に示してもよい)
- ②動詞の情報だけで, どんな内容かざっと大まかに推測する。
- ③その後, 語彙確認や音読等後に, 1セクションの前半・後半に分けられたものを, 生徒はペアワーク活動で, どんな内容が書かれているか, 逐語訳ではなく, 大まかな概要を「日本語」で互いに説明する。

【指導例 2】英語 *Faithful Elephants* と日本語の「かわいそうなぞう」(金の星社)の内容を読み比べ

Reading 1 *Faithful Elephants* は, 日本の有名な絵本「かわいそうなぞう」(金の星社)の簡易英語版の読み物教材である。

- ①生徒は, 英語版の物語をある程度内容理解した後, 日本語の「かわいそうなぞう」もあわせて読む。各場面に①~⑮の場面をふって, 読み比べをする。



日本語版

- ②グループ活動として, 英語版と日本語版の物語を比較する。日本語版の「かわいそうなぞう」にあって, 英語版には登場しない場面を探す。
(例)日本語版では, 「戦争をやめろ。」と飼育員が言っている場面があるけれど, 英語版にはないなど, 生徒同士が, 英語版と日本語版を読み込んで, 協力して発言することができるよ。

【指導例 3】 Reading から Writing につなげる指導

- ①生徒は、指導例1や2などのステップを踏んだあと、読んだものの概要をつかんで、物語を要約して書くことで再構成する。(初期の段階では、大事な文章を抜き出して、つないでいくだけでもよい)
- ②指導者は「要約のコツ(下欄参照)」などを示したり、モデルを提示したりする。

要約のコツ

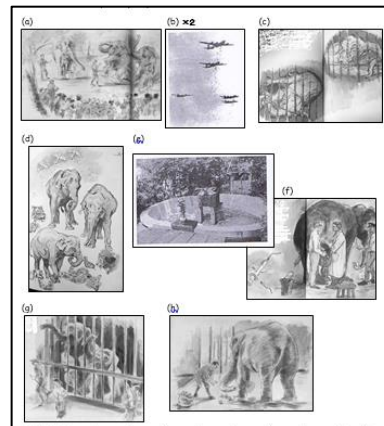
1. テキスト(文章)を最低でも一回通して読む。
2. 『この文章は何について書かれているか』を簡単に頭の中で思い浮かべてみる。文でまとめてみるのもよい。(日本語でも・英語でも)
3. 文章のキーワードにアンダーラインを入れる。(抜き出す)
4. 締めくくりに結び(英文のまとめのなもの)などを盛り込める時は盛り込む。

- ③生徒がよく書くことができた要約については、学級全体にスライド等で示し、どう書くとわかりやすい文章になるかなどを示す。

(4)ICT との関連

[Picture Order]

- ①Classroom で課題を出す。
- ②1枚のスライドに、 *Faithful Elephants* に関する挿絵をランダムに掲載しておく。
- ③生徒は、それを物語の内容順に並びかえる。
- ④答え合わせをする。
- ⑤それぞれの挿絵の内容に合った、教科書の中の重要文やキーワードなどを挿絵の下につけて、物語の内容の流れがわかるようなものに仕上げる。



生活・学習意識調査結果及び学力との関連について

1 調査結果からみえる課題の改善には、学校図書館の活用が不可欠です。

①学校図書館で「読書習慣」

語彙力や漢字を読む力を育成するには、たくさんの生きた言葉に出会うことが必要です。学校図書館を活用して、語彙を増やしましょう。

②学校図書館で「目的に応じた様々な読み」

日常生活では、時と場に応じて、様々な読み方が必要とされます。例えば、「全体を速く読む」「比べて読む」「必要な箇所を素早く見付けて読む」などです。学校図書館を活用して、様々な方法で読む力を鍛えましょう。

③学校図書館で「調べ学習」

学校図書館を活用して、全ての教科領域で、主体的・対話的な調べ活動を行い、学びを深めましょう。

2 学校図書館を「読書センター」から「学習センター」「情報センター」へ

★学び、深まる、図書館から！！

学校図書館を活用した授業を行っている教員の割合は右記のとおりとなっています。新型コロナウイルス感染症の影響か小学校での割合が下がりましたが、中学校では数値が上昇しました。

しかし、活用できる教科が、限定的になっていることはないでしょうか。

そのようなときには、ぜひ「学
「学校図書館を活用した単元例
ましょう。学校図書館の活用方
る教科ごとの単元例が記載されて
ぐっと広がります。

詳しくは
⇒ 学校図書館ONLINE
で検索！！

学校図書館を活用した授業を
行っている教員の割合

【令和2年度】

小:90.0% 中:79.0%

小中:84.5%



令和3年度リニューアルしました！！

★調べ学習を楽しくて力がつく授業にしよう！！

柏市には、学校図書館指導員がおり、時季によって展示本が変わるなど、環境が整っています。学校図書館は、「好きな本を読む場～読書センター～」にとどまらず、「各教科領域の学習における情報収集・活用～学習センター・情報センター～」の機能も兼ね備えています。「知識の宝石箱」である学校図書館は子ども達にとって、「第2の教室」です。

下記の例を参考に、学校図書館を活用した調べ学習を展開してみましょう。

(1) 調べ学習とは

「調べ学習」とは、情報リテラシー教育のことです。ひとつの課題に対して、さまざまな情報・資料を集め、必要な情報を選び出し、自分なりに理解・分析し、わかりやすくまとめ発表する。この一連の流れを、「調べ学習」と考えます。

この「調べ学習」を通して、信用できる情報の選択、著作権の問題など、現代社会を生き抜くために必要な情報モラルも学ばせます。

(2) 調べ学習5つのステップ

1. テーマの設定&資料の確保
2. 動機付け
3. 各自の課題設定
4. 多メディアを活用して調べる
5. 発表(プレゼン・新聞・作文…)

《魔法のことば》

の、なに？

(例) スポーツの歴史、始まり、日光の歴史、修学旅行のお土産

「の、なに？」まで考えていくことで、焦点を絞って調べることができます。



ポプラディアネットを有効活用しましょう！！

(3) 調べ学習の発表の場

「調べ学習」を効果的に進めるには、学習のゴールである「発表の場」が重要です。子どもたちにとって、学んだことが何かの役に立ったり、誰かのためになったり、多くの人の目に触れたりする、「社会に開かれた教育課程」を意識した「調べ学習」にしていけます。

具体的には、地域をテーマとした「調べ学習」の発表を地域の人々へ発信したり、商店街をテーマとした「調べ学習」を踏まえて、実際に商店街の活性化の提案をしたりするような活動です。

また、公益財団法人図書館振興財団が主催する「図書館を使った調べる学習コンクール」の地域コンクールである、毎年10月に開催されている。「柏市図書館を使った調べる学習コンクール」に出品し、「調べ学習」の成果を進んで発表するよう子どもたちに働きかけることも効果的です。

第5回 柏市図書館を使った調べる学習コンクール

学校の図書館や市立図書館を通じて調べたよき作品を発表してみませんか？

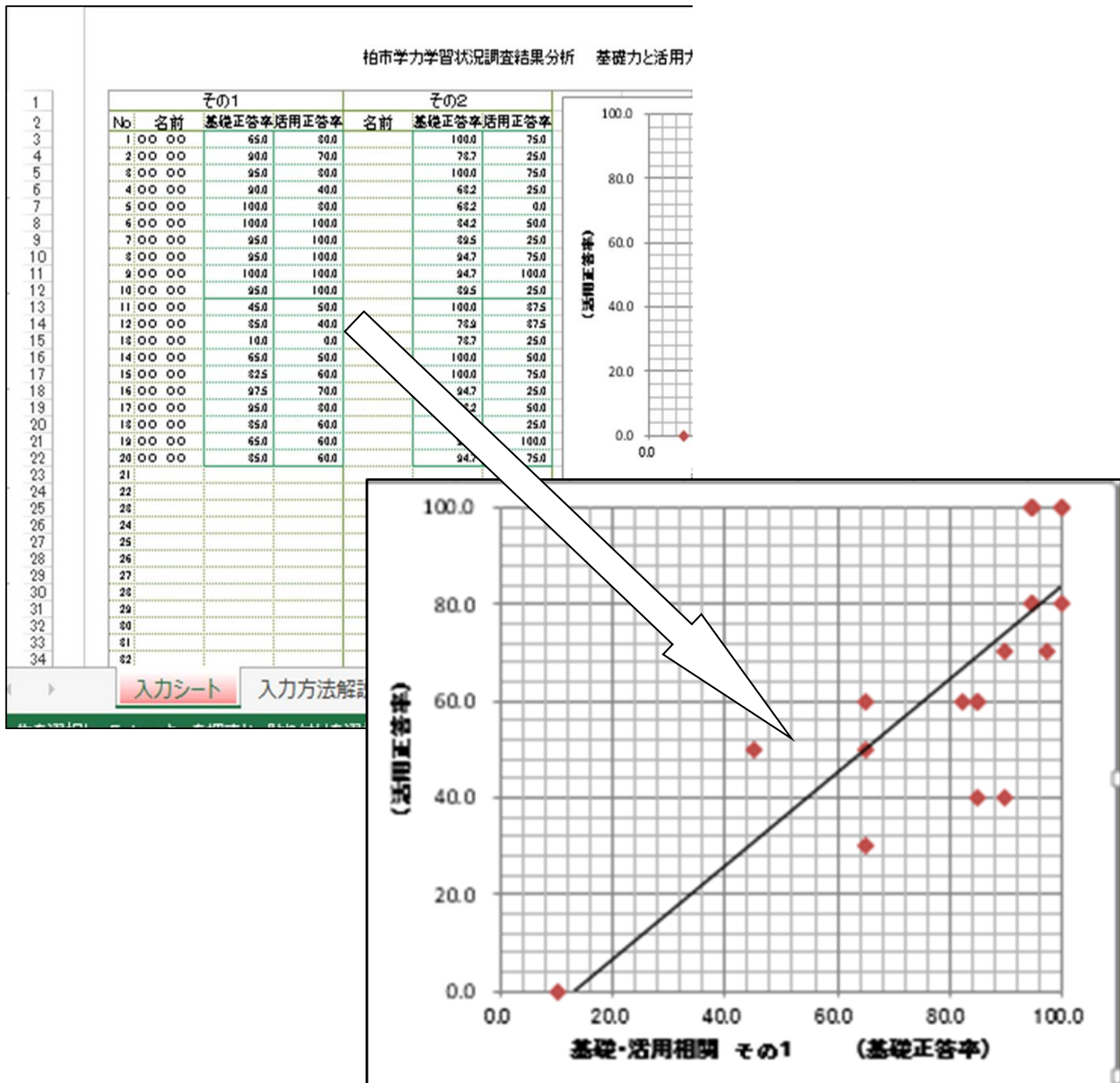
1. 応募できる人
 - 柏市の学校に在籍する小学生、中学生(私立学校含む)、一人ではグループで参加できます。(保護者は学校関係者の方にはできません。)
2. 作品の形式の大きさ、ページ数
 - (1) 冊子の大きさ: 縦向き、A4サイズ(横置き、A5サイズでも可)
 - (2) ページ数: 50ページ以内(表紙、裏紙除く)
3. 応募先と必要書類
 - (1) 応募先: 柏市が所管する部局へお送りください。
 - (2) 必要書類: 応募シート、作品写真(1枚)
4. 審査のポイント
 - 5冊以上の図書館や市立図書館で資料「本」の調べ学習を行っていること。
 - 調べた内容を正確にまとめていること。
 - 調べた内容をわかりやすくまとめていること。
 - 調べた内容を、身近な人に伝える工夫がされていること。
5. 応募しなくても参加できる方法
 - (1) 柏市で実施されている「柏市図書館」の調べ学習コンクールに出品し、その結果を本コンクールに出品する。
 - (2) 柏市で実施されている「柏市図書館」の調べ学習コンクールに出品し、その結果を本コンクールに出品する。

基礎と活用相関関係分析シート利用方法

このシートは、学級ごとに、基礎的な力と活用の力について、学級や一人一人の状況を分析するためのものです。

- ① ファイル名
「基礎と活用相関関係分析シート」
- ② シートは必要数をコピーしてください。
- ③ 各学校に配付された「柏市立〇〇〇学校〇学年①学力 (**) C1.xlsx」より、学級ごとのデータをコピーして貼り付けてください。
- ④ その1, その2の欄は、国語と算数, 昨年度と今年度など, 比較したいデータを組み替えて利用してください。

※ 子供の名前を転記する際には、取り扱いに十分注意をしてください。



令和3年度 柏市学力・学習状況調査

結果報告及び改善案
柏で育む4つのC
「学び続ける力の育成」

編集 柏市教育委員会 柏市立教育研究所
指導課

発行 2021年8月16日